

<1日目-2>

●海ぶどう朝食

帆掛サバニ体験の中間点に、糸満港の南にある静かな砂浜に上陸し、海ぶどう養殖施設に到着。地域料理料理の先生である西 智子氏が迎える。海ぶどうずくと、体験型の45分間の朝食アクティビティ。

海人は漁師という意味であるが、漁業は魚と海鮮だけではなく、沖縄ならモズク、アーサと海ぶどうなど、植物も含まれると説明。海ぶどうの養殖場に入って、自分の朝食「海ぶどう丼」に乗せるものを自らすくって、洗って、自分の好みに丼作りして食す。地産地消へのこだわり、地域の伝統の材料を使うことが地域の活性化につながることを説明した。

今回はマグロの用意が出来なかったが、有識者から、セリ体験とつなぐために、マグロはあった方がいいとアドバイスがあった。



●海人の伝統的木船の船大工に出会う

現在、数人しか残っていない帆掛サバニ大工の大城 清氏を訪れる。実物の制作中のサバニを見て、触って、匂いを嗅いで、製造工程の説明を受けた。地域にとって、サバニが漁具としての重要性を理解した。大工が昔からの知識を次世代に伝承するために、サバニを作り続けたいといけい。漁船として役割を終えたが、今後レジャーボートやスポーツとして生まれかわるように、サバニの愛好家が頑張っている。今回のツアーはまさにそれに貢献していると説明があった。

有識者から、船大工はガイドではないからリアリティがあるが、説明する内容のSCRIPTが多少あった方が体験の価値が高まるとアドバイスがあった。また、船大工と会うのが、サバニに乗る前の方がいいと提案があった。



<1日目-3>

●ミートアップ、ツアーオリエンテーション

奄美大島空港にて、スルーガイドの古株氏（㈱リンクアドベンチャーズ）と合流。ジャンボタクシーに乗りし奄美世界遺産センターへ移動。

車内では英語の奄美大島のパンフレットをもとに本ツアーの行程や見どころ、アクティビティを紹介。奄美世界遺産センターに到着後、マップや生物の展示を見ながら奄美大島の生態系や歴史を説明した。

有識者からは、世界遺産センターでの植生説明とマングローブカヤック（場所は隣接）はセットで実施した方が良いとアドバイスがあった。



●赤土山展望台での自然環境の説明、宇検村役場でのハブ見学

民宿サンゴビーチへの道中に、赤土山展望台にて赤土山の歴史や植生等の奄美の自然を説明した。

2日目の湯湾岳Eバイクサイクリングに向けて、環境省や島の自然環境保全の取り組みについて紹介した。宇検村役場では、村が管理しているハブを見学し、奄美大島で生息するハブの生態系や危険度、本ツアー遭遇時の対策方等を説明した。



●民宿サンゴビーチにてバーベキュー・宿泊

民宿サンゴビーチ到着後、2日目のサイクリング行程や勾配、ギア情報について説明。ギアの故障の懸念があったが、安全に直結するため、入念な事前確認が必要である。夕日を見ながらバーベキューで夕食をとり1日目は終了した。

さんごビーチは目の前が海、さらに家族経営で地域の色々なお話が聞けて満足度が高いが、目の前が海であるのに入る機会がないのは残念だった。そういった時間を設けてはどうか。ツアー初日に民宿泊は、参加者にとって心理的ハードルが高くなりやすいため、事前に施設の説明を行う等対策を講じる必要がある。



<2日目-1>

●朝食（鶏飯）とサイクリング事前説明

朝食は民宿サンゴビーチにて地元郷土料理の鶏飯。海に隣接したロケーションと郷土料理の組み合わせは有識者の評価も高かった。チェックアウト後、サンゴビーチ前にてEバイクのギア、安全管理について説明した。ガイドからは、安全管理として列の固定（運動頻度の高い/経験者を最後尾）や手指示の確認・行程上の留意ルートなど入念な説明ののち、Eバイクサイクリングを開始した。



●湯湾岳Eバイクサイクリング

全行程約25KmのマウンテンEバイクサイクリングの道中では自然や歴史の説明を行いながら一路湯湾岳の山頂を目指す。道中では開饒神社（糖業の始まりとなったサトウキビの苗、黒糖製造技術を江戸時代初頭に中国から持ち込んだ、直川智翁を祀った神社）を参詣した。湯湾岳登山道入り口ではマテリアの滝、奄美フォレストポリスにて小休憩をはさみ、山頂へ。Eバイクの後ろに続く形でジャンボタクシー、民宿サンゴビーチによる代替機運搬車が後援していたが、有識者からはガソリン車が後ろにいると音がうるさく、アクティビティ中自然の音を聞きたいため、後援車はEバイクより前を走る方が良いとアドバイスがあった。アドバイスをすぐに取り入れ、臨機応変に対応できたのは評価に値した。



●湯湾岳山頂にて地元弁当屋の昼食

湯湾岳付近の駐車場にEバイクを置き、登山にて15分ほどで山頂を目指す。登頂後、山頂の広場（ターサ）にて地元のポークサンド弁当にて昼食。スルーガイド古株氏が持参した月桃茶には、沖縄と奄美のつながりも感じられ、有識者からの評価も高かった。海拔0メートルの民宿サンゴビーチから標高694mの行程を展望デッキから眺め、サイクリング行程を振り返る。湯湾釜の登山を通じて、奄美群島国立公園の特別保護地区かつ世界自然遺産エリアでの特別感のある体験であることの理解を深める。



<2日目-2>

● マングローブカヤック体験

Eバイク終了後、奄美世界遺産センターに隣接するカヤック置き場に移動。事前にギア操作や安全管理の説明を行った後にマングローブカヤックを体験した。

午前に山の植生や歴史、午後に海辺の植生（マングローブ）や歴史をアクティビティを通じて理解する機会とした。

マングローブでのカヤック体験は特別感があるものの、繁忙期にはカヤックで渋滞するため、AT顧客層向けに実施する場合は特別感を醸成するため時期や時間の調整が必要である。



● 島料理吟亭島唄体験

ホテルサンデイズ奄美にチェックイン後、屋仁川通りの「島料理吟亭」にて夕食と島唄を体験した。吟亭は料理処で奄美唯一島唄体験を提供しており、聞だけでなく参加型の体験が楽しめる。3日目は文化体験がテーマとなるが、その前段階で島に継承されてきた文化を理解する場となった。提供コースは海鮮がメインのため、甲殻類アレルギーの参加者の有無については確認が必要。



● ホテルサンデイズ奄美

名瀬港に隣接するシティ（ビジネス）ホテル「ホテルサンデイズ奄美」に宿泊。屋仁川通りにも徒歩5分圏内の距離で中心市街地の散策もでき、朝には市場の見学も可能。客室はいわゆる洋室（ベッドルーム）だが、初日の民泊に比べ、チャレンジ要素は低く、参加者にとって安心できる時間となる。無料ランドリーや、サウナ、大浴場もあり、疲れを癒すことができ、有識者からの評価も高かった。朝食buffetも品数も多く、鶏飯もあり満足度は高い。



<3日目-1>

●富田酒造にて黒糖焼酎醸造見学

最初に、ホテルサンデイズ奄美から徒歩5分の距離にある富田酒造場にて、黒糖焼酎の醸造見学を行った。
1951年11月1日、奄美がアメリカ占領下に名瀬の蘭館山の麓で創業した富田酒造は、奄美内でも唯一昔ながらの大甕（540L）での仕込み方法で造りをしている。奄美の黒糖焼酎の成り立ちや、黒糖焼酎の制限、沖縄との砂糖の違い等を説明したのち、大甕での醸造風景を見学した。
行程を鑑みると、午前ではなく午後のツアー行程の最後に組み、黒糖焼酎が飲める場所での夕食体験として提供すると
なお良いと思った。



●大島紬村見学

大島紬村に移動し、1300年の歴史を誇る大島紬の製造風景を見学。大島紬は絹100%、織る前に糸を染める先染めを行い、手織りの平織りで、緋合わせをして織上げたものは「本場大島紬」の名で伝統工芸品に指定されており、「世界三大織物」の1つ（他フランスの「ゴブラン織」、イランの「ペルシャ絨毯」）とも言われている。大島紬ならならではの「泥染」の風景を見学したのち、織師による製造風景の説明があった。
有識者からは、複雑かつ繊細な行程に驚いていた一方で、大島紬村のガイドはその詳細を説明できておらず、質問にも柔軟に回答できるよう知識修得が必要であるとアドバイスがあった。
肥後染色にて泥染体験を行ったが、行程ではどちらかに統一するとなお良かった。



●肥後染色泥染体験

大島紬村で見学した泥染を、肥後染色にて実際に体験しながらオリジナルの洋服づくり体験を実施した。サンプルから好みのデザインを選択し、Tシャツに折り目をつけて染を開始。色付け、脱水を4回繰り返し泥染し完成。実際に体験ができ、作ったものを持ち帰れる点で参加者からの評価も高かったが、現地従業員やスルーガイドによる、「なぜここで染体験をするか」に関する説明があるとなお良かったとアドバイスがあった。
SDG sと観光配慮の観点から、排水処理についての説明は、ガイドからでも良いので必ずあったほうが良いと思った。



<3日目-2>

●ティダムーン宿泊・取材、大島紬美術館にて着物体験

奄美大島東部、空港より車で10分ほどの距離にあるティダムーンに宿泊。

ビーチやプールが隣接したリゾート型宿泊施設で、館内に大島紬美術館での見学や着物の着付け、田中一村の展示物見学が楽しめる。室内は大島紬や県・島の素材にこだわっていることや、立地の良さ等、AT顧客層にとっても宿泊へのハードルが低い施設である。



<4日目>

●ツアーフィードバック

奄美空港に移動し、空港内でツアー全体の振り返りを行い、解散した。

本行程のコンセプト、ストーリーとその伝え方、運動強度が適切だったと評価が高かった。特にアクティビティの安全管理の徹底や、スルーガイド古株氏の自然・文化への知見の豊富さ、琉球とのつながりを感じるガイディング、地元住民との交流の場等、高評価となる要素が多かった。



1日目：サバニ・アドベンチャーツアー

DAY 1' Date: 日付 [03. sep. 2024] Main activity: 【Sabani Adventure Tour】

Before Please describe your feelings about today's activities ahead. 今日の活動が始まる前の気持ちを教えてください。

Positive [expectation] ポジティブに思っていること、期待していること

Negative [concern] ネガティブに思っていること、心配していること

After Please draw your emotional journey line and describe how you felt.

Activity 行動

Feeling 感情

Thinking Comments 感じたこと、その他コメント

6

1日目：奄美大島世界遺産センターにてツアーオリエンテーション、ホテルにてバーベキューの夕食

DAY 1 Date: 日付 [03. sep. 2024] Main activity: 【奄美大島世界遺産センターにてツアーオリエンテーション、ホテルにてバーベキューの夕食】

Before Please describe your feelings about today's activities ahead. 今日の活動が始まる前の気持ちを教えてください。

Positive [expectation] ポジティブに思っていること、期待していること

Negative [concern] ネガティブに思っていること、心配していること

After Please draw your emotional journey line and describe how you felt.

Activity 行動

Feeling 感情

Thinking Comments 感じたこと、その他コメント

7

2日目：湯湾岳Eバイクサイクリング、マングローブカヤック体験、郷土料理とシマ唄の夕食

DAY 2 Date 日付 [04 Sep, 2024] Main activity メインアクティビティ 【湯湾岳Eバイクサイクリング、マングローブカヤック体験、郷土料理とシマ唄の夕食】

Before Please describe your feelings about today's activities ahead. 今日の活動が始まる前の気持ちを教えてください。

Positive [expectation] ポジティブに思っていること、期待していること

Negative [concern] ネガティブに思っていること、心配していること

After Please draw your emotional journey line and describe how you felt.

Activity 行動

Feeling 感情

Thinking Comments 思ったこと、その他コメント

8

3日目：富田酒造にて黒糖焼酎醸造見学、大島紬村見学、肥後染色にて泥染め体験

DAY 3 Date 日付 [05 Sep, 2024] Main activity メインアクティビティ 【黒糖焼酎工場見学（西平酒造）、大島紬村見学、肥後染色にて泥染め体験】

Before Please describe your feelings about today's activities ahead. 今日の活動が始まる前の気持ちを教えてください。

Positive [expectation] ポジティブに思っていること、期待していること

Negative [concern] ネガティブに思っていること、心配していること

After Please draw your emotional journey line and describe how you felt.

Activity 行動

Feeling 感情

Thinking Comments 思ったこと、その他コメント

9

評価

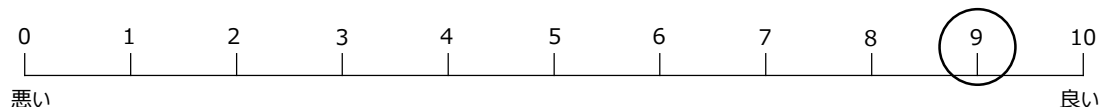
ツアー終了後アンケート調査を行った。結果は、ツアー構成や各コンテンツの課題改善に向けた基礎資料とする。

<ツアー全体評価>

Tour Evaluation ツアー全体の評価

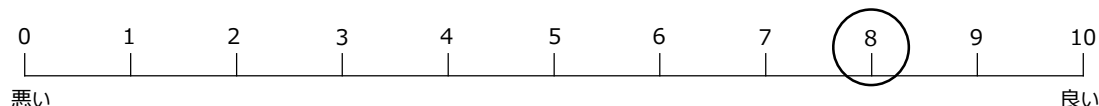
1. Experience ツアー全体の体験

(本ツアーはいかがでしたか？ツアーについて感じたことを教えてください。)



2. Tour Concept ツアーコンセプト (Ikigai -生きがい-)

(今回のツアーコンセプトは、伝わりましたか？その理由を教えてください。)



初日の朝から、普段立ち入ることのできない地元の漁師とその漁獲物、魚のセリなどを見学し、近代的な日本（近代的な設備、衛生、プロセスなど）と、何世紀にもわたる日本の漁業とのつながり、糸満における漁業の意義を、興味深く直接体験することができた。豊漁祈願の神社への参拝と、神聖な場所の歴史的意義は、現代の漁師から、我々が間もなく体験することになる昔ながらの航海・漁業様式への素晴らしい橋渡しとなった。

この最初の体験は、サバニの帆走という伝統的な体験とうまくつながり、漕ぎながら船の背景にある歴史や技術、漁業にどう使われたかを学び、伝統的な手法で近代的なサバニが造船されている職人の倉庫を訪れたことと見事にリンクした。これらの体験は「伝統に根ざした生活」を紹介するという意味で、テーマとうまく結びついていると思った。長寿の文化や健康的な生活・食事に関しては、「海ぶどう」農場の訪問が、そこにいる家族とともにこれをうまく表現していた。

「伝統に根ざした生活（生きがい）」というこのテーマは、ツアーの文化体験を通して感じられた。また、自然環境の美しさを満喫するサイクリングやハイキングの体験から、織物の伝統を通しての丹念な忍耐と細部へのこだわりまで、スローライフの精神は奄美でのすべての体験を通して浸透していた。民宿さんごビーチの家族・織物・染色体験、そして何よりもスルーガイドの古株氏の知識、信念、姿勢には特に感動し、「素晴らしい体験」を構成するのに不可欠な資質がすべて詰まっているように思えた。古株氏が案内するツアーはどれも素晴らしい経験になると確信した。

3. Uniqueness 独創性

(本ツアーの、他では味わえないユニークな体験を5つのキーワードで表し、その中からあなた自身が最も強く感じたユニークさを表しているキーワードを丸で囲んで下さい。)

(Traditions Natural Beauty **Local Pride** Preservation Diversity)

4. Tour experience & Price ツアー体験と料金

(本ツアーに、再度参加したいと思いますか？また、今回のツアーにいくらだったら参加するでしょうか？)

(6名UPで20万円程度)

Activity Evaluation アクティビティの評価

(本ツアーで、次の3つの項目について体験できたアクティビティとその理由を教えてください。)

1. Wellness 心身の健康

漁師、サバニの船長や商人、奄美の活動的で魅力的な地元の人々、そして長寿を促進する地元の野生のハーブとの偶然の出会いで実証された地元の食材を使った料理など、健康的な食事や地元の人々が活動的で魅力的であり続けるという「ウェルネス」は、旅行全体を通して存在していた。名瀬のホテルには素敵な露天風呂があったのは良かったが（ティダ・ムーンの露天風呂は営業しておらず、プールは午後6時に閉まるので利用できなかったのに注意）、自由時間にゲストが楽しめるようなオプション・アクティビティ（マッサージや温泉、サウナなど）があるとなお良い。フライトやドライブの後にリラックスする時間があれば泳ぐ可能性もある。夕日の時間はとても楽しく、リラックスできた。マングローブの中をのんびりと漕ぐカヤックは、体力的に大変なものではなかったのに、そこに加えてもいいかもしれない。

2. Physical challenge 身体的な挑戦

午前のサイクリングとハイキングはとても楽しく、自然環境、滝、池、サンショウウオ、スルーガイドの古株氏の植生についての知識も豊富で、E-bikeの使用による各人の体調に合わせた対応等素晴らしく、サイクリングと山頂までのハイキング、そして山頂での楽しい（そして美味しい）ランチはちょうど良い長さだった。下りに立ち寄った滝（名称無し）などでの休憩もあり、移動時間を楽しめた。特に湯湾岳登山口付近にあるマテリアの滝での水遊びは素晴らしかった。

3. Cultural and psychological challenge 心理的な挑戦

自然体験ではサバニ（セーリングに慣れていない人向け）か、文化的には大島紬村だっただろう。大島紬の製造の複雑な工程・技術には驚き、歴史も興味深かった（どこが発祥の地なのか少し不明なところもあったが、英語の文献をもっと読めるようになるといい）。

Conclusion 最後に…

1. Transformation 自己変革

(本ツアーを体験して、今までの考え方や価値観はどのように変わりましたか？
またそれはどの体験によるものでしたか？)

沖縄

個人的には、沖縄に住んでいる者の立場からすると、糸満はあまり探検したことのない地域だったため、とても興味深かった。糸満という地域、歴史、そして誇り高き港湾・漁業に目を向けることができたという意味で、間違いなく大きな変化を感じた。大綱引きやハリ・サバニレースについては知っていたが、実際に港やその地域に行き、魚市場や港を訪れたことで、人々や地域社会、歴史に対する誇りを再認識することができ、沖縄の他の地域にも、もっと知りたいと思うきっかけになった。

奄美

奄美大島への訪問は最も楽しみにしていた。長年、自分自身で研究したい島で、何年も前から自分の目で見てみたいと思っていた場所だったことが理由である。今回の旅では、新しい風景や歴史、伝統、そしてそれらが本土や沖縄とどのように結びついているのかを理解することができ、日本に長期滞在している自身にとっても観光客になった気分だった。富田酒造での黒糖焼酎醸造見学では、薩摩藩、琉球王国、アメリカの占領下、そして最終的に日本に戻るまでの時系列を学び、奄美が自然・文化ともに豊かで目的地としてのポテンシャルの高さを感じさせることが多く凝縮されていると感じた。自然景観の観点からは、表面しか見ていないように感じたが、ユネスコ、古代、手つかずの自然、環境（そしておそらく台風の絶え間ない脅威や彼らが直面するその他の課題についても）を持つユニークで変化に富んだ美しい地域であるため、間違いなくまた来てもっと探検したい島である。今回の訪問は、鹿児島、そして奄美大島や周辺の島々に対する私の見方を一変させた。沖縄から奄美へのフライトで、他の島々の鳥瞰図も見せると、より印象に残ると思う。

2. Storytelling 他者への伝え方

(本体験を家族や友人にどのように語りますか？語る場面を想像して、その内容を教えてください)

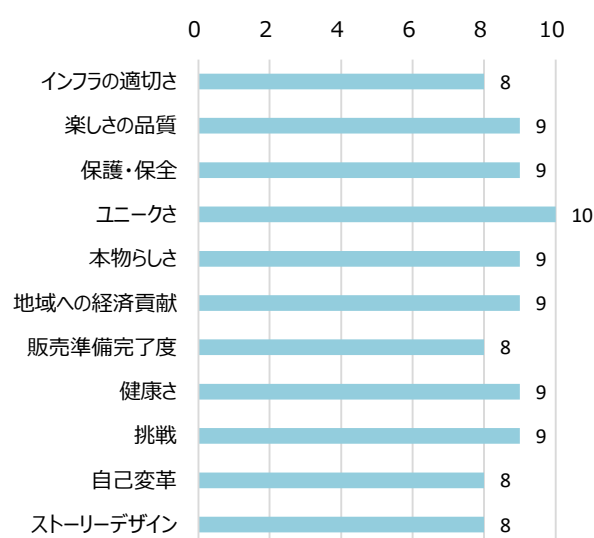
1. このツアーのハイライトは、アクティビティを通じて海岸線、亜熱帯の森、滝を探索し、湯湾岳の山頂まで登った点である。
2. 海岸、川、マングローブ林、森林など、奄美大島の多様な生息環境と、それらに適応した多様な生物について学ぶことができた。民泊から富田酒造、大島紬村、肥後染色体験、ティダムーンの宿泊者との交流やスタッフ、地元の人々との偶然の出会いなど、文化的な活動や地元の人々との交流を通して、この島のユニークな歴史や、琉球王国（沖縄）と本土の架け橋となった人々について興味深い洞察を得ることができた。

＜コンテンツアセスメントの評価軸＞

ATTAが用いる評価項目やATTAが掲げる体験価値などを元に、以下の通り AT コンテンツに必要な基準を以下の通り設定した。この基準に基づき、本ツアーにおける各コンテンツ（体験・アクティビティ）を評価した。

	英語での評価軸	日本語訳	評価の観点	スケール
1	INFRASTRUCTURE APPROPRIATENESS	インフラの適切さ	コンテンツを楽しむ上で設備などが適切に整っているか（粗雑でも過剰でも低評価となる	1～10点 (10段階評価)
2	QUALITY OF ENJOYMENT	楽しさの品質	コンテンツがもたらす体験が楽しいと感じられる度合い	
3	QUALITY OF PRESERVATION / CONSERVATION	保護・保全	コンテンツに関わる自然や地域文化の保護や保全の度合いやその取り組みが感じられる度合い	
4	UNIQUENESS	ユニークさ	コンテンツがもたらす体験のユニークさ、その地ならではの感じられる度合い	
5	AUTHENTICITY	本物らしさ	コンテンツが人工的に作られた自然や文化を見せているのではない、「本物」の体験かどうか	
6	LOCAL BENEFITS	地域への経済貢献	コンテンツを介して地域への経済貢献がなされていると感じるかどうか	
7	READINESS	販売準備完了度	欧米AT顧客にすぐに販売できる状態になっているかどうか	
8	WELLNESS	健康さ	コンテンツの体験を通じて健康になっていると感じられるかどうか	
9	CHALLENGE	挑戦	コンテンツの体験に心理的・身体的な適度な「挑戦」が伴うかどうか	
10	TRANSFORMATION	自己変革	コンテンツの体験を通じて自分の意識や価値観に変化を感じるか、自らの成長につながるか	
11	STORY DESIGN	ストーリーデザイン	コンテンツの体験に適切なストーリーが設計されているかどうか	

1 日目（糸満市）帆掛サバニ・アドベンチャーツアー



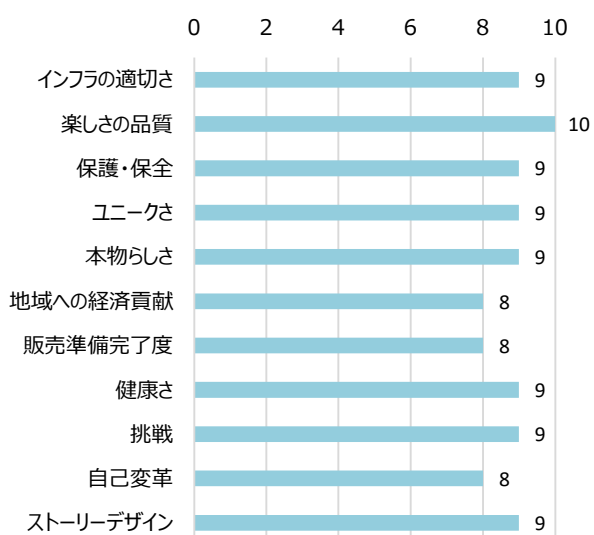
評価点

ツアーコンセプトの記載にあるように、魚市場、神社、サバニ、海ぶどう農園・レストランがすべてうまくつながっていて、糸満の海運・水産業のストーリーを伝えるのに役立っていると思った。

改善点

もう少し港周辺を散策し、船を見たり、地元の人たちとバツリ会う本格的な機会を設けたり、インフラ面では出航後の参加者向けにシャワーエリア等があると大変良かった（サバニセンターでは少し分かりにくかった）。また、造船技師体験の体験はとても興味深いものだが、すでにそこにある船を使い、バタフライジョイントやサメのオイルニスなどについて説明できるよう、準備をしておくといいかもしれない。この体験すべてが非常に面白かった。

2 日目（大和村）湯湾岳Eバイクサイクリング



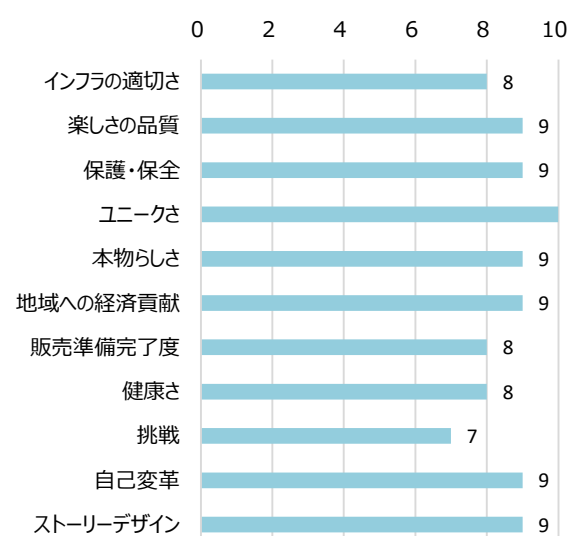
評価点

私はサイクリングが大好きなので、体験を偏重しすぎているかもしれないが、とてもシンプルで楽しいツアーだった。海岸線沿いのウォーミングアップライドも、トレイルヘッドまでの道のりも、どれも本当に適切な距離だった。もう少し長い海岸沿いのライドをお勧めするかもしれないが、ツアー全体はとても楽しいものだった。スルーガイドの古株氏の動植物に関する知識の豊富さはとても洞察力に富んでいて面白かった。

改善点

バイクがすべて正常に動くかどうか、またガイドがダブルチェックするかどうか、必ずさんごビーチが確認する。道中、事務局がサポートカーに対して、バイクのすぐ後ろをついていくのではなく、先に進むように提案していたのが印象的だった（エンジンの音で自然の音が聞こえなくなるため）。そのおかげで、ツアーがより楽しいものになった。斜面を登り、山頂まで登ったご褒美を味わえるように、下りも自転車で通せると尚良い。下りはビーチ（特に晴れた日）で終わり、飛び込みでサンセットビールなどを楽しめると最高だと思う。バイクツアーでは、ツアーに対する参加者の期待値を測って、それらが一致していることを確認するのがいい。

2日目（奄美市）マングローブカヤック体験



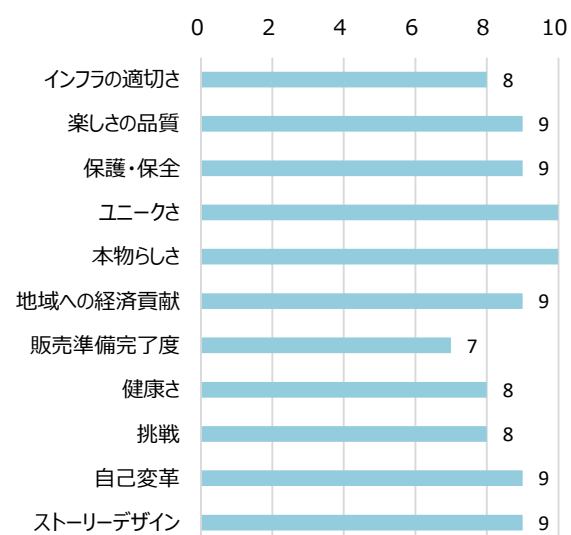
評価点

とてもリラックスでき、楽しい経験だった。あらゆる年齢層、体力レベルの人たちが楽しめる、教育的で情報満載の素晴らしい体験だった。潮の満ち引きの変化を体験したり、泥の中や川底を歩いたり、とても興味深かった。ガイドの知識の豊富さがとても印象的だった。

改善点

マングローブの前に奄美世界遺産センターへの訪問を組み込んで、自然への知識を深めたうえでカヤックを行うとなお良かった。世界遺産センターでは、スナックや飲み物での小休憩をはさみ、マングローブの景色を楽しむ機会や、その前後にリラックスできる場所があれば、そこで少し活気や賑わいが出るかと思う。

3日目（奄美市）黒糖焼酎工場見学／富田酒造



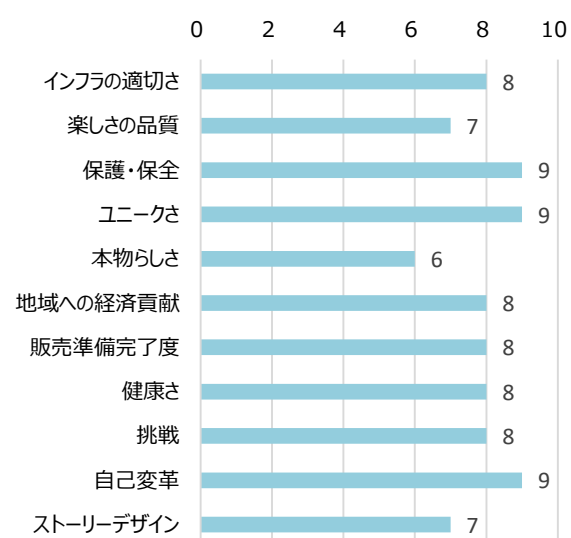
評価点

各時代を通しての歴史、古い技術を使うことへのこだわり、4代目の醸造者などについて学ぶことができ、本当に楽しかった。

改善点

黒糖焼酎の試飲があるとなお良い。そのため本行程を夕方の早い時間、夕食前に変更することを提案したい。その方が涼しく、試飲にふさわしく、1日のアクティビティのめの体験ができるだろう。樽の中で焼酎が熟成している貯蔵室に、小さな試飲用のトレイや皿を設置するのもいいだろう。最後に、小さなスペースを設けて、参加者が小瓶（または大瓶）をお土産として購入できるようにすれば、この体験を思い出し、友人と分かち合うことができる。体験の新鮮さを損ないたくはないが、もう少し構成がしっかりしていれば、醸造者にとっても楽だろう。英語で小さなパンフレットなどを作るを手伝うのも、彼らのストーリーを伝えるのに役立つかもしれない。

3日目（龍郷町）大島紬村見学



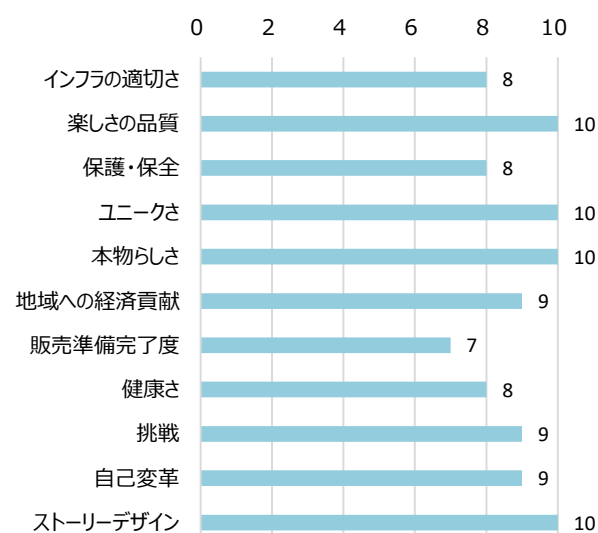
評価点

偉大で複雑な模様、技術へのこだわり、求められる忍耐力、世代から世代へと受け継がれる伝統など、魅力的な内容。特に、ティダ・ムーンに滞在するゲストが、ティダ・ムーンに到着したときにギャラリーをより理解できるように、両者の歴史を結びつけることができれば、これは自然なアクティビティになるだろう。

改善点

ユニークな歴史について、ツアー前にもう少し情報を提供してほしい。技術を後世に伝えることについての懸念や、これを継承するためにどのようなことが行われているのか、技術を実演している人々についてもう少し詳しく知るなど、交流して学ぶことができれば面白いと思う。非常に複雑な技術で外国人には特に理解が難しいが、見ているものについての情報提供や図解（基本的なもの）がもう少しあれば、お客はもっと見るものを理解できると思う。職人と交流できたのはとても印象的だった。事前に社内で大島紬村に関する情報提供があるとなお良かった。テーマパーク感を感じたが、AT顧客が好まない「整備されている感」というほどではない。天気の良い日には、庭か何かに屋外席があると、そこで参加者が見たものを振り返ったり、作業中に質問したりできていいかもしれない。

3日目（龍郷町）肥後染色にて泥染め体験



評価点

本物の体験ができたこと、グループ全員にとって本当に良かったこと、場所、家族、全体の雰囲気が気に入ったこと。木片の染料を染めるのを手伝ったり、「職人」と呼ばれる人たちが他の人たちがゲストと同時に働いているのを見ることができたのはよかった。急かされている感じはしなかったが、もう少し時間があつた方がいいかもしれない。

改善点

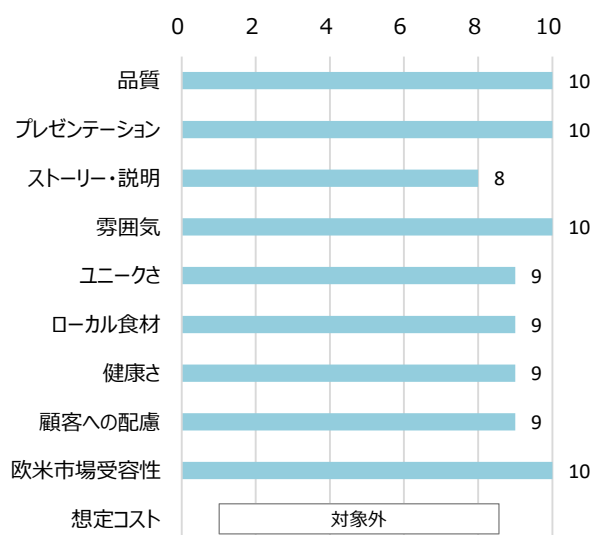
化学染料を川に流さない、すべて自然のものであることを本当に知ってもらうために、グループへの情報提供があつたことは印象的。もし川が近接しているのであれば（行程内で行くことができれば）泥の原料を採取する畑への訪問など、産地確認があるとなお良かった。彼らのために思えば、小売販売エリアをもう少しアクセスしやすくして、より多くの売上を上げられるようにしたいかもしれない。実際に自分たちで作り、それを持って帰れるという体験は非常に良い。

＜ミール（食事）アセスメントの評価軸＞

ATTAが用いる評価項目やATTAが掲げる体験価値などを元に、以下の通り AT コンテンツに必要な基準を以下の通り設定した。この基準に基づき、本ツアーにおける各コンテンツ（食事）を評価を行った。

	英語での評価軸	日本語訳	評価の観点	スケール
1	Quality	品質	食べ物や飲み物の味・美味しさ	1～10点 (10段階評価)
2	Presentation	プレゼンテーション	盛付やお皿、テーブルセッティング等の設え	
3	Story / Expranation	ストーリー・説明	レシピ・調理法や食材などの説明・ストーリー	
4	Ambience	雰囲気	食事場所の雰囲気	
5	Uniqueness	ユニークさ	味や体験のユニークさ	
6	Local ingredients	ローカル食材	ローカル食材の使用	
7	Wellness	健康さ	レシピや食材の育て方などから感じる健康さ	
8	Consideration	顧客への配慮	ベジタリアンやグルテンフリー、低炭水化物食の希望等への配慮や対応度	
9	Acceptance	欧米市場受容性	欧米マーケットの受容性	
10	Cost acceptance	想定コスト	体験からの想定妥当価格（一人あたり）	

1日目（大和村）Dinner/バーベキュー



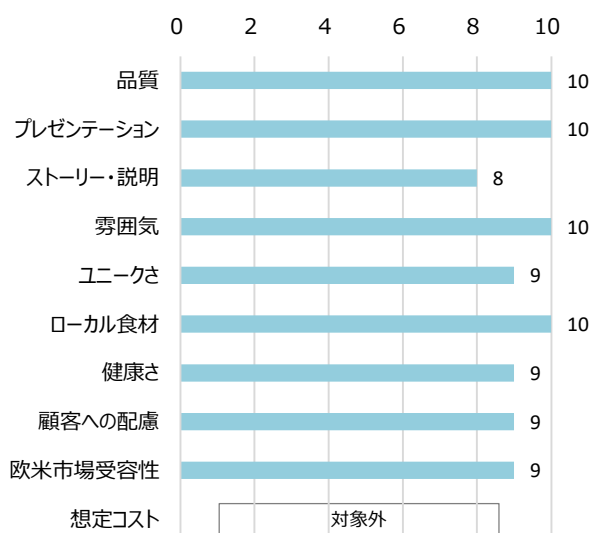
評価点

サンゴビーチのサンセットでのディナーは最高だった。素晴らしい料理で、天気も良く、肉や魚介類、豆腐や野菜などバラエティーに富んでいて、一緒に旅を始めるにはいいスタートだった。朝食もすばらしく、フルーツがきれいで、本物の家庭的な雰囲気の中で「鶏飯」の食事を楽しむことができた。

改善点

特になし。

2日目（奄美市）Lunch/ランチボックス



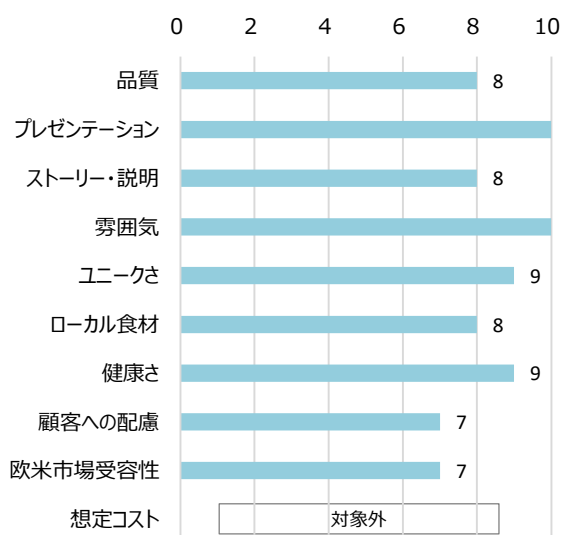
評価点

おにぎり、味噌と玉子のご飯、から揚げ、ゴーヤと野菜など、お弁当の中身はどれもおいしく、栄養バランスがとてもよかった。体力を消費した後にちょうどいい量だった。古株氏が持参した月桃茶も美味しかった。

改善点

特になし。

2日目（奄美市）Dinner/吟亭



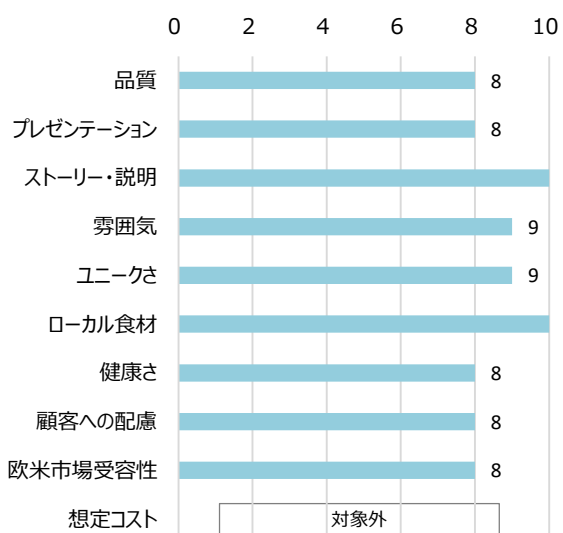
評価点

他の旅行者と交流するのがとても楽しかった（奄美に来る多くの日本人旅行者がパフォーマンスなどに夢中になっているのを見るのは、旅行者にとっては素晴らしいことだ）。素敵なお祭りのような環境。食事はバラエティーに富んでいて美味しかった。

改善点

奄美では魚介類がメインであることは当然だが、違う種類の魚も混ぜて食べた方がいいかもしれない（ホッケなど）。アラカルのワンページがあれば、もっと何か注文したい人のためになると思う。

3日目（奄美市）Lunch/ローカルマーケット



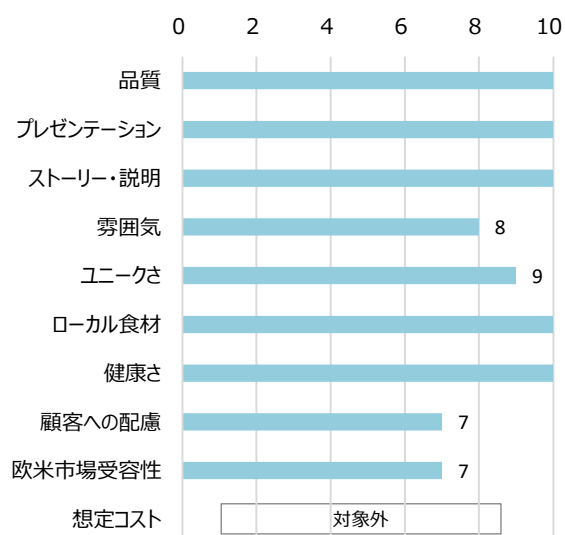
評価点

地元の市場を見て回り、好きなものを選ぶのはいい経験だった。ピーナッツと味噌の料理がとても美味しかった。

改善点

特になし。

3日目（奄美市）ティダムーン



評価点

素晴らしい料理。特に初めてシーフード料理に挑戦する人には難しいかもしれない。しかし、それぞれの料理には地元の食材についてのストーリーがあり、スタッフはそれぞれの食材の産地をきちんと説明してくれた。とても印象的だった。朝食は洋食か和食のどちらかを選べたのもよかった。私は洋食を選んだが、料理の盛り付けにユニークさがあり、とても良かった。すべてが美味しく、スタッフも素晴らしかった。

改善点

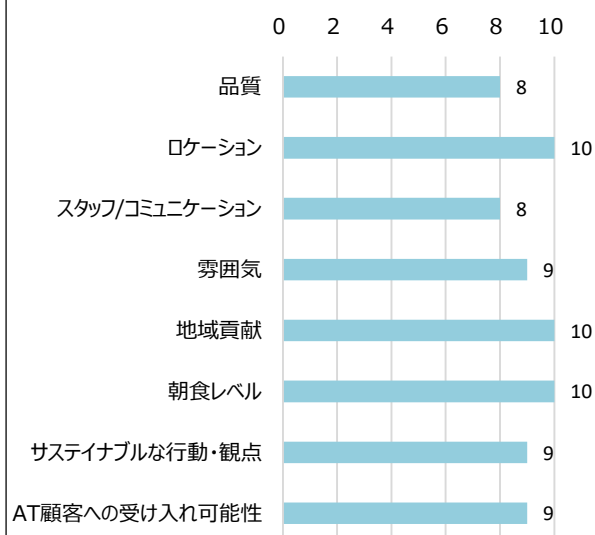
価格帯はわからないが、夕食には考慮すべきかもしれない。間違いなく、静かで洗練された雰囲気、その雰囲気を求めている人には魅力的かもしれないが、何か違うものを期待している人は事前に調べておく必要があるかもしれない。全体的には、最後の夜にリラックスできる素晴らしい体験だった。

＜ホテルアセスメントの評価軸＞

ATTAが用いる評価項目やATTAが掲げる体験価値などを元に、以下の通り AT コンテンツに必要な基準を以下の通り設定した。この基準に基づき、本ツアーにおける各コンテンツ（ホテル）を評価を行った。

	英語での評価軸	日本語訳	評価の観点	スケール
1	Quality	品質	部屋の設備、清潔さ、広さ等	1～10点 (10段階評価)
2	Location	ロケーション	立地の観点。静かにくつろげるか、体験までのアクセスなど	
3	Staff / Communication	スタッフ コミュニケーション	スタッフの対応や会話やコミュニケーションなどの観点の評価	
4	Ambience	雰囲気	ホテル全体の雰囲気など	
5	Local benefits	地域貢献	地域への経済的貢献が大きいと感じるか	
6	Breakfast	朝食レベル	朝食のチョイスの幅やボリューム、味など	
7	Sustainable action	サステイナブルな 行動・観点	ゴミやCO2への観点・及びそれに対する具体的な行動の有無	
8	Suitability for AT market	AT顧客への 受け入れ可能性	全体を通してAT顧客向けと感じるか	

1 日目（大和村）民宿さんごビーチ



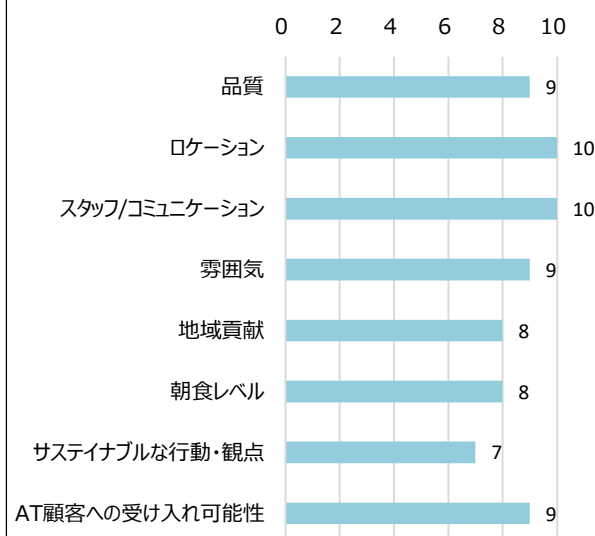
評価点

立地は最高、部屋はベーシックだが快適、ゲストファミリーの雰囲気も良かった。食事美味しく、本当に素晴らしい経験だった。子供連れの家族は近くの公園を楽しみたいだろう。夕暮れ時などに地元の人と交流するのも楽しい。

改善点

SUP、海水浴、ビーチでのリラックス、サンセットなど、もう少し自由な時間があるといい。

2 泊目（奄美市）ホテルサンデイズ奄美



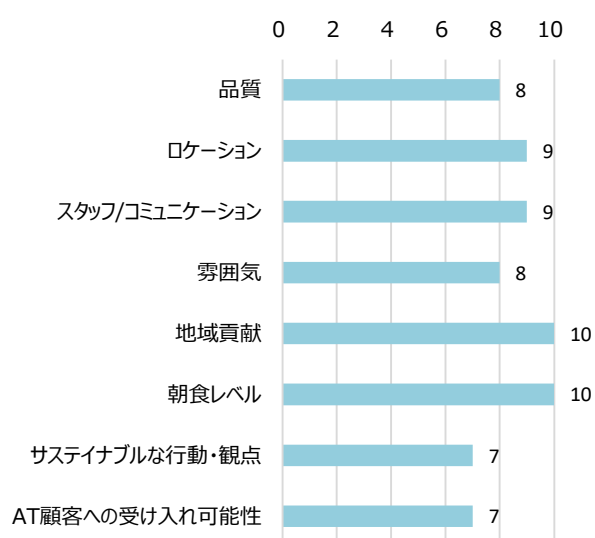
評価点

今まで泊まったビジネスホテルの中で一番良かった。2泊3日の滞在には最適だった。港を見渡せる大広間、サウナ、清潔で設備の整った部屋、レストランやバーが徒歩圏内にあるのは素晴らしい。無料の洗濯乾燥機も良かった。

改善点

もう一泊して、地元の風景を見たり、地元の人に会ったりしたかった。企業の持続可能性への取り組みについてはわからない。

3 泊目（奄美市）ティダムーン



評価点

ロケーションは素晴らしく、私が泊まった「ムーンルーム」は本当に豪華だった。バスルームの月の形をした鏡から、月のようなタイルまで、すべてが驚くほどに考え抜かれていました。このホテルにまつわる歴史や文化はとても興味深く、宿泊客がこのホテルに滞在する上でとても大切なことだと思う。朝食は素晴らしかった。クラシックで古いタイプの和風ホテル。スタッフはとても親切で、地元に住んでいる人が多く、コックは着物の織り手でもあり、みんなホテルや食事、ストーリーなどにとても誇りを持っていたのが印象的だった。ロケーションと周辺のビーチは素晴らしかった。ビーチを歩くのが楽しく、地元の人にも会うことができた。

改善点

ホテルの内装はとても素敵だが、特に外装は少し老朽化しており、メンテナンスが求められている。ただ、部屋の内装はきれいだったので、外観やビーチからの眺めなどで評価するのはどうかなとも思う。台風がこの島々を襲い、外装の手入れを難しくしていることを伝えるのは良いアイデアかもしれない。午後6時のプールクローズは早すぎるように感じた。お風呂・温泉は営業していなかった。ロケーションは素晴らしいが、孤立しているため、歩いて行けるレストランなどがないため、宿泊する場合は注意が必要。

② スルーガイド研修 <事前調査>

目的	本研修に向けて、準備事項の整理を行うとともに、コーディネーターやスルーガイドの実際の業務内容を確認する。
日時	第1回 令和6年 9月19日（木） 第2回 令和6年10月30日（水） ※当初9月18日からの1泊2日の予定だったが、台風の影響で2回に分けて実施
参加者	第1回 沖縄県観光振興課 4名 / 沖縄JTB：1名 第2回 沖縄県観光振興課 4名 / 沖縄JTB：2名

事前調査行程内容

1回目／9月19日（木）	
時 間	予 定
11:50～12:50	昼食＜カフェレストラン長楽＞
13:00～15:55	テーマ「水」と「祈り」散策 観音寺⇒鍾乳洞⇒宜野座さん宅⇒トゥムスズ御嶽⇒金武大川⇒アカシ海岸（車窓） ⇒フッカバルターイモ農家⇒バードウォッチング
16:00～16:30	意見交換会
2回目／10月30日（水）	
時 間	予 定
13:00～14:30	大宜味村・喜如嘉集落散策
15:00～17:30	ネクマチチ岳トレッキング
18:00～18:50	夕食＜かねやん食堂＞
19:00～21:45	ナイトツアー【自然保全型ツアー-AKISAMIYO】
宿泊	ヤンバルエクスペリエンスホテル ムンガニク
※翌朝：各自チェックアウト	

第1回 (9月19日)

●昼食＜カフェレストラン長楽＞

台風の影響で、急遽、9/18の東村アクティビティ、および9/19の喜如嘉集落散策を延期としたため、事前調査は金武町からスタートとなった。

まずはカフェレストラン長楽での「田芋膳」。田芋の調理法と組み合わせの食材を工夫することで、ほぼ田芋尽くしでありながら汁物からデザートまでを飽きさせない内容となっている。豊川シェフからはイギリスのル・コルドン・ブルーで料理を学び、英語が堪能、またBlueZoneの取材も入っており、BlueZoneKITCHENにも紹介されていることなどをお話いただく。

江藤からは、特に欧米豪のお客様の食事制限が非常に多い事、都度、お客様へ確認をしつつ食事手配を進めていることなどをご案内。またこれまでのツアーでのお客様の反応や感想などを情報共有した。



●金武観音寺

カフェレストランから金武観音寺までそれぞれの社用車で移動（5分）。

まずは戦禍を免れた古い建築様式をとどめた貴重な木造建築であることや、敷地内には樹齢約350年のフクギなどについてガイドの高原氏より説明。お堂に向かって右側にある観音寺鎮守「金武権現（熊野三所権現）」と「水天」が祀られているには「日秀洞」と呼ばれる洞窟へ入る。この反対側の入口に金武鍾乳洞があることを確認。足元が大変滑りやすく、観音寺の敷地には蚊がたくさんいるため、虫よけを利用しながら説明を聞いた。

水と祈りというテーマであるが、16世紀に日秀上人により創建された高野山真言宗の寺院ということから、参加者からは宗教観がそぐわないためご案内がなくても良いのでは、というご意見をいただいた。



●金武鍾乳洞

長さ270m、地下30mの金武鍾乳洞に1万3000本を超える泡盛の1升瓶が保存されている。湿度があり、気温が18度と一定である自然環境を活用して、1988年から日本初の古酒蔵として利用されていることの説明があった。

参加者からは、思わぬところに入口があることのわくわく感があること、どれだけ大雨が降っても鍾乳洞の中はほぼ観光が可能なおかげで、全天候型の観光箇所としては非常に良いとの声がある一方で、かなり深く階段を下りていくことから年齢によっては参加できない方もいるかも、という心配の声もあった。また洞窟の中で、泡盛の古酒の試飲や豆腐ようを召し上がって頂きたいと要望もあったが、事業者としてはお客様の泡盛を預かっている貯蔵庫のため、鍾乳洞内での飲食はできないとの回答をいただいた。スルーガイド研修では、事業者より購入し、ホテルでの懇親会に提供することとしたい。



●クジキン農家：宜野座さん宅

昭和56年4月30日に再建説明されたという金武ノロ殿内や「ノロ」「ユタ」についての簡単な説明後、クジキン農家である宜野座さん宅にて、トートーメへのお参りやヒヌカンについての説明と、家を守るという自身の務めへの想い、そして古来から沖縄で食されてきた様々な食材を家の農地や敷地内で家族と一緒に育て、大切にしている古来の食習慣についてお話いただく。まさしくクスイムンを体現されている生活に非常に感銘を受けるとともに、英語通訳の難しさも実感する時間となった。沖縄の方にとっては当たり前の習慣が海外の方にとっては価値になるということも体感した。



●トウムスズ御嶽～金武大川

宜野座さん宅からトウムスズ御嶽へ徒歩移動（5分）。トウムスズ御嶽は現在、緑地公園として整備されており、御嶽内は遊歩道もあるが、拝所のため中には入らず周囲を散策した。

ガイド豊見盛氏の小学校時代の金武大川での思い出など地元ならではのお話を伺いつつ、急な坂道を下り、金武大川へ。金武大川は参加者も一度はきたことがあるが、今回の「水」と「祈り」というテーマから、最初に金武大川へご案内し金武町の成り立ちや地質の話案内板を利用して説明すべき、という意見をいただく。一方で坂道を上ることは大変なため「ウォーキング」としているもののストーリー性の方をより重視し、金武大川から金武鍾乳洞までは車移動としても良いのでは、ということにまとまった。



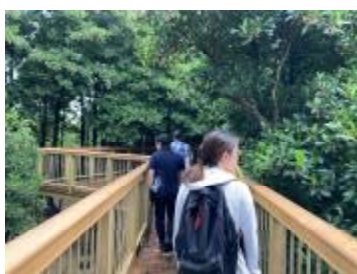
●フッカバルタイモ農家

さらに車で5分ほど南下し、田芋畑へ。農家さんに田芋の収穫や苦労話などをしていただく。ただし田芋畑には菌混入を防ぐため入れないという農家さんだったため、参加者からは話だけでは面白さにかけるため、農家さん自身の手でも良いので、その場で田芋を引き抜くようなパフォーマンスがほしいとの意見をいただいた。ネイチャーオフィスからは別の農家さんにあたってみるとの心強い回答をいただいた。



●フッカバル・億首川/バードウォッチング

最後に億首側でバードウォッチング。デッキを歩きながら鳥をさがすものの、あまり発見できず。田芋畑の方が多様な鳥が見られたため、時間短縮をするのであればここまで来なくても田芋畑で十分かもしれない、ただしマングローブが珍しい国からのゲストの場合は、一見の価値があるという話があった。



●意見交換会

参加者：金武観光協会 喜久山事務局長・ネイチャーオフィス 嵩原氏・豊見盛氏

それぞれのコンテンツと金武町のポテンシャルについて意見交換を行った。

今回のコンテンツ以外にも、新開地やタコライス、チーリチャー、夜のバーホッピングでのアメリカ文化体験など様々なコンテンツがあり、非常にポテンシャルが高いことを再認識。

IkigaiTourismとして「水」と「祈り」というテーマ選択は良いが、見せる順番、どのような案内をするか、さらに宗教観を英語で説明できる難しさなどが課題としてあがった。スルーガイド研修までにさらにブラッシュアップしていきたい。



第2回 (10月30日)

●大宜味村・喜如嘉集落散策

エリアの宿泊施設である「南瞑森室」(株式会社ENDEMIC GARDEN H)のシェルパ/金城氏による集落散策を実施した。

地域の風習やコミュニティのつながりの強さ、関係構築の重要性など実際の民家や集落の小道を歩きながら「BLUE ZONE」及び「IKIGAI TOURISM」の世界観を味わった。

途中、スルーガイド研修、FAMで使用の「南瞑森室」の客間「仲門」も確認。



●ネクマチチ岳トレッキング

ネイチャーガイドの上開地氏によるネイチャートレッキング。研修本番同様の「ロングコース」(散歩道940m、道路500m／標高最大360m)を2時間半かけトレッキング。途中、希少動植物、地形や人々の暮らしとのつながりなど立ち止まりながら解説を受ける。

所々、急勾配や足元が滑りやすい箇所について確認しながら進める。

研修メンバーの体力によってはショート、ロングコースの班分けを想定することとする。



●夕食〈かねやん食堂〉

地産地消メニューである「スギ定食」と「タコライス」の2種類を確認。

研修、FAM時に提供するメニューは、大宜味村で養殖されている「やんばるスギ」(日本一の生産量)の定食に決定。



●ナイトツアー【自然保全型ツアー-AKISAMIYO】

ツアー開始前にAKISAMIYOガイドの妹尾氏によるガイダンス。ツアーの目的や心得をレクチャー。
レクチャー終了後車で林道まで移動しナイトパトロールツアー開始。雨上がりのため希少動植物が多く、ヒメハブやイシカワガエルなど確認された。またゴミや不審車両などもすべて目撃記録（GPS地点/事象）を記録していった。
2時間半のツアー終了時は、振り返りのMTGを実施し、自然保全への理解、意識改革につながるプログラムであることを確認できた。



●宿泊・ヤンバルエクスペリエンスホテル ヌンガニク

ツインルームとシングルルームの両タイプ確認。
アメニティは管理棟にて各自費用な分を持っていくスタイル。
研修、FAMに利用予定だが特に支障となる要素はないことを確認。
（朝食はパン一つのため予定通り行程内で食料調達も事前アナウンスで統一）



③ スルーガイド研修 <本研修>

日時	座学	令和6年10月3日（木） ※前述の研修会への参加
	座学	令和6年11月5日（月） ※前述の研修会への参加
	フィールドワーク	令和6年11月7日（木）・8日（金）
対象	自然観光・文化観光に関わるエリアのガイド	
参加者数	沖縄：5名 / 奄美：8名	
開催内容	●座学 （前述） ●フィールドワーク 講師：シャノン・ウォーカー氏 (KODO合同会社 共同代表) 宗像 愛 氏（全国通訳案内士、株式会社ツアーデザイナーズ 代表取締役） テーマ：ウチナーンチュの「ちむぐる」を学ぶ旅 やんばるの森のアクティビティや沖縄固有の文化体験を通じて、沖縄の人々に受け継がれる様々な精神を学ぶ ポイント：本島北部やんばるエリアでの集落散策やアクティビティ体験を中心とした、専門家による地域資源の魅力の引出し・活用方法など自然観光に焦点を当てた現地研修。地域固有の文化体験を通じ、アクティビティ・観光ガイドのスキルを学び、また観光業のプロの視点から、コンテンツの課題抽出・解決のためのフィードバックにも協力し、研修会を締めくくる内容とした。	

シャノン・ウォーカー 氏

KODO合同会社 共同代表

ニュージーランド出身。2019 年にKODO Travelをマイケル・ジョン・ハリス氏と共同設立し、インバウンド誘致のコンサルティングを日本語で行っている他、欧米を中心とした海外の富裕層向けに ATの受注型企画旅行の提供を行っている。ニュージーランド政府観光局で9年間に渡り、PR、マーケティング等の業務に従事。2020年よりATTAMEMBER。



宗像 愛 氏

全国通訳案内士、株式会社ツアーデザイナーズ 代表取締役

東京出身。高校卒業後カナダへ留学し帰国後沖縄に移住。移住後はインバウンド専門のダイビングショップにてショップマネージャーとして従事。その後、全国通訳案内士として沖縄県内全域を中心に活動。日帰りツアーから、FAMトリップ、外国メディアの撮影同行など幅広いツアーに携わる。その他通訳や英語MC（沖縄空手国際大会、ATWS2022スイス大会JNTO「JAPANADVENTURE」など）や、沖縄県と奄美群島地域通訳案内士育成・スキルアップ研修の講師や、観光庁認定1級講師として「地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修」など、多くの研修に携わるほか、観光庁の「世界水準のDMO形成促進事業」外部専門人材として登録している。



ツアーコンセプト

地域	沖縄北部
地域で伝える 価値・コンセプトの方向性	沖縄本島北部・やんばるエリアのツアーは、豊かな自然資源と長寿文化に触れることで、自身の「生きがい」を見つめ直し、自己変革を促す旅。 沖縄・奄美地域のATのツアーコンセプト「Ikigai Tourism」は、地域のセンテナリアン（100歳以上の長寿者）のライフスタイルを基にしている。彼らは「生きがい」を大切に、明確な目的意識を持って生活している。 ツアーでは、自然と触れ合いながら適度な運動を行い、植物性食品を中心とした食事を楽しむことができる。また、家族や社会との強い絆を築く活動も取り入れられている。これにより、参加者は心身の健康を維持しながら、地域の文化や歴史を深く理解することができる。沖縄北部・やんばるエリアにおいては、「ウチナーンチュの『ちむぐる』を学ぶ旅」をテーマにやんばるの森のアクティビティや沖縄固有の文化体験を通じて、沖縄の人々に受け継がれる様々な精神を学ぶ旅である。



フィールドワーク行程内容

1日目/11月7日(木)	
時 間	予 定
09:00	県民広場集合後、金武町へマイクロバスにて移動
10:00~13:00	テーマ「水」と「祈り」散策 ①第1班（豊見盛氏＋シャノン氏） 観音寺→鍾乳洞→宜野座さん宅→トゥムスズ御嶽→金武大川→タイモ農家→バードウォッチング ②第2班（嵩原先生＋宗像氏） 宜野座さん宅→観音寺→鍾乳洞→トゥムスズ御嶽→金武大川→タイモ農家→バードウォッチング
13:00~14:30	カフェ長楽の田芋膳
14:30~16:00	移動、東村へ。途中、共同売店にて朝食・土産購入
16:00~17:00	ホテルチェックイン、着替え（カヤック・トレッキング用）後、移動
17:00~18:30	夕食＜かねやん食堂＞
18:30~20:30	2班編成：AKISAMIYO(事業者車両)・カヤック(マイクロバス) ①日本でここだけ。福地ダムカヤックナイトツアー （雨天のため慶佐次川マングローブカヤックに変更） ②保全体験型 ナイトツアーAKISAMIYO ＜学びの観点＞ ・公認ガイドへの取組 ・やんばるの自然保護の観点での公認ガイド同行・人数限定でのツアー実施 ・WFA資格（野外災害救急法）の重要性 ・強風で水周りのアクティビティNGの場合は森へ、という実際のツアーの代案想定
20:45	ホテル帰着
宿泊先	ヤンバルエクスぺリエンスホテルヌンガニク（東村）

2日目/11月8日(金)	
時 間	予 定
08:30	各自昼食後、チェックアウト
09:00~12:00	ネクマチチ岳トレッキング：上開地氏(エンデミック)・石井氏(キノボリトカゲ) （雨天により比地大滝トレッキングに変更）
12:00~13:00	昼食＜「笑味の店」の弁当（南溟森室「仲門」にて）＞
13:00~14:30	テーマ「Ikigai」 南溟森室のシェルパ案内による喜如嘉集落散策（芭蕉布会館含む）
14:30~15:30	スルーガイド研修振り返り（南溟森室「仲門」にて）
15:30~16:30	那覇への道中、シェルパと共に笑味の店の畑を見学（雨のため中止）
16:30~18:00	移動
18:00	県民広場前到着・解散

1日目

1日目の最初は、沖縄における「水」と「信仰」との関係を学ぶ旅へ。

あらゆる生物にとって水は命を支える必要不可欠なものであるが、太平洋に浮かぶ小さな島である沖縄は、古くから水を得ることに苦労が絶えなかった。そのため、水は沖縄の人々にとって神聖なものと考えられており、先祖が使用した泉やため池などを「拝井泉（ウガミガール）」として、水に感謝する祭祀が行われてきた。今回は、そうした習俗が残る金武町の集落を散策しながら、沖縄の人々と水との関わりを学んだ。

夜は、2グループに分かれてアクティビティを体験。

1つはダム湖のナイトカヤックツアー。もう1つは環境モニタリング調査を体験しながらやんばるの自然を観察するウォーキングツアー。

<学びの観点>

- 公認ガイドへの取組
- やんばるの自然保護の観点での公認ガイド同行・人数限定でのツアー実施
- WFA資格（野外災害救急法）の重要性
- 強風で水周りのアクティビティNGの場合は森へ、という実際のツアーの代案想定



<1日目-1>

● 県民広場にて集合、バス車内にてブリーフィング

8:50に県民広場にて集合後、9:00 専用バスにて出発。

約1時間の移動時間を使い、バス車内にてツアーブリーフィングを実施。研修行程、注意事項の説明を行った後、講師・事務局・参加者より英語にて自己紹介。さらにシャノン氏からは、ATと一般観光の違い、スルーガイドの役割などをレクチャー、ツアーのスルーガイドを担った宗像氏からは、一般的な沖縄の英語ガイド、および金武町、沖縄の宗教観について英語で説明いただいた。

事務局の江藤からは注意事項として、行程内のアクティビティ内容及び強度について紹介したのち、各自体調を鑑みて適宜参加判断いただくよう説明、また天候次第でアクティビティに変更または中止の可能性についても言及した。また今回はスルーガイド研修のため、基本的には英語で実施すること、各アクティビティについては状況を見て、コンテンツ自体のインプットを重視したほうがよい場面の場合には、スポットガイドの日本語によるガイドになる旨を案内。

- ①事務局（河村、江藤）：研修の目的・行程および注意事項（10分）※全員、第1回研修会受講済の想定
アンケート用QRコード配布
- ②シャノン：自己紹介、英語にてATのスルーガイドとして学んでほしい事（5分）
- ③宗像：スルーガイドとして同行する旨の自己紹介（2分）
- ④研修生：英語にて自己紹介@1分 氏名、所属、ガイドの経験（20分）。冒頭、ルドが手本を見せる。
- ⑤宗像：一般的な沖縄の自然・文化・歴史などを英語にてガイディング（30分程度）



<1日目-2>

●水と祈り散策（観音寺→鍾乳洞→宜野座さん宅）

10:00に金武町に到着後、金武区事務所駐車場にて下車し、現地ガイドと合流。
2班に分かれて行動し、各行程へ。

奄美8名（髙原＋宗像） 江藤・岡本

計12名（散策） 鍾乳洞→シードゥー→トゥムスズ御嶽

沖縄5名（豊見盛＋シャノン＋ルド） 河村・安田

計10名（散策） シードゥー→トゥムスズ御嶽→鍾乳洞

ウツカガーにて、金武町の成り立ちを説明し、鍾乳洞へ。鍾乳洞では、現地の泡盛の保存文化を説明。宜野座さん宅では、地域住民の目線から金武町の魅力や、ストーリーコンセプトでもある「祈り」と信仰について説明した。

11:45 金武区事務所駐車場で合流後、昼食へ

※雨雲レーダーを確認しつつ時間調整をおこなったため、なんとか雨を避けて研修することができた。

●大川（ウツカガー）



●鍾乳洞



●宜野座さん宅



●トゥムスズ御嶽・散策



<1日目-3>

●水と祈り散策（カフェレストラン長楽田芋膳）

昼食はカフェレストラン長楽にて田芋膳。金武町の豊かな水がもたらす食の恵み、田芋だけでも様々な食べ方、味付けがあることを、特に奄美の参加者へ体感していただく。オーナーシェフの豊川氏よりタイモの説明や、食材の説明（地産地消）を行った。日本初のお酒の貯蔵庫として金武鍾乳洞とした理由と金武町への地域貢献の話もあった。また豊川シェフは「BlueZoneKITCHEN」の取材を受け、その本にも掲載されているため、その本を読んだり、NETFLIXの「芋」の話をみて「田芋」を食べに来るインバウンドの観光客が増えていること、また豊川氏がロンドンのコルドンブルーで学ばれたため英語をすため、直接、インバウンドの観光客と会話ができることも事務局から補足。

また先ほどの金武鍾乳洞で熟成された泡盛のコースと豆腐ようを事務局にて購入し、夜の懇親会の試食で提供する旨を説明。



●水と祈り散策（タイモ農家・億首川バードウォッチング）

田芋料理と連動し、田芋畑を訪問し、農家から魅力や、地域性について説明。金武町の豊かな水がもたらす田芋、そして稲の二毛作により、水田に様々な野鳥が飛来することを学んでいただく。水が豊かであること、温暖な気候による効果をもとに、金武町で田芋が栽培される理由を紹介した。実際に田芋畑にシャノン氏、マット氏が入り、1本ずつ田芋の収穫体験を行う。1本抜くのも大変な作業であるのに、すべて手作業での収穫であることに田芋の希少性の理由を知る。

次いで、億首川にてバードウォッチングを実施。「豊かな水」を求めて全国屈指の豊富な種類の野鳥が見られることを、体験を通じて参加者に理解いただいた。



●かねやん食堂

やんばるで獲れたスギの料理を提供。シェフからスギ（スズキ目）の説明を行ったのち、東村役場観光担当者より、東村で実践している観光まちづくりの動向を紹介。食事を通して、東村の魅力や地域性・食を理解いただく場とした。

【保全体験型ナイトツアー-AKISAMIYO】班

16:50 管理棟前に再集合、沖縄バスにてかねやん食堂へ（5分）

大城、宮里、井上、有川、古村、宗像、岡本、河村、安田、江藤、河合 合計11名／夕食：スギ定食+さんぴん茶

【カヤック班】

17:45 かねやん食堂→東村観光推進協議会 平良事務所→やんばるの森へ

増田、照屋、加藤、玉置、MATT、亀井、中村、佐藤、シャノン、ルド、小田、バスドライバー 計12名



<1日目-4>

●福地ダムカヤックナイトツアー（雨天のため慶佐次川マングローブカヤックに変更）

天候（視界不良）のため、マングローブナイトカヤックプランに変更した。

第1報：10:38東村観光推進協議会小田事務局長より、視界不良の可能性が高いため、慶佐次マングローブナイトカヤックに変更の可能性がある旨、入電。

長楽での昼食時：研修生に代案への変更の可能性について案内／決定：東村に向かうバスの中で、代案での催行の旨、案内。

かねやん食堂での夕食後、慶佐次川に移動し、アドベンチャーのアクティビティならではの安全ブリーフィングのあとペアでカヤックに乗った。マングローブのトンネルの中に入って、夜行性の動物の姿や寝ている鳥など、暗い中、音・香り潮の流れなど、昼間のツアーでは気が付かないところや得られない体験として参加者からの評価は高かった。



●ナイトツアー-AKISAMIYO

かねやん食堂での夕食後、東村観光推進協議会オフィスに移動し、ガイドからやんばるの歴史や自然保全に向けた注意事項の説明を行った。ナイトツアー-AKISAMIYOは保全型体験であり、GPS信号や帳簿を参加者が持ちながら、動植物の発見時やごみの発見時に記入していく。自身も地域を守りながら体験ができることに参加者からの評価が高かった。

また、雨天でも実施できる体験のため、参加者からはツアーにおける代替案としての理解が深まったと意見があった。

事前準備：ガイド妹尾氏より、やんばるの森に生息する動物、昆虫などの事前データを入手。宗像氏・ルド氏に共有し、固有名詞の英語表記を事前にインプット準備をいただいた。また雨天中止となる場合の気象状況について、妹尾氏と確認した。



●ヤンバル エクスperiencesホテル ムンガニク（宿泊）

やんばるの自然に囲まれながらの宿泊で、地域の自然の豊かさを感じる。参加者からは、自然の豊かさに関する評価はあったものの、客室の狭さに対して改善余地ありと意見があった。事務局としても、この簡易宿泊施設に泊まる理由を、ナイトコンテンツやアクティビティへのアクセスの良さである旨を事前にもっと説明する理由が必要と感じた。

アクティビティ終了後、金武鍾乳洞で熟成された泡盛のケースと豆腐ようを管理棟で提供し、試食いただいた。沖縄・奄美における高付加価値ツアーのあり方、販売手法、ガイドの役割など、多岐にわたり夜おそくまでディスカッションが弾んだ。こじんまりとした簡易宿泊施設に宿泊することで、自然と管理棟での懇親会に参加する流れとなり、大型ホテルではなかなか実現できない濃厚な時間となった。



2日目

2日目の朝は、山登り。

大宜味村のネクマチチ岳は、やんばるでは珍しい石灰岩の岩山。麓から中腹に広がる亜熱帯の森を抜けながらの登山は沖縄ならではの。また山頂からの眺めは絶景で、世界自然遺産の森や美ら海を一望する。実はこの美しい景色の中に“やんばるの森の秘密”の1つが隠されているのだとか。本ツアーで、その秘密を解き明かしながら奇跡の森やんばるの魅力を体感した。

午後は、世界的な長寿の地域「BlueZone」として知られる大宜味村・喜如嘉集落へ。沖縄の原風景が残るこの集落を歩きながら、ゆったりとした時間の流れを体感することで「IKIGAI」とは何かを考えた。

また、喜如嘉の伝統工芸品として名高い「芭蕉布」の制作現場をのぞいた。喜如嘉の芭蕉布は13世紀頃から織られていたと言われ、琉球王府への献上品、また清朝や江戸幕府などへの朝貢品として重宝されていた貴重な織物。現在はその希少性の高さから「幻の布」と呼ばれており、喜如嘉の「おばあ」たちが伝統を継承している。ここでは伝統を守り受け継ぐことの大切さを学んだ。



<2日目-1>

●ネクマチチ岳トレッキング（雨天のため比地大滝トレッキングに変更）

【悪天候時のリスクマネジメント】

A案:ネクマチチ岳ウォーキング決行 B案:比地大滝

C案:森林公園(舗装道路) D案:ヤンバルクイナ生態展示学習施設

第1報：1日目 13:45 上開地氏と協議。雨予報のため滑る石灰岩のネクマチチから降水量次第ではD案まで視野に入れておく。以降、直前まで検討を重ねB案に決定、滝に向かう強度のA班と生態観察をするB班の2班体制で開始。さらにB班は急遽、途中で引き返すC班の編成も組み、3班体制での実施となった。

バス車内にて、①強度の強い班（ガイド：石井氏）②強度の弱い班（ガイド：上開地氏）に分かれ行動する旨を案内。

雨天により比地大滝トレッキングに変更。滝までの行程の中で、多種多様な植・動物の紹介を行いながら、やんばるの地を保全する意義を説明。参加者からも、ガイドの自然保全への想いに対して評価が高かった。事務局で傘やレインコートの貸出しも行った。参加者からは催行判断と対応のリスク管理について高評価をいただいた。



<2日目-2>

●Ikigai [南溟森室のシェルパ案内による喜如嘉集落散策(芭蕉布会館含む)]

仲門での昼食→集落散策の順序を、集落へ足を踏み入れる最初の感動を大事にしたいとの打ち合わせにより、集落散策のあと、昼食とした。そのため、バス車内でバナナとサーターアンダギー、さんびん茶の軽食を配布した。

大宜味村立喜如嘉公民館に到着後、2班にわかれて南溟森室のシェルパ案内による集落散策へ。“IKIGAI”をテーマに、集落の長寿文化の説明や魅力を伝えた。道中は、実際に民家の敷地にも入ったりと、地域との関係づくりができていないと実施できない体験を提供。道中には芭蕉布会館に訪問し、沖縄及び地域伝統の芭蕉布を見学・紹介した。



●Ikigai [南溟森室「仲門」にて「笑味の店」の弁当(研修振り返りを含む)]

芭蕉布会館やシェルパ案内のもと集落の魅力を理解したのち、南溟森室「仲門」にて昼食。昼食は「笑味の店」の弁当。全て地元で、当日採れた食材を活用した弁当を食しながら、代表の仲本氏による、集落の歴史・魅力や、施設の紹介を行った。中でも、「地域をいかに守るか」を強調した仲本氏の考えは参加者にとって新たな理解のきっかけとなった。

食後は、シェルパや仲本氏とともに本ツアーの振り返りを行い、那覇市内に向かった。なお、地面のぬかるみによる畑への影響を考慮し、笑味の店の畑見学は中止とした。

予定通り、18時に県民広場に到着後、本研修は終了した。

2日間とも雨天での実施となったため、予定していたアクティビティに変更が生じたが、ツアー催行会社⇄事業者・ガイド・コーディネーター・ランドオペレーターなどとの密な連携による催行判断、代案提示、中止判断、雨天でのオペレーション対応などを学ぶ絶好の機会となった。



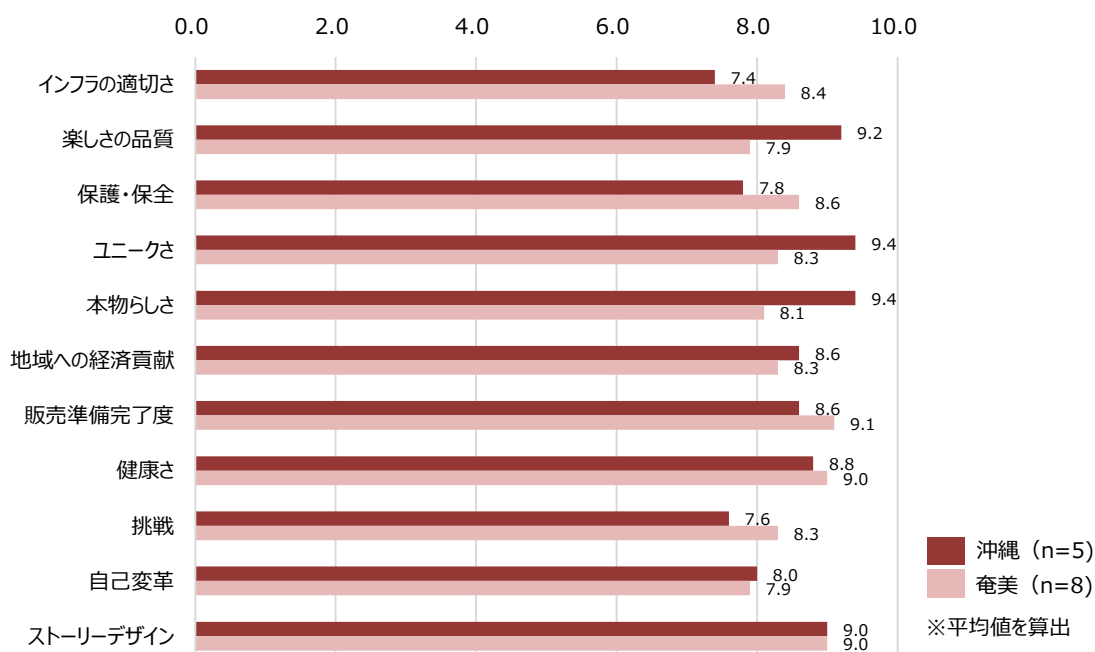
 評価

＜コンテンツ（体験）アセスメントの評価軸＞

ATTAが用いる評価項目やATTAが掲げる体験価値などを元に、以下の通り AT コンテンツに必要な基準を以下の通り設定した。この基準に基づき、本ツアーにおける各コンテンツ（体験・アクティビティ）を評価した。

	英語での評価軸	日本語訳	評価の観点	スケール
1	INFRASTRUCTURE APPROPRIATENESS	インフラの適切さ	コンテンツを楽しむ上で設備などが適切に整っているか（粗雑でも過剰でも低評価となる	1～10点 (10段階評価)
2	QUALITY OF ENJOYMENT	楽しさの品質	コンテンツがもたらす体験が楽しいと感じられる度合い	
3	QUALITY OF PRESERVATION / CONSERVATION	保護・保全	コンテンツに関わる自然や地域文化の保護や保全の度合いやその取り組みが感じられる度合い	
4	UNIQUENESS	ユニークさ	コンテンツがもたらす体験のユニークさ、その地ならではの感じられる度合い	
5	AUTHENTICITY	本物らしさ	コンテンツが人工的に作られた自然や文化を見せているのではない、「本物」の体験かどうか	
6	LOCAL BENEFITS	地域への経済貢献	コンテンツを介して地域への経済貢献がなされていると感じるかどうか	
7	READINESS	販売準備完了度	欧米AT顧客にすぐに販売できる状態になっているかどうか	
8	WELLNESS	健康さ	コンテンツの体験を通じて健康になっていると感じられるかどうか	
9	CHALLENGE	挑戦	コンテンツの体験に心理的・身体的な適度な「挑戦」が伴うかどうか	
10	TRANSFORMATION	自己変革	コンテンツの体験を通じて自分の意識や価値観に変化を感じるか、自らの成長につながるか	
11	STORY DESIGN	ストーリーデザイン	コンテンツの体験に適切なストーリーが設計されているかどうか	

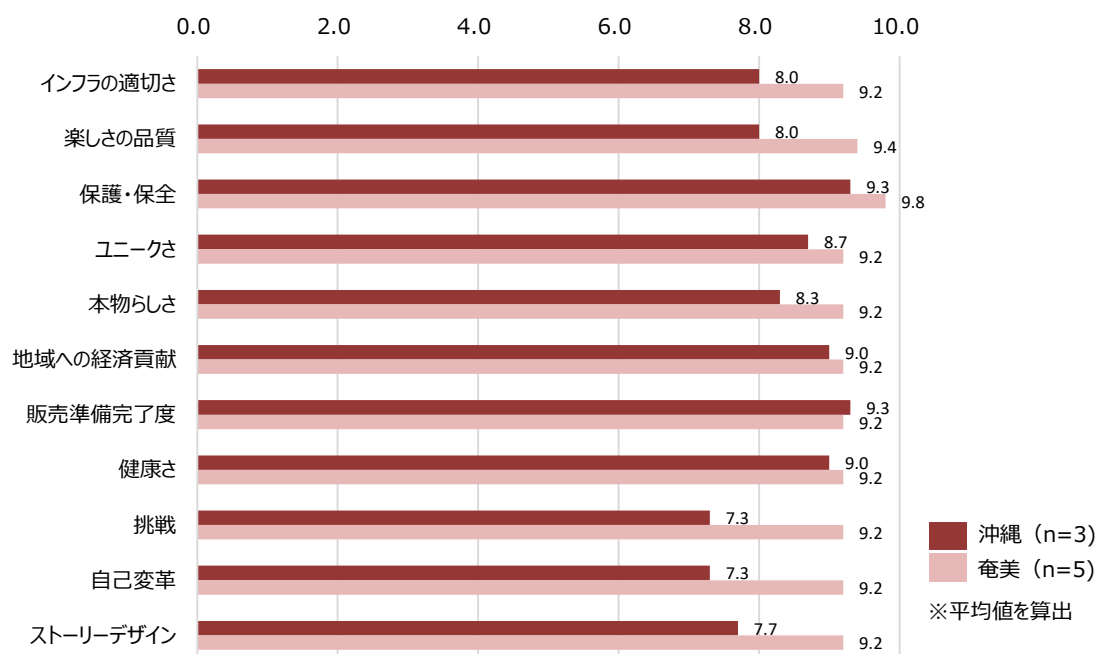
1 日目「水」と「祈り」散策



	評価点	改善点
沖縄	- 今まで金武が田芋、鍾乳洞、泡盛、野鳥などで有名なのは知っていたが、「水」を軸にそれぞれの関連(ストーリー)を知ることができ大変興味深かった。 - シードゥさん宅のトートーメーと愛美さんの清らかさに涙が出るほど度肝を抜かれた。金武CAVEの深さと大きさも素晴らしいかった。 - 民家に行けたのはとてもよかった。 - 数年前にオーストラリアのご夫妻を金武町にご案内した際に、洞窟→ターム畑→金武町大川→長楽の順番で案内すると、地元の方の生活文化を体験出来て非常にユニークだ。是非商品化した方が良く好評だった。 - 水がもたらす経済効果を感じた。	- ツルヒヨドリやギンネムが生えている地域を歩くので、世界自然遺産の貴重な森を守るため、バスに乗る前に靴底の泥を落とせるようブラシや水タンクなどが用意されているとより良いと感じた。 - りつこさんにドリーネについて質問したら「ググって」と言い放たれたのが雑だなと思った。いっぱいいっばいだったのでしょうか？ たけ原先生の説明も、聞きたかったのだが、聞き取りにくかった。街中では、車の通りもあるので、危険に感じた。説明する場所を選んでいただきたい。 - 沖縄の昔の生活や集落から話を広げていった方が繋がりがやすいため、民家から行き、ノロ御殿も行けたら良かったと思う。集落の中の御嶽の後に大川に行き、ターム畑に繋がればストーリーが理解しやすいかもしれない。 - 地元の方の家を訪問出来て仏壇に拝みを捧げられるのは大変付加価値があると思うが、入室して先ず拝みを捧げる順番の方が良いと思った。 「滑りやすい」などの表示をはっきりわかりやすいように表示してほしい。
奄美	- ごく当たり前の生活の場のなかのびっくりするような場所に鍾乳洞があらわれ、鍾乳洞をうみだす大地から生活に欠かさない水が湧き出るストーリーだった。 - フィールドは変わってガイドはとても話しやすくプロフェッショナルでよかった。 - ウッカガーの湧き水で沖縄本島の南部～北部にかけて地質の違いがあることを知り興味を持たせるところから、予備知識なしに秘密の入口から鍾乳洞に入りこの地層ありきの水の豊かさや活用法を飽きさせることなく説明し、実際にこの街で生活するかに自然への信仰や関わりかたをストーリー性をもって体験することができた。 - ガイドさんに知識が豊富で楽しかった。 - ツアーの始まりが聖なる泉で、洞窟→個人宅とだんだんと心の準備が出来、最後に御嶽で締めくくられ、沖縄の宗教観を感じるコンテンツだったこと。なかなか見ることのできない個人宅の仏壇を見せてもらったこと。 - 水→生活→祈りという繋がりを目で見て具体的に知る事が出来て素晴らしい。 - 沖縄の精神面に触れられた。	- 自分のお酒を鍾乳洞に置いてもらえるオプションプログラム - 少人数にすれば特別感はある。 - インバウンド向けを想定すると事前説明（例えば、ウッカガーはそのまま水を飲まないようにとか、鍾乳洞は何がおいであるとは言わずに中に大切なものがあるので手を触れないでとか。）このコンテンツはATのなかで自然＋文化体験になるかと思うので、アクティビティ要素が入っているほうが好ましい自分からすると、内容についてコメントするのは難しい。 - 街中でのガイドのグループコントロール。 - ほかの世代の人とも話してみたかった。 - もっと水に対する祈りの生活の説明が欲しかった。多言語の説明看板や滑りやすい階段に手摺があってもいいと思う。 - 沖縄の物事のお考えをもっと伝えたい方がい。「なんくるないさ～」 - ユタ・ノロの詳細な説明などがあればいいのではないかと(それぞれの当事者から)。

● 沖縄：沖縄からの参加者／奄美：奄美からの参加者 ● 赤字：ポジティブ／青字：ネガティブ

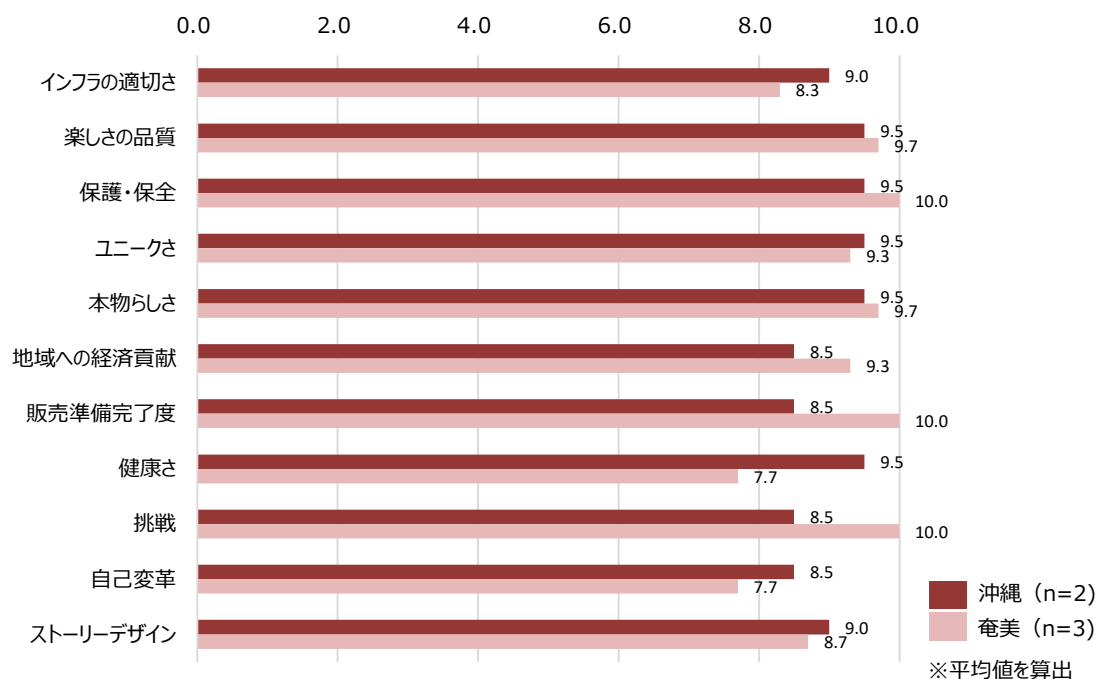
1 日目 福地ダムカヤックナイトツアー（雨天のため慶佐次川マングローブカヤックに変更）



	評価点	改善点
沖縄	• 夜にカヤックをするというレアな体験/冒険をすることができた。やんばるのツアーでは起こる可能性が高い「雨天」の対応について、体験できたこともガイド研修として大きな意味があったのではないかな。 • いっちゃん、ゆみさんのガイド・サポート・安全確認などは、素晴らしかった。詳細で、的確、わかりやすい事前説明、落ち着いた楽しい雰囲気、マングローブを理解するための説明などは、プロの技で、夜の雨のコンディションの中でも、大変楽しめた。マングローブの狭い河を雨音を聞きながら、カヤックで進むのは、神秘的な体験だった。 • 生憎の雨天で慶佐次川に変更となったが「生きがい」のテーマから考えると星空も眺める時間を考えると大自然に包まれた自分、偉大なる自然の中のちっぽけな自分の存在と向き合うことが出来、自己変革、そして生きがいを再認識する上で貴重な体験となったと思った。	• 車のシートを濡らさないような指示(部屋のバスタオルを持ってくる？ゴミ袋を用意する？)があるとより良かった。 • ATのアクティビティとしては、正直物足りない。例えば、狭い河を電気を消して、全員でロープでつながり、しばらく真っ暗の河を漂いながら進むとか、ヘッドライトではなくて、ランプの灯りを使うとか、もう少し特別な体験がないと心に残らない。今回は、悪天候のため、慶佐次マングローブになったが、本来の予定だった福地ダムの体験だったら、どうだったのかな？と気になった。 • ガイドの声が聞きにくい時があり、話す時はお客様の方を向いて話す様に心掛けると良いと思った。
奄美	• 雨の中で話し、説明、安全管理はさすがプロだなと思いました。スルーガイドとして非常に組やすいと思いました。 • 夜ということで更に日常とは全く違う世界を体験出来て素晴らしかった。闇と静寂は、心に響くものがある。 • 非日常を体感。冒険へのチャレンジ	• 少人数がいいです。 • もっと少人数の方が説明が聞きやすいし、感動は深くなる。 • 人数が多いとガイドの説明が聞こえにくい。

● 沖縄：沖縄からの参加者／奄美：奄美からの参加者 ● 赤字：ポジティブ／青字：ネガティブ

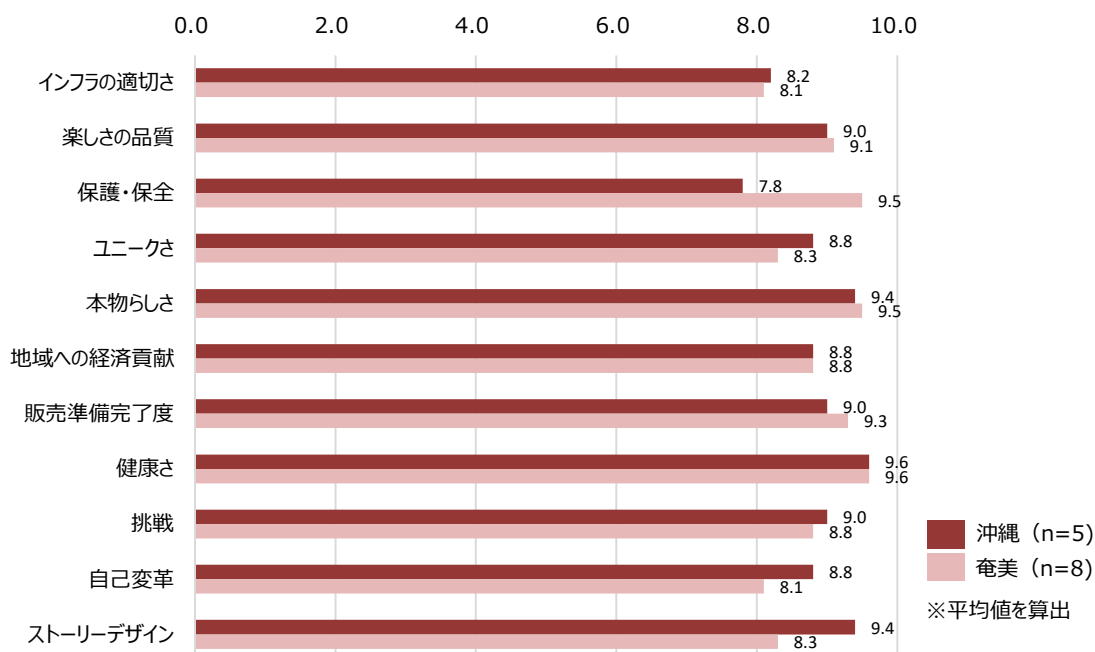
1日目 ナイトツアー-AKISAMIYO



	評価点	改善点
沖縄	- GPSを使って記録したりゴミを拾ったりする参加型でとてもよかった。 - アスファルトで舗装された道を歩きながら、自然の生物を見ることが可能な点。	- 外来種が入るのを防ぐために靴の裏をこするマットだけでなく水、たわし、環境にやさしい洗剤などを使って事務所でもかなり念入りに落とすと意識の高さがさらに上がって良いと思う。 - 初日の夕食時間が少し早すぎるように感じた。
奄美	- 参加者を環境モニタリング調査をしながら生き物を観察するといったナイトツアーは初めて聞いた。もともとボランティアで実施されていたものを、バランスを取りながら商業ベースに落とし込んだ。事前のガイダンスや振り返りも、一歩進んだ体験も求める方には、魅力的なものだと感じた。ポイントまで行くのに密集した集落内と通過する必要がないのも良い。 - とても楽しかったです。 - 地元の人が行っている林道パトロールで、役割分担があり能動的に参加できたこと。 - 夜のマングローブを体験することができて良かった。	- 徒歩で成立させられるツアーかつ、利用する林道が幹線道路ではないので、夜間緊急車両以外の通行を禁止できたら、なお良いかと思った。 - 人財育成。 - 画像をいただけたのはありがたいが、後日家族に話した時に生物の名前を忘れていたので、振り返りの時にもう一度画像を見ながら教えてもらえると良かったと思う。 - 雨天時の対策の重要性(防寒も含めて)。

● 沖縄：沖縄からの参加者／奄美：奄美からの参加者 ● 赤字：ポジティブ／青字：ネガティブ

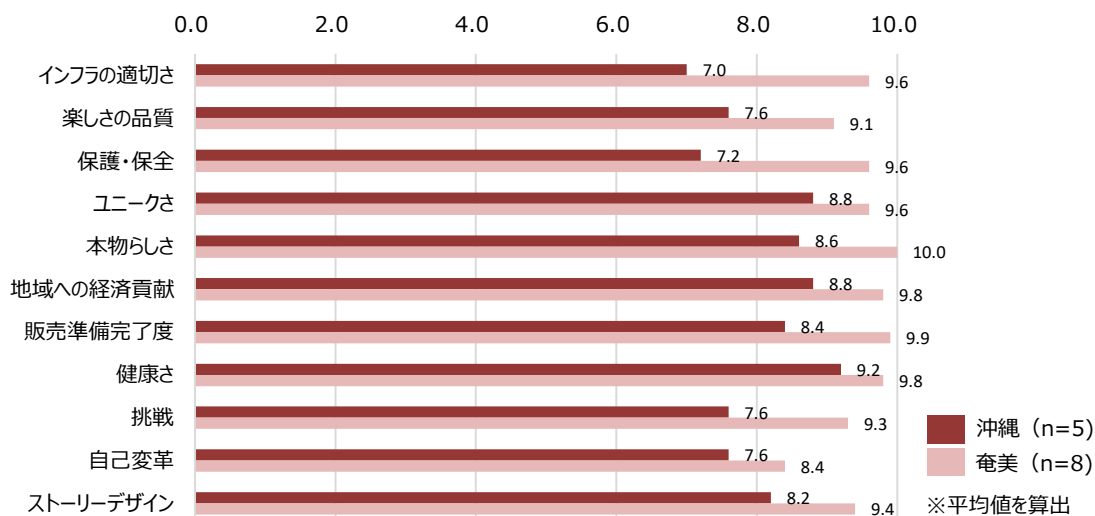
2 日目 (Ikigai) ネクマチチ岳トレッキング (雨天のため比地大滝トレッキングに変更)



	評価点	改善点
沖縄	- 事前説明にて、2チームに分かれる説明で「生物のド変態」と愛さんが説明してくれたのが、全く持ての意を射ていて、ゆっくり観察チームと、滝を目指すフィジカルチームという良いチーム理由をしてくれたと思う。単なる生物の説明だけではない、やんばる生態系のつながりを伝えてくれる上開地さんの熱意在るガイドは、最強だと思う。一方、このガイドを通訳するとなると、難しいなあと考えながら聞いていた。 - ネクマチチの代案として比地大滝はとても良いと思う。アカヒゲなど貴重な生き物も見れてよかった。 - 生憎の天気で比地大滝に変更となったが、ガイドの話が大変丁寧で分かり易く自然保護に対する情熱が感じられスルーガイドとして是非一緒に頑張りたいと思わせる人間力の高いガイドだった。	- 大雨の中、何処まで行くか？何処までやるか？の判断が難しかったなと思った。午後の喜如嘉の予定がなかったら、最後まで歩いていたらと思うが、途中で引きかえて正解だったと思う。雨のやんばるも、もちろん美しいし、楽しいけれど、3時間だけで終わるツアーなのか、その後の工程がどうなっているのかを考えながら、決断する必要があるかと思った。無理して予定通りにやろうとしない。森と自然を感じながら進みたかったので、あんまり説明が多くて思考を使いすぎたり、人との距離が近すぎて、同行者の匂い（？）例えば、シャンプーとか？も、自然の中では気になるので、私はなるべく少ない人数で自然を歩きたい。 - 御嶽に手を合わせてから登っていったほうがよかった。 - 石段にひび割れがあったり修復要の箇所が見られた。「モクズガニ」はもう見られないとの事でしたので沢で見られる表示板から外す必要があると思う。
奄美	- 雨天により、目的地を変更する良い判断だった。ガイド力が強いので、ガイドをつけない方も入山できる遊歩道であっても、ガイドを利用する価値があると感じた。北部の赤土をベースとする山が豊かな水を育み、それが南部に向かっていくといった水のストーリー性や、砂防ダムによる人間と自然の関わり方も環境意識がある方に響く部分であると感じた。滝や吊り橋から見る低い雲がかかった亜熱帯の山の雰囲気も、魅力的な部分。 - ガイドが楽しそうにガイドしていた。 - 悪天候で行けず代替プランだったが、十分楽しめた。ガイドの森や生き物に対する愛情と感じられたこと。 - 自然の中にいる、その空気に溶け込む自分を感じ、また小さな生物の生命力を感じた。 - ガイドの知識の多さに信頼がある。	- 広くみると、奄美・沖縄の現場のガイドの共通認識として、ガイド付きで利用するゾーンを、行政と全エリアのガイド協会が真剣に向き合い議論し、設定することができれば、顧客満足度の改善につながる感じた。狭い部分で言えば、今回の参加者でさえ、雨に対する準備が不十分だったので、ゲストを案内する際は、より周知徹底が必要だと感じた。 - 催行のグループ感（少人数が望ましい）。 - 雨天時の装備についての説明。 - 雨の日だったせいもあるが、道に深いぬかるみが多い。突然の雨に遭った人にはスニーカーが濡れになる。 - 虫の説明が多かったが、草花や鳥の話もあった方がいい。悪天候でもタブレットでこんな感じですと見せて、聞かせてもらってもいいのでは。 - 障害者等への対応。

● 沖縄：沖縄からの参加者／奄美：奄美からの参加者 ● 赤字：ポジティブ／青字：ネガティブ

2日目 (Ikigai) 喜如嘉集落散策 (芭蕉布会館含む)



	評価点	改善点
沖縄	- 実際の集落の中を歩き、実際の生活の様子を垣間見れるのは、「Blue Zone」や「Ikigai」をきっかけに沖縄に興味を持ち、実際に沖縄に来る方にとって非常に重要な体験になると感じた。 - シェルバ大城さんのガイドと英語は、親しみやすくてとても良かった。喜如嘉の集落もとても美しかった。 - 地域のガイドがいるのは良いと思う。 - 沖縄の伝統工芸品「芭蕉布」を学ぶ機会や、南溟森室での若い方に色々な事を任せてall roundに対応出来る地域に貢献出来る人材育成作りに対する姿勢は素晴らしいと思った。 - 生きがいを持つことの大切さ。	- 共同売店の方など、地元の方と話(インタビュー?)ができるとよりオーセンティックな体験になると感じた。 - 雨がひどすぎて、説明に集中できない＆聞こえなかったのも、あまり説明が聞けず残念だった。雨がひどい時は、屋根のあるところで、なるべく説明を聞けるように工夫してほしい。また一部の人の意識を向けすぎて、他のお客さんを置いてきぼりにしていないかも気にしてほしい。 - 区長など、現地の人に説明してもらいたいと思う。見せ物ではないのはわかるが、そこに住んでいる人と話してみたいという希望が欧米人から多いので、何か接点があるとよいかも。 - おじい、おばあに負担がかからない様に若手スタッフを案内役に行っているのは、おじい、おばあを大切にしたいと思う一人として同感出来るが、欧米諸国がブルーゾーンに求めるものは、おじい、おばあとの交流である事を否定できない。しかも「ikigai」をテーマにしている点、付加価値のあるツアーである点からすると現コンテンツでは、集客は難しいと思う。外国人と話をするのが好きなおじい、おばあもいるとのことなので、そういう方々(80代半ば～後半)を数人登録し、集落ルートの一部だけでもお願いし残りシェルバが行うとか、おじい、おばあが気分が悪くなったり等、負担がかからない要素を条件提示して、予定より短めにおじい、おばあが帰ることに同意の下で行う等、シェルバが常におじい、おばあに負担がかからない様にアテンドしてサポートするという体制にしてはどうか。そうすれば、おじい、おばあに負担軽減どころか、外国人交流を求めているおじい、おばあにとっては、自分の存在を認めてもらえてハッピーになる。この集落案内自体が、おじい、おばあにIkigaiになる可能性も出てくる。お客様も念願のおばあとの交流も出来て、質問にも直接答えてもらえて、「本物らしさ」で満足いくものとなるだろう。若いシェルバの方々も、おじい、おばあに外国人客を繋げる役割としての自分の存在意識も高まる。
奄美	- 地元の環境やプライバシーに対する配慮、リスペクト。シェルバの集落に対する愛。 - ありのまま最高！ - シェルバが楽しんで仕事をするように感じた。生きがい、自然と先祖への崇拝のコンセプトをもとに、シェルバ自身の気持ちもこもり、分かりやすくガイドしていただいた。昔から否定しないという、シェルバの方の一言が、今の多様性と同じだと感銘を受けた。芭蕉布会館は文化が好きなら、興味を持てるコンテンツだった。 - 地元のシェルバの解説は真実味が大きかった。 - 集落内にもゴミがなく、地元で馴染んだ若いシェルバさんの集落散策がよかった。地元への配慮をしっかりと伝えてくれたこと。 - 映像で詳しく鑑賞出来たのでわかりやすかった。 - 伝統工芸を引き継ぐ努力がわかる。 - センテナリアンのライフスタイル、「生きがい」の重要性。	- メインターゲットは少人数のグループかと思うが、グループツアーだとうるさくならないようにとか、うまくメッセージとか伝わらなかつたりして気をつかうのかなあと思った。 - 欲張りといえば途中で地元の方と偶然にあえると完璧だけだと一緒に。 - 共同売店に入れたらよかった。(普段は入ってるのだろうけど...)。 - 集落、地元の人との良好な関係性の維持。 - 私は個人的にとっても楽しみにしていた。実際の着物の展示や高価だからこそ買えないので試着してみたかった。 - 織り工さんと話が出来たらいいなあと感じた。 - 長寿者からの生の声を聴けばと考えるが、難しいか。

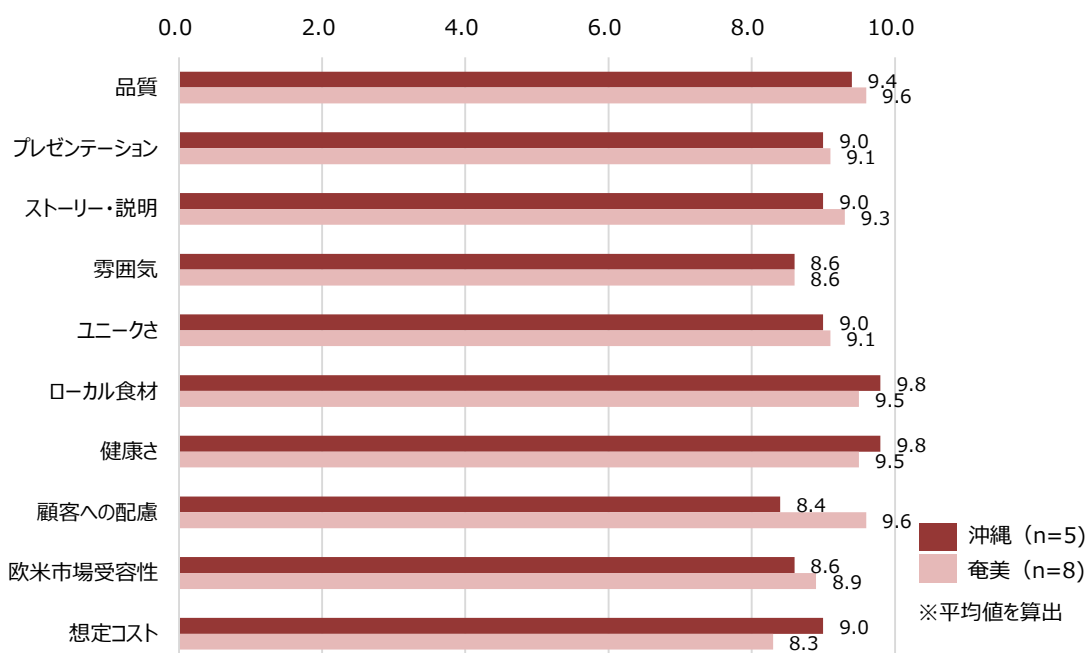
●沖縄：沖縄からの参加者／奄美：奄美からの参加者 ●赤字：ポジティブ／青字：ネガティブ

＜コンテンツ（食）アセスメントの評価軸＞

ATTAが用いる評価項目やATTAが掲げる体験価値などを元に、以下の通り AT コンテンツに必要な基準を以下の通り設定した。この基準に基づき、本ツアーにおける各コンテンツ（食事）を評価を行った。

	英語での評価軸	日本語訳	評価の観点	スケール
1	Quality	品質	食べ物や飲み物の味・美味しさ	1～10点 (10段階評価)
2	Presentation	プレゼンテーション	盛付やお皿、テーブルセッティング等の設え	
3	Story / Expranation	ストーリー・説明	レシピ・調理法や食材などの説明・ストーリー	
4	Ambience	雰囲気	食事場所の雰囲気	
5	Uniqueness	ユニークさ	味や体験のユニークさ	
6	Local ingredients	ローカル食材	ローカル食材の使用	
7	Wellness	健康さ	レシピや食材の育て方などから感じる健康さ	
8	Consideration	顧客への配慮	ベジタリアンやグルテンフリー、低炭水化物食の希望等への配慮や対応度	
9	Acceptance	欧米市場受容性	欧米マーケットの受容性	
10	Cost acceptance	想定コスト	体験からの想定妥当価格（一人あたり）	

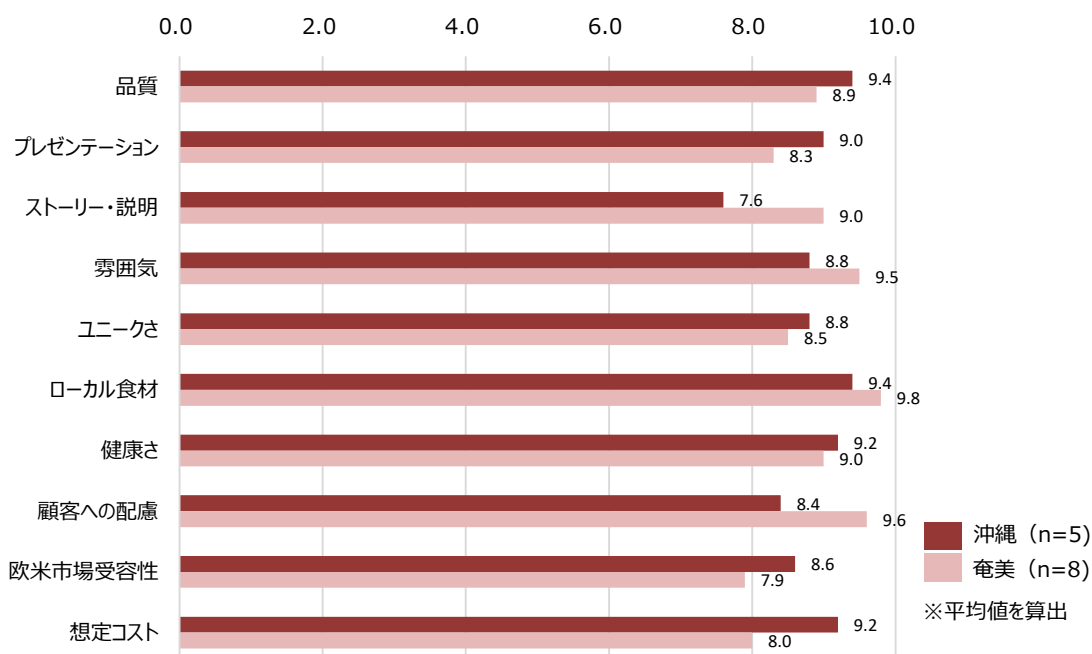
1日目 (「水」と「祈り」散策) カフェ長楽 田芋膳



	評価点	改善点
沖繩	• コックと開業者から直接、田芋を活かしたお店を開いた背景の話を伺えたのがとても面白かった。 • おかみの熱意とストーリーには感動した。話を聞いてみなければ、わからなかったことなので、時間を割いてお話していただき、感謝する。 • 沖繩の伝統的な田芋料理が食べられてとてもよかった。 • 数年前にオーストラリアのご夫妻を金武町にご案内した際に、洞窟→タム畑→金武町大川→長楽の順番で案内すると、地元の人の生活文化を体験出来て非常にユニークだ。ぜひ商品化した方が良くと好評だった。 • 地元の食材を使った食事。	• トイレの数が少なく、一度に誘導すると時間がかかるので、うまく誘導する必要があると思った。 • 田芋の扱いは難しいとのこと、料理教室などで、その扱いについて、具体的に知ることができれば、より理解度が深まると思った。 • チーズケーキと田芋パイもデザートに一口ずつあると良いと思う。欧米人には食後のコーヒーと一緒に出すと喜ぶと思う。田芋膳の中身一つづつを少量にしパイとケーキも少量加えコーヒーも合わせて価格も調整してもらえたらいい。 • シェフは忙しいと思うが、付加価値を求めたツアーなので、メニュー内容説明を食べる前に行った方が良くと思った。 • バスが窮屈だった。大型バスの移動がよかった。
奄美	• 自分の商品に誇りを思っているところ。 • 町の特産の龍が順調に伸びてきたから、同じく特産の田芋は価値をうまく見いだせず畑が荒れていくことに気が付き、田芋に付加価値をつけ提供する形を作ったということにストーリー性を感じた。また、周りの反対を受けながらも、ゴミの放棄地となっていた鍾乳洞を、古酒蔵として復活させたといったストーリーも観光客目線でみると、インパクトがあった。そのあとの、田芋の収穫見学＋畑ありきのバードウォッチングを通して、豊かな水の存在を再認識することができる。 • すごくおいしかった。 • 作り手の思いが聞けたこと。実際に田芋畑に行ったこと。 • 長寿の秘訣の食材を知る事が出来た。また食べることでもっと興味深くなった。 • 地元食材が長生きと関連する事が理解できる。製造者の話が聞けた事は、信頼に繋がる。	• 強いというなら食事の前にコックから一言があればよかったと思った。 • 歴史、文化、ローカルフードに興味がある方には申し分ないので、特になし。 • 施設補煩雑さが気になった。 • 話のタイミング（料理の説明は食べる前の方がよかった）。他の地元食材もあるとよかった。 • 長く言葉だけで説明すると混乱するので説明の時に実物や写真を見せながらした方が分かりやすい。 • 食材の説明ペーパーがあるといい。持ち帰れる。

● 沖繩：沖繩からの参加者／奄美：奄美からの参加者 ● 赤字：ポジティブ／青字：ネガティブ

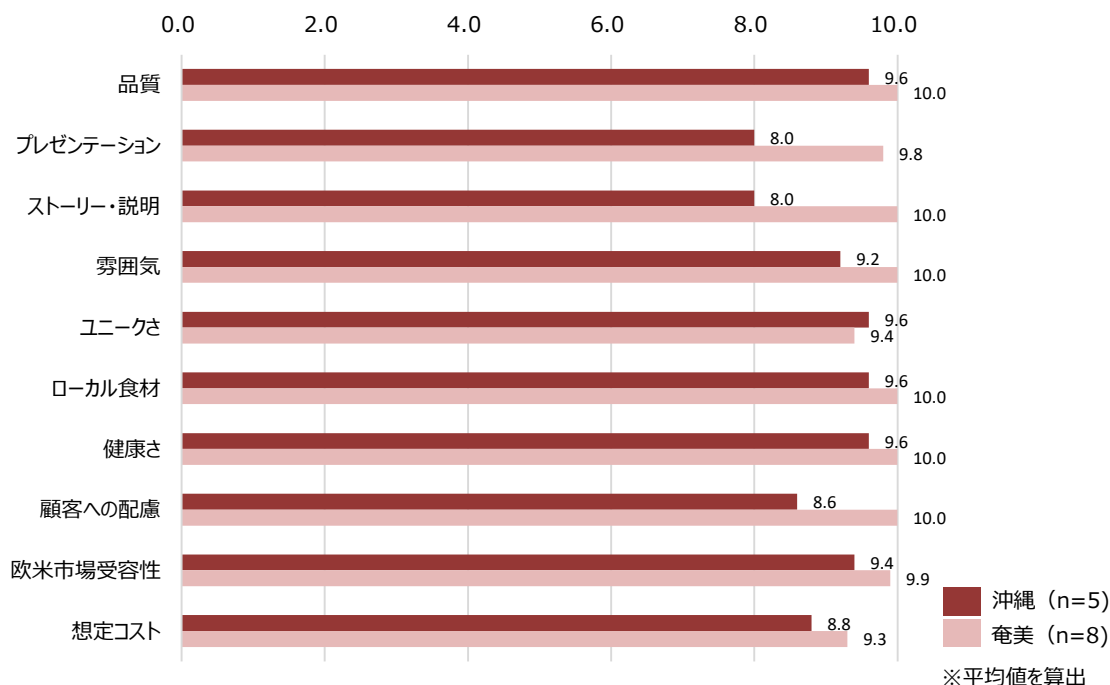
1日目 (夕食) かねやん食堂



	評価点	改善点
沖縄	・ヤンバルすぎとは、初めて聞いた。カンパチに近い魚で、地元で採れる食材を使っているのもとても良かった。刺身も、揚げ物もとても美味しくいただいた。 ・大宜味村で養殖されているスギをつかっているところは良いと思う。 ・ローカル食材が使われて美味しいお店の雰囲気も申し分ないと思った。 ・椅子が固い。背もたれがない。熱い飲み物がない？	・お土産にできる加工品などもあったら、今後良いのではないかな。 ・ただ出されて食べたという印象。オーナーの思いなどはあまり伝わらなかったで、もう少し引き出せたら良いと思う。スギはカルパッチョだけにしてフライは地元の野菜のてんぷらなどでも良いと思う。 ・シェフは忙しいと思うが、付加価値を求めたツアーなので、メニュー内容説明を食べる前に行った方が良いと思った。 ・背もたれのある椅子があるとよい。
奄美	・すぎという魚は初めてで金子さんの話はわかりやすく面白かった。美味しかったし、勉強になった。 ・地の食材をカジュアルに活かしていると感じた。昼間に頂いた長楽さんは郷土料理色が強く、郷土料理を楽しめるタイプではない私にとっては少し重かった。それと比較し、肩の力を抜いて、美味しい定食として、自産自消を楽しむことができた。 ・とてもおいしかった。 ・売り出し中の地元食材を使用、リーフレットや説明もあったこと。 ・地元では当たり前とする魚を知る事ができ、食べることも出来て素晴らしかったし、美味しかった。 ・小さなレストランは、素朴な印象で興味をそそられる。 ・地元の食材を使用して健康的だった。顧客への説明など非常に良かった。	・骨が少し気になった ・味付けが濃く、素材そのものの味がわかると良かった（タレを自分で調節できるなど）。 ・魚は味付けせずストレートに刺身の方が外国人にも好まれると思う。食材と地元の方々との繋がりの説明がもっと欲しかった。 ・店長がもっと積極的に出た方がいい。魚に辛い味が付いていたが沖縄流の食べ方なのかな。刺身で食べてみたい方もいるのでは。

● 沖縄：沖縄からの参加者／奄美：奄美からの参加者 ● 赤字：ポジティブ／青字：ネガティブ

2 日目 (Ikigai) 南溟森室「仲門」「笑味の店」の弁当



	評価点	改善点
沖縄	- 植物中心、薬用の野草など「ブルーゾーン」の重要な要素を感じることができ、とても良かった。 「笑味の店」のお弁当は、大変大変美味しかった。南溟森室「仲門」さんもとても美味しかった。 - 弁当にはちゃんと説明があったのでとても良かった。 - 築90年の古民家で、地元之家に招待された様な雰囲気の中で、長寿食で有名な「笑味の店」のお弁当を頂けるのは、素敵な体験だと思う。 - 昼食時の座る場所、座敷ではなく掘りごたつ椅子のある場所がよい。	- 食材について、簡単でもいいので説明があると良かった。 「笑味の店」のお弁当は、大変大変美味しかった。美味しかったので、もっと集中して味わえたら良かったなと思った。つまりは、黙食。話をしながら食べるのって、お食事に敬意を払っているのか？私は疑問だった。今回は、研修で時間がないからだと思うが、丁寧に作っていただいた食事は、丁寧に味わいたいのが正直な気持ちだ。南溟森室「仲門」さんのルームツアーも良かった。 - えみさんに来てもらえたらもっと良いかも。 「笑味の店」のメニュー内容の説明があると良いと思う。
奄美	- いつみさんの行動力、シマ文化をつぎに繋げたい情熱。 - ありのままのところ。 - 食事の際にコメントしましたが、Endemic Gardenさんの経営方針や、実際にそれをやっていることに感銘を受けた。 - 代表の方のストーリーとビジネスモデルが秀逸。大変な部分は多いだろうが勇気をもらえた。 - お弁当は説明書き入っていたので、楽しみながら味わえた。宿の雰囲気もよかった。 - 集落での活動には地元との繋がりの大切さを感じた。 - のどかに暮らす地元の生活ぶりが長生きに繋がると感じた。 - 健康食でしかもおいしい。	- 特にスルーガイドの責任が大きい。思い出を含めて素晴らしいものを正確にコミュニケーションが大事。 - 事業説明のプレゼンがあると理解が濃くなると思う。 - 正座の苦手な人への配慮。 - 食事場所には、脚を下ろせる形があった方が良いと思う。床に座れない方もいる。 - 観光客に見られたくないお宅の黒い幕が気になった。門の垣根等工夫をして差し上げていいのでは。 - 農作業の体験ができると良かった。

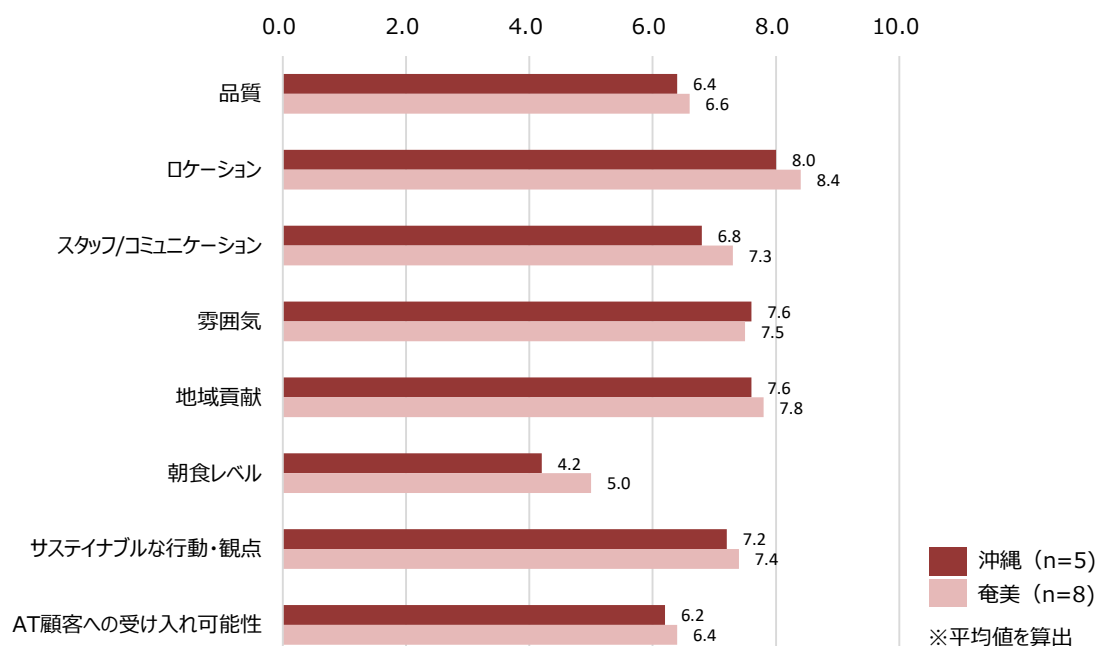
● 沖縄：沖縄からの参加者／奄美：奄美からの参加者 ● 赤字：ポジティブ／青字：ネガティブ

＜コンテンツ（ホテル）アセスメントの評価軸＞

ATTAが用いる評価項目やATTAが掲げる体験価値などを元に、以下の通り AT コンテンツに必要な基準を以下の通り設定した。この基準に基づき、本ツアーにおける各コンテンツ（ホテル）を評価を行った。

	英語での評価軸	日本語訳	評価の観点	スケール
1	Quality	品質	部屋の設備、清潔さ、広さ等	1～10点 (10段階評価)
2	Location	ロケーション	立地の観点。静かにくつろげるか、体験までのアクセスなど	
3	Staff / Communication	スタッフ コミュニケーション	スタッフの対応や会話やコミュニケーションなどの観点の評価	
4	Ambience	雰囲気	ホテル全体の雰囲気など	
5	Local benefits	地域貢献	地域への経済的貢献が大きいと感じるか	
6	Breakfast	朝食レベル	朝食のチョイスの幅やボリューム、味など	
7	Sustainable action	サステイナブルな 行動・観点	ゴミやCO2への観点・及びそれに対する具体的な行動の有無	
8	Suitability for AT market	AT顧客への 受け入れ可能性	全体を通してAT顧客向けと感じるか	

ヤンバル エクスぺリエンスホテル ムンガニク

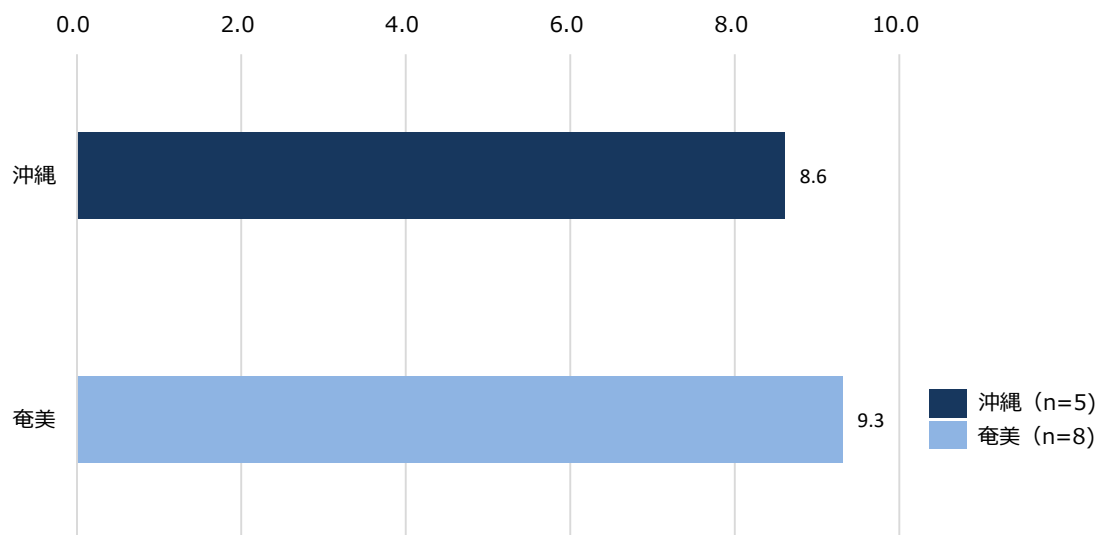


	評価点	改善点
沖縄	- とても快適に過ごせました。 - 新しく綺麗。 テレビがないのは自然を楽しめというメッセージだと思うので良い。 - とても自然に囲まれた環境でのステイで心地良いと思う。 - 自然とのふれあい、地元の人との接触。	- 朝散歩をしている時に、ホテルからの排水がジャバジャバと排出されるのを目にした。もちろん浄化槽で処理されているとは思いますが、なるべく環境へ負荷をかけないのがこれからの観光だと思うので、生分解性の高いシャンプーなどが提供されるととても素敵かもしれない。 - 足の踏み場もないほどに狭すぎる。機能的でない。使いにくい。心がこもっていると感じられない。雨の日はどうしようもない。山歩きしている人が山小屋代わりに使うようなシェルターみたいだな？と思った。ただ寝るだけなら良いと思うが。なぜか、セットもしていないのに、5時に目覚まし時計が鳴り、リセットの仕方がわからないので、また15分後に起こされた。すぐ近くに、同じようなエコステイ東村があるのに、なぜ、このタイプのお宿を作ったのかな？と思った。 朝食はもう少し工夫が必要だろう。 - 富裕層向けにしては、ベッドのマットレスが固めだと思う。朝食に村の産物であるパイナップルをカットパインの形で追加してあげると喜ばれると思う。
奄美	静かできれいで快適。狭いながらも必要充分なものが揃っている。 - ロケーションがよいので体験の一部としては良いと思う。 - 利用しやすい清潔な施設だった。 - 雰囲気は良い。 - 狭い部屋にびっくりしたが、翌朝はデッキにイスを置いて朝食を食べた時に、宿のコンセプトを理解したような気がした。鳥のさえずりを聞きながらの朝のコーヒーは美味しかった。 - スタッフさんとはコミュニケーションをとってないのでわからない。 朝食が豊かでないことは、この地域の特性をより印象付けるのに良い。 - 従業員のモチベーションが高かった。	朝食は、あのクオリティなら無しでいいと思う。朝食を提供するなら値段を上げてでも、地元のフルーツや地元の店のパンがいい。入口のブラインドはカーテンに、外の風が感じられるよう網戸があるといい。 - 狭いからか、1人でチェックインしなきゃいけないなら手間はかかりすぎだと思う。 自然体験を中心としたATを求める方には申し分ない施設だが、文化を中心とした体験を求める方には、バリアフリーなどの対策が必要になると思った。 - やはり狭く感じた。 宿のコンセプトを初めに伝えておくと、文句が少なくなると思った。備え付けのテーブルが組み立てられなかったので、工夫があると良い(組み立て方の説明など)。 - 部屋が狭い。スツーカーを広げる場所が欲しい。 - 朝食用の食材を地元で購入して貰うのは、良いアイデア。ただ、ツアーがある事を事前に知らせ種類を増やさないとクレームになりかねない。

● 沖縄：沖縄からの参加者／奄美：奄美からの参加者 ● 赤字：ポジティブ／青字：ネガティブ

<全体評価>

研修全体の満足度

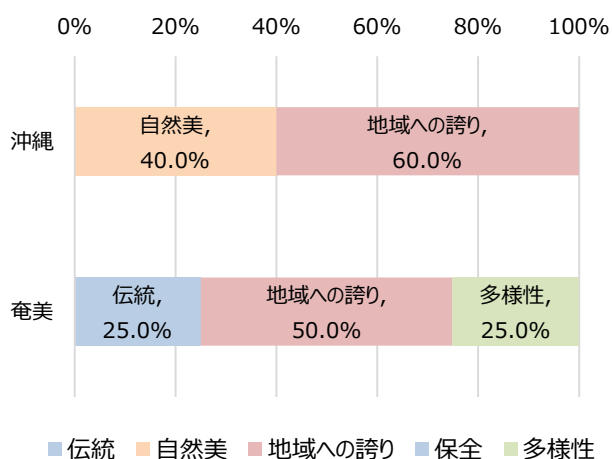


	満足度（理由）
沖縄	- 様々な分野ですでに活躍されているガイドと、意見交換しながら研修を行えたことが大きな学びにつながった。また日本におけるATの第一人者であるシャノンさんからアドバイスを頂けたことも大変ありがたかった。 - スルーガイドの愛さん、ルドのガイディングは大変勉強になった。JTBが、深く考えて行程を作ってくださり、細心を払って当研修を催行してくださったことに感謝する。いろいろな方とのご縁が出来た上、やんばるを学ぶ機会となった。素晴らしい機会に感謝する。 - 訪れる場所も内容もとても良かった。 - 雨天時のアクティビティ対策が良かった。自然の中の散策はとてもよかった。とても勉強になった。ガイドとして基本に戻り、意識を新たにした。
奄美	- ストーリーテリングの表現方法、外国人講師からみたコンテンツの感想など大変参考になった。 - いろいろな地元の人とアイさんとLUDOを通じて沖縄のありのままの場所を見ることができた。 - 座学では学ぶことのできないことを体感することができた。是非チャレンジしたいと思った。 - ローカルガイド・スルーガイドの説明が被ってる部分が結構あって聞きづらい部分が少しあった。ガイドの役割分担を明確に。そのほかはGOOD。 - 他地区のガイドと交流する機会が普段少ないので、つながりが出来たこと、情報共有が出来たことがよかった。スルーガイドの役割を学べたこと。 - スルーガイドについてとても勉強になり、またストーリーについても考えさせられる研修だった。 - ガイドをする上で関係者との連携、現場で求められる特に安全面での判断力等心したい。人の内面にある「生きがい」がツアーのコンセプトになり得る事が学べた。 - 沖縄固有の文化・歴史を学び、また、環境保全の重要性も再認識できた。

● 沖縄：沖縄からの参加者／奄美：奄美からの参加者 ● 赤字：ポジティブ／青字：ネガティブ

ツアー：独創性

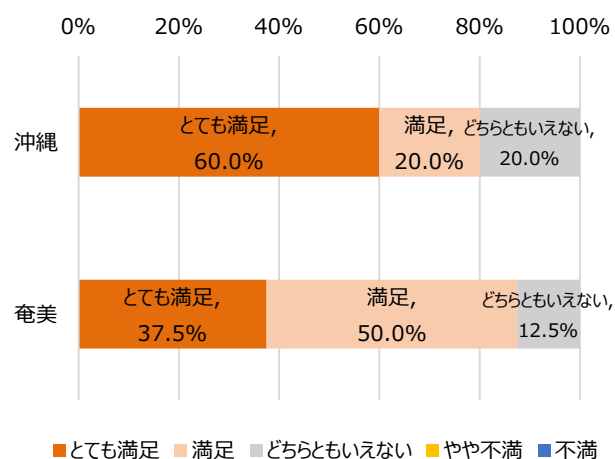
本ツアーの、他では味わえないユニークな体験をキーワードの中から自身が最も強く感じたユニークさを表しているものを教えてください。



沖縄・奄美双方ともに「地域への誇り」への回答が半数以上だった。

ツアー全体の満足度

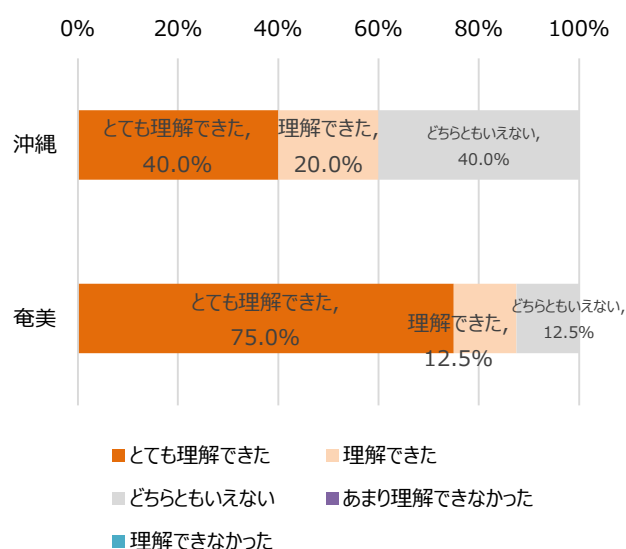
「Ikigai」をテーマとした本ツアーにはどれくらい満足しましたか？



沖縄・奄美双方ともに6.5割以上が満足を回答した。

ツアーコンセプト「Ikigai」への理解度

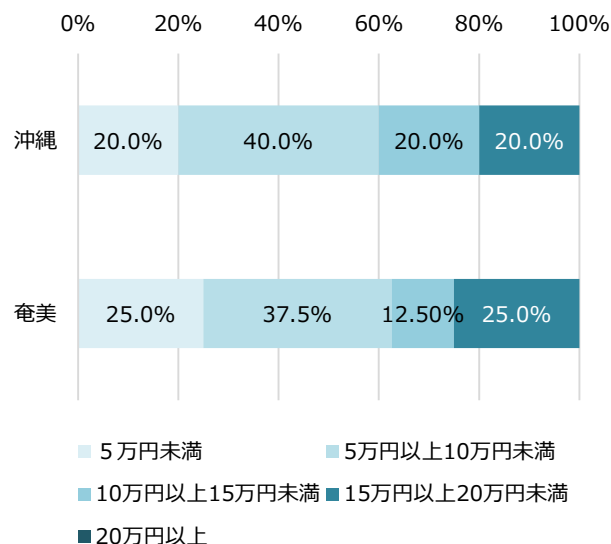
本ツアーを体験して、ツアーの核となるテーマ「Ikigai」についての理解度はどの程度深まりましたか？



沖縄・奄美双方ともに8割以上がコンセプトを理解した。

価格妥当性

このツアーの1人あたりの適正な価格（税込）はいくらだと思いますか？



沖縄は5割以上が10万円以上、奄美は6割以上が10万円未満と回答した。

● 沖縄：沖縄からの参加者（n=5）／奄美：奄美からの参加者（n=8）

研修全体の感想

＜ツアー内容＞

沖縄	- 多様なアクティビティを行うことができとても良かったと思う。 - ATでも、高付加価値でも、日本人のおもてなしをしすぎて、使用人にはなって欲しくないと思う。異なる文化の観光客に、相手の言語で説明するのは、大事だと思うが、西洋文化に合わせすぎる必要はないと思っている。しっかりと日本文化をプライドを持って、お互いを尊重し合う相手として対等で伝えていきたい。 - やんばる三村だけでなく、金武を入れたのは面白いと思った。
奄美	- 途中からずっと日本語になっていたが、外国人向けのガイドの研修なので英語でのガイドングを実践する場面があったほうがよいと思う。 - もっと全体像がわかってから参加すること。 - 生きがいコンセプトのもとに、アクティビティ、自然、異文化体験がバランスよく組み合わせられていた。大変だったとのことで、感謝する。 - ゆとりを持ったスケジュールをブレイクタイムが必要。 - 集落散策から山歩きなどATの範囲の広さを体感できる中味の濃いツアーだった。そして、要所要所でスルーガイドが重要な役割を果たしており、ツアーの満足度にとっても関係があると感じるツアーだった。 - 沢山の未知のツアーポイントを紹介して頂き、とても感謝している。バスの中では見たものを振り返ったり、自分の考えをまとめる無言の時間が欲しいと思った。 - 人数が満足度に影響を与えると感じた。

＜研修全般＞

沖縄	- 講師であるシャノンさんとの対話しつつ考えを深めていくような機会が、もっとあってもよかったかもしれない。 - Ikigai Tourismを広めたいとしたら、Ikigaiの本をまず読み込むような研修があったらいいなと思った。日本人として“生きがい”という言葉あまり安っぽくは使いたくないので、一過性のブームだったり、単なるキャッチーな商品にはしたくないと思った。自分たちが感じる“生きがい”と、西洋の人たちが受け取る“生きがい”のギャップがまたコンテンツになると思う。通訳ガイドとしての観点を考えながら、“感じる時間をとる”など、無理難題をテーマとしたのが難しい研修だったと思う。 - たくさん学ばせてもらったので、引き続き参加したいと思った。 - 世界遺産であるやんばるでのアクティビティ、生活文化の体験は素晴らしいが、“ikigai”をテーマにしている限り、多くの欧米観光客の求める“ikigai”をテーマにしたツアーと合致しているかどうかを再検討しないと集客は難しいのではないかと懸念がある。 - よりよき、知識豊富なガイドになるために研修は必要であると感じた。
奄美	- アンケートはコンパクトに、本当に必要十分なフィードバックが得られるようなデザインを工夫されるのがよいと思う。フリークエスチョンが多すぎるし、10段階評価だと7と8の違いは何なの？と思って適当に回答してしまう。 - 特別な人間にもあえて特別な体験ができて強く感じている。人間を通じて沖縄のありのままの体験が素晴らしいかった。 - 奄美大島でもモデルツアーの研修を受けてみたいと思った。 - ガイドの役割を明確に！その場所での主役は誰なのか？ - 観光ガイドからスルーガイドの視点の変換の必要性を感じた。第一線で活躍している宗像さんの姿勢を近くで見られただけでも参加した価値があると感じた。研修で学んだことを今度のガイド業に役立てていきたい。企画くださったJTJBに感謝する。 - スタッフの皆さんが本当に頭を捻り吟味した研修なのが伝わって来た。とてもスムーズに進行されていたと思った。内容も濃くとても勉強になったし、何よりスルーガイドに対する強い意欲が生まれた。 - ガイドや旅行社の皆様の動きにおもてなしを感じた。

● 沖縄：沖縄からの参加者／奄美：奄美からの参加者 ● 赤字：ポジティブ／青字：ネガティブ

④ 沖縄／エージェントFAMトリップ

日時	2024年11月16日（土）～20日（水）4泊5日
被招聘者	Hanna Schmidts（ハンナ）氏 所属先：Into Japan Specialist Tours（イギリス） 役 職：ホテル・プロダクト・マネージャー & FIT ツアーコンサルタント(ドイツオフィス) ※40年以上に渡り日本の旅行を販売している実績のあるエージェント。VJTMの枠外で商談。さらにその後、コース造成のため沖縄JTBオフィスに来訪。その際にFAM参加を承諾。 Cara Postlethweight（キャラ）氏 所属先：ATJ（アメリカ） 役 職：Travel Coordinator ※オリコム伊藤氏からの推薦。アジアの高品質なガイド付き、小グループツアーを扱う世界有数の旅行代理店および高級ツアーオペレーター。 Lau King Wong（ラウ）氏 所属先：Abercrombie & Kent Hong Kong Ltd.（香港） 役 職：Account Manager ※国際的な顧客との取引における豊富な経験なエージェント。サプライヤーと長年にわたる関係を築き、世界有数の旅行雑誌や専門家からも評価されている。沖縄パートのみの参加。
ガイド／事務局	國場 聖子 氏 ※メインガイド 所属先：全国通訳案内士 沖縄通訳案内士会OIGA副会長 沖縄の文化・歴史に精通し、食・宗教についても豊富な知識を持つ。その英語力・コミュニケーション対応力からも、お客様から絶大な信頼を誇る。 トワイトー ルドヴィック（フランス人） ※アシスタントガイド 所属先：沖縄JTB株式会社 営業部 江藤 洋子 ※事務局兼コーディネーター 所属先：沖縄JTB株式会社 営業部 営業開発マネージャー



 テーマ・ストーリー

キーコンセプト	“Ikigai Tourism” The tour concept of adventure tourism in the Okinawa/Amami region, Ikigai Tourism, is based on the lifestyle of local centenarians (people over 100 years old). They value ‘Ikigai’ (what makes one's life worth living) and live with a clear sense of purpose. In this tour, participants can get in touch with nature, exercise moderately and enjoy a diet based on plant-based foods. It also incorporates activities that build strong family and social bonds. This allows participants to maintain their physical and mental health while gaining a deeper understanding of local culture and history. 沖縄/奄美地域におけるATのツアーコンセプト「生きがいツーリズム」は、地元の百寿者（100歳以上の人々）のライフスタイルに基づいている。彼らは「生きがい」（人生を価値あるものにしているもの）を大切に、明確な目的意識を持って生きている。 このツアーでは、参加者は自然とふれあい、適度な運動を行い、植物性食品を中心とした食事を楽しむことができる。また、家族や社会との強い絆を築くアクティビティも取り入れられている。これにより、参加者は身体的・精神的健康を維持しながら、地域の文化や歴史への理解を深めることができる。
沖縄テーマ	Okinawa's Blue Zone Odyssey: A Life-Changing Exploration of Longevity, Culture, and Ikigai 沖縄ブルーゾーンの旅 長寿、文化、生きがいを探る人生を変える冒険
沖縄ストーリー	Embark on a transformative journey to Okinawa, where the secrets of longevity and well-being come to life. This tour immerses participants in the 'ikigai' philosophy and the renowned Blue Zone lifestyle, offering a profound connection to nature, culture, and personal well-being. Explore sustainable living practices, mindful eating, and the power of community, gaining insights that will inspire a new perspective on life. This journey is an unforgettable blend of cultural immersion, personal growth, and life-changing discoveries. やんばるの森でのアクティビティや独特の沖縄文化体験を通して、沖縄の人々に受け継がれてきた様々な精神を学ぶ旅。沖縄で長寿と幸福の秘訣を体験する、心に残る旅へ出発する。この旅では「生きがい」の哲学と有名なブルーゾーンのライフスタイルに浸り、自然、文化、個人の幸福との深いつながりを感じることができる。持続可能な生活習慣、意識的な食事、コミュニティの力を探求し、人生に新たな視点をもたらすような気づきをえられるだろう。この旅は、文化的没頭、個人の成長、そして人生を変える発見が織りなす忘れられない体験となる。
アクティビティ	●Day2 Kin Town Walking Tour ●Day2 NightTour「AKISAMIYO」 ●Day3 Coffee Harvest Experience ●Day3 Kijoka village walk with Sherpa ●Day3 Starry Sky Tour ●Day4 炊飯・料理体験 ●Day4 Walking on Mt. Nekumachiji with a nature guide ●Day4 Shuri Castle ●Day5 Karate experience at a local Karate dojo ●2日目 金武町ウォーキング ●2日目 環境保全型ナイトツアーAKISAMIYO ●3日目 又吉コーヒー園コーヒー豆収穫体験 ●3日目 シェルパによる喜如嘉集落散策 ●3日目 星空ツアー ●4日目 炊飯・料理体験 ●4日目 ネクマチチ岳ネイチャーウォーキング ●4日目 首里城観光 ●5日目 空手体験

行程

行程作成にあたっては、沖縄県、ガイドの方々と念入りに打合せ（現地打合せ含む）を行った。ほぼ晴れ間がない曇天・雨天続きで、行程を変更したところはあったが、予定していたコンテンツを全て実施することができた。

1日目/11月16日(土)	
時 間	予 定
14:00～	各国从那覇空港に到着、ジャンボタクシーにて移動
16:00	ホテルチェックイン
17:00～18:00	ホテル内会議室にてツアーブリーフィング
18:00	夕食（各自）
宿泊先	サウスウエストグランドホテル



2日目/11月17日(日)	
時 間	予 定
09:00	朝食・チェックアウト後、専用車で移動
10:00～15:30	金武町ウォーキング （～15:30） 金武大川→トウムス御嶽→金武ノロ殿内→宜野座さん宅(クジキン)→鍾乳洞（泡盛・豆腐よう） ●13:00～14:00 昼食＜カフェレストラン長楽の田芋膳＞ ●14:00～14:30 タイモ農家(畑に入る)→バードウォッチング
15:30	専用車で移動、東村へ。途中、わんさか大浦パーク・大浦共同売店立ち寄り（土産購入）
17:00	ホテルチェックイン
18:00～19:00	夕食＜かねやん食堂＞
19:00～21:30	環境保全型ナイトツアー-AKISAMIYO
21:45	ホテル帰着
宿泊先	ヤンバル エクスぺリエンスホテル ムンガニク



3日目/11月18日(月)	
時 間	予 定
09:30	朝食・チェックアウト後、専用車で移動
10:00～12:30	又吉コーヒー園コーヒー豆収穫体験
12:30～13:00	専用車で移動
13:00～14:30	昼食＜OkuMasa＞
14:30～14:45	専用車で移動
14:45～15:30	喜如嘉到着、ホテルチェックイン
15:30～17:00	シェルパによる喜如嘉集落散策(芭蕉布会館含む)
17:00～19:30	夕食＜仲門にてハイケイマイスターによるバーベキュー＞
19:30～21:00	星空を見に国頭へ （希望者のみ）
21:00	ホテル帰着
宿泊先	やんばるホテル南溟森室



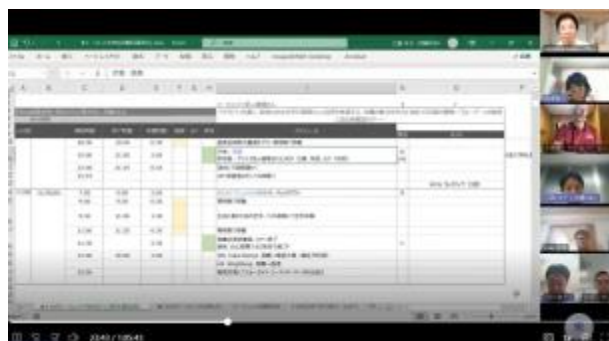
4日目／11月19日（火）	
時 間	予 定
07:00～09:30	炊飯体験（仲門にてパパイアやグルクンなどの地元食材での調理や釜）
09:30～09:45	チェックアウト後、専用車で移動
09:45～12:30	ネクマチチ岳ネイチャーウォーキング
12:30～12:45	専用車で移動
12:45～13:45	昼食＜山ねこ料理店の弁当＞
13:45～15:30	専用車で移動
15:30～16:00	ホテルチェックイン
16:00～16:30	専用車で移動
16:30～18:30	首里城見学、翌日の空手へのプロローグ
18:30～19:00	首里金城町石畳道を下り、専用車で移動
19:00～21:00	夕食＜美栄＞
21:00～21:15	徒歩にて国際通りへ
21:15	OP:希望者はセンペロ体験へ
宿泊先	ホテル コレクティブ



5日目／11月20日（水）	
時 間	予 定
07:00～09:00	ホテルにてビュッフェの朝食後、チェックアウト
09:00～09:30	専用車で移動
09:30～11:00	空手体験（生活に根付く街の空手、八木道場にて）
11:00～11:30	専用車で移動
11:30	那覇空港到着後、ツアー終了



事業者・関係者 事前打ち合わせ



実施に当たっては、ロケハンとスルーガイド研修からの改善点を含め、沖縄県庁と綿密な打ち合わせを実施し、最終行程を決定した。同時に事業者の方々とは、現地で打合せを行い、具体的なガイドング内容や、所要時間などを確認した。

←11/13 18:30-19:30

全事業者、スポットガイド、及びスルーガイドとの最終打合せの様子

この打合せでは詳細なタイムスケジュールに基づいたそれぞれの役割分担のチェック、および各エリアをどのようにストーリーをつないでいくか、また雨天が予想されたためB案・C案と、その判断基準、タイミングについても綿密に打合せし、緊急連絡体制についても確認した。

ルートマップ



配付資料

● Minimum Information for Customers (MIC) ※全22ページより一部抜粋



<1日目>

●那覇空港出迎え～ホテル到着

13:00 3日前から沖縄に前入りされていたキャラさんとレクー沖縄北谷スパ&リゾートホテルロビーにて待ち合わせ。
北谷からSouthwest Grand Hotelまでルドおよび専用車にて送迎。15時のチェックイン時刻まで国際通りを散策していただくこと、
ツアーブリーフィングの集合時刻・場所について案内。
14:45 ハンナさんが国内線に、15:00 ラウさんが国際線にほぼ定刻でそれぞれ到着。ラウさんは国際線のため、運営もルド+江藤、
國場+安田の2手に分かれてそれぞれ出迎え。ハンナさんには20分ほど専用車でお待ちいただいたのち、15:45那覇空港からホテル
へ全員で出発。車内では簡単にそれぞれの自己紹介と、持ち物や日本円現金のなどの準備不足がないか確認した。



●CARAさんを北谷でお出迎え



●手作りウェルカムボードで出迎え

●ツアーを通して同じハイエース・
同じドライバーで手配。チーム感を醸成

●ツアーブリーフィング～ホテルインスペクション

16:15 Southwest Grand Hotelに到着。チェックイン手続き後、ホテル2階会議室に16:50に再集合とし、一旦、部屋に入っていた。その間に会議室のセッティングとゲスト用ドリンクを最終確認。
17:00 ゲスト3名に加え、沖縄県庁観光振興課の小橋川副参事、吉嶺主査、添乗員の國場氏、沖縄JTBの河村、江藤、安田、
ルド、合計10名でツアーブリーフィングを実施。小橋川副参事より挨拶をいただいた後、ルドより当ツアーのキーコンセプトである
「Ikigai Tourism」についての説明やFAMの概要・主旨説明、注意事項の案内を行った。3名からは沖縄といえば海・リゾートの印象
が強く、文化や歴史に焦点を当てたコンセプトは非常に興味深い。BlueZoneについてはハンナさん・キャラさんは来沖前からご存じで、
特にハンナさんのドイツではIkigaiという本がベストセラーになっているので、ツアーを通じてどのように表現していくのか非常に楽しみである
こと、ラウさんからも香港は沖縄への直行便もありピーター向けに様々なアプローチのツアーを提案できる可能性を探っているため、期
待している旨、それぞれコメントをいただいた。
18:00 ホテルの他の客室を見たいとの要望があり、急遽インスペクション対応。レストランでのアレルギー対応やインバウンドの利用状
況など、積極的な質問が相次いだ。

ヒアリング内容

全員：宿泊客が利用できるラウンジ、国際通りや空港への
アクセス、雰囲気も良く綺麗、食事が美味しい。
「地元の方」が利用するレストランがいい。
隣接する部屋が3カ所あるのが好評。
Suiteを顧客にお勧めしたい。眺めが好評、プールも好評。
部屋のサイズに違和感なし。
Hanna：照明などこだわりが感じられた。ベッド下のスーツケースを
置く台などの設備もいい
KingWong：ブティックホテルを好まれる方がいい。
Cara：コレクティブに比べて少しホテル外からの音が気になった



●会議室でのブリーフィングの様子

●ホテルインスペクション

●夕食

19:00 到着日は疲れのため、あえて食事をつけていなかったが、3名とも初日の夕食はあった方がよいとの意見があり、公設市場の夕
食も良さそうとのことであったが土曜日で予約が取れず、B案としてちぬまんを予約、三線も堪能していただくこととなった。結果的に一気
に距離が縮まり、ツアーが無事に軌道に乗ることとなった。ここで3名とも食事量・アルコールともに少な目（キャラさんは全く飲まない）
であることを把握。

20:15 ツアーブリーフィング中に見学させていただいたLoungeやサウナ、プールなどの設備が非常に良い感触だったため、早めにホテル
に戻り、ホテルライフを楽しんでいただく。ラウさんは夜の国際通りを散策に向かった。



●三線と琉球料理を堪能



●他のお客様と一緒に楽しくダンス

<2日目-1>

●金武町ウォーキング

9:00 ホテル出発後、金武町へ。車内では國場さんより本日のスケジュールのリマインドの後、沖縄の一般的な情報を案内。また金武町では「水」と「祈り」をテーマとする散策であることについて、日本の宗教や日本人の信仰について多くの質問があった。道中、トゥクリキワタが見どころで、ゲストのテンションも上がりつつ、東村へ。

10:00 スポットガイド、ネイチャーオフィスの高原さん・豊見盛さんと合流。金武大川で金武町の地層・地質や成り立ちについての案内からスタート。その後、専用車で金武区事務所まで移動し、以降徒移動。金武区事務所の豊年祭展示を用いて獅子舞について触れ、南漢森室への伏線を張る。まずは車内で質問のあった沖縄の自然信仰のあり方について石を祀っているトゥムスズ御嶽を実際にご覧頂ながら案内。金武ノロ殿内では、琉球のノロやユタについて説明したが、すぐ裏手の協会からは讃美歌が聞こえる中であったため、琉球は様々な宗教をおおらかに受け入れている文化であることを体感した。その後、地元の家庭で家族のトートーメー祭祀や台所のヒヌカンの紹介。ゲストからは、家族でトートーメーを受け継いでいくときの暗黙のルールや、どういったときにどういった祈りをどちらの祭壇に向かうのか、など様々な質問をいただき、「祈り」を通じた家族の行事があり、人々が集う習慣が今なお色濃く残っていることを実際に知る機会となった。また古来、沖縄で食されてきたクジキンのおやつと家庭菜園でとれたハーブティーを家庭の味として試食いただいた。さらに金武鍾乳洞では、泡盛貯蔵庫だけでなく一番奥にある泉と龍の伝説や、戦争中に多くの命を鍾乳洞が守った話などを神妙に聞き入った。長楽での昼食の後、田芋は田芋畑でのバードウォッチングで野鳥の飛来時期とも重なり多くの種類の観察を楽しんだ。また途中で豊見盛さんのご友人宅でシークワサーを獲らせていただきその場で試食。加えて訪問順についてはロケハン・スルーガイド研修からのブラッシュアップを活かした。畑での田芋収穫体験は雨のため中止し、東村へ向かう。



●車内では地図でガイド



●金武大川での様子



●地元の家庭を訪問



●家庭のトートーメーやヒヌカンの説明



●金武鍾乳洞の様子



●バードウォッチング

ヒアリング内容

全員：バードウォッチング、泡盛Cave、宜野座さんのお家訪問、スポットガイド二人のやりとりが面白かった。

Hanna：スポットガイドの話で小学校のエピソードが出てきて、お客様は日本の学校を見てみたいと思う。観音寺も通り過ぎたが見たかった。御嶽、洞窟、仏教寺院という並びが沖縄らしいミックスカルチャーだ。

KingWong：香港の子ども連れに喜ばれそう。香港のお客様は那覇を中心に宿泊して、食事・買い物・グルメを中心に旅を楽しむが、デイトリップでこのようなツアーを送迎込みで販売できるといい。

全員「田芋が掘れず残念。お家訪問では椅子を準備してほしい。欧米人は床に座ることは難しい。」

●昼食＜カフェレストラン長楽の田芋膳＞

13:00 全員で「田芋膳」、田芋膳は外国人には完食は難しい素材であることから、ドリンクやスイーツまで準備、スイーツはチーズケーキとパイからの選択制としたが全員がチーズケーキを選択。また金武鍾乳洞で熟成された豆腐ようをあてに15年の古酒と普通の泡盛との飲み比べを泡盛専用の「カラカラ」を用いて行った。食事の途中でオーナーシェフの豊川氏より沖縄での田芋の栽培、習慣、課題などについて英語で説明いただき、さらに食を通じた地域貢献と、金武鍾乳洞の果たす地域での役割についても熱い想いを語っていただいた。あいにくの雨で海・空の一望とはならなかったが、BlueZoneKITCHENにも紹介されているにも関わらず地元民しかいない食堂であることには好感触であった。



●豊川氏と有意義な団らん



●田芋膳

ヒアリング内容

全員：ムジ汁が最高に美味しい。泡盛と豆腐ようも美味しかった。シェフとご家族や友人とのコミュニケーションを見ているのも楽しい。

気になった点

Hanna：メニューは選べた方がいいと思う。

欧米人は必ず自分で選択したい。

Cara：田芋を料理する様子を見たかった。田芋に関しては苦手な人もいるかも。あんぱんやドーナツにすればどんな人でも美味しく食べられる。

<2日目-2>

●わんさか大浦パーク・大浦共同売店～夕食 <かねやん食堂>

わんさか大浦パークへ翌朝の朝食の購入に立ち寄る。隣の大浦共同売店へも訪れ沖縄の「共同売店」が高齢化・過疎化地域での高齢の方の自立や交流を支える仕組みになっていることを説明。ちょうど近所の方がユンタクされている様子もご覧いただけた。東村到着後、まずヌガニクにチェックイン、ナイトツアーに備え着替え後、夕食へ。国頭村で養殖されている「スギ」の定番に加え、specialメニューとして夜光貝・地元産ローストポーク・完全放牧牛乳のアイスも堪能いただく。



●大蔵共同売店での購入体験



●かねやん食堂での夕食



ヒアリング内容：全員：スギの話や地元の話、シェフ自身の話を聞かせてくれ、フレンドリーな方でとても良い。食事も美味しい。夜光貝はガーリックソースは美味しいが刺身は固く噛み切れず、外国人には厳しい。ローストポークも肉類はしっかり焼きたい。欧米には食べづらい。その他、ラウさんは香港でも同じような肉・貝を食べるとのこと。アジア圏の方は食べられそう。デザートがあると嬉しい。ただし全体的に量が多すぎるので調整が必要。

●AKISAMIYO

19:00 かねやん食堂へ東村のハイエスがお出迎え。平良事務所でブリーフィング。ガイドの妹尾氏よりやんばるが世界自然遺産に登録された理由や森を守る意義・課題、ツアーの注意点など20分程度説明いただき森へ向かう。通常はゲートを入った先を徒歩で2キロ程度散策するが先般のやんばる豪雨災害で立ち入り禁止のため、車道沿いのショートバージョンで実施。そのため、いつもより発見できた生物は少な目であった。最後はヌガニクで振り返りを行い、画像を共有、22時に終了。



●ブリーフィングの様子



●生物観察



●振り返りの様子

ヒアリング内容：

全員：ガイドの知識の深さ、人柄、ツアーに参加することで地域社会への貢献を感じられる素晴らしいツアー。祈りを捧げ、ゲートを開けて森に入っていく一連の流れはアドベンチャー感があってとても良いが大雨の影響でそれ以上先に進めなかったのは残念。また「運」とは言え何が見れるのか、事前に説明があった方が誤解が生じないので良いのでは。

●ヤンバル エクスぺリエンスホテル ヌガニク

団体プレチェックインを行い、スムーズに入室。管理棟でコーヒーやお湯、カップなど自由に利用でき快適。管理棟での夜の懇親会も計画していたが、ナイトツアー帰着が22時となったため実施せず。ハンナさんの部屋では就寝前にクモがいたり、ラウさんの部屋の入口のブラインドが閉まらないといったトラブルあり。曇天のため残念ながら星空や月の鑑賞はできなかったが、翌朝は晴れ間もあり、各自、デッキでの朝食や、近隣の散策を楽しんだ。



●ツインルームのシングルユース利用



●アウトドアリビング

<3日目-1>

●又吉コーヒー園コーヒー豆収穫体験（福地ダムシャワートレッキングが強風のため中止）

福地ダムシャワートレッキング → 又吉コーヒー園コーヒー豆収穫体験 に変更。

判断日：11/14 強風予報のため。さらにB案を確実に確保するため、早めの判断とした。

9:30 ムンガニク出発、9:45 コーヒー園到着。

10:00 又吉氏からツアーの案内。沖縄の土地で育ったコーヒー果実の収穫から生豆の加工、焙煎、抽出まで全ての工程を2時間半かけて体験。ゲスト全員がコーヒー消費国であるものの、焙煎さえも初めての体験で、1杯のコーヒーにどれほどの人手とコストがかかっているかを学んだ。また同じ工程にも関わらず、全員のコーヒーの香りが異なることも不思議で貴重な経験となった。



●コーヒー果実の収穫



●生豆の加工



●焙煎



●焙煎



●コーヒーの抽出



●試飲

ヒアリング内容：

全員：とてもいい体験で楽しめた。コーヒー作りのプロセスが学べてよい。全体のプロセスを体験できるところがよかった。

Hanna：一方的にレクチャーするのではなく、又吉（社長）の双方向のやり取りがいい。

Cara：収穫の際に又吉さんが常に参加者に平等に気を配ってくれているのがとても良かった。なぜ沖縄でコーヒー収穫体験なのかをもう少し説明してもいいと思うが、生産者と消費者を繋ぐストーリーなどが聞けて非常に意義があると思った。

Cara：想定外体験のところが良かった。全年齢型・全天候型でアクティビティ中止の際の代案として最適。

気になった点

全員：繊細な香りにも楽しむ体験なのにコーヒー畑で収穫中にバギーの音とガソリンの臭いがするのが勿体ない。

Hanna：お客さんに“なぜ沖縄でコーヒー体験する”のが説明が難しいと感じる。IKIGAIとBlue Zoneを繋ぐ必要がある。

●昼食<OkuMasa>

13:15 15分遅れで到着。

採れたての伝統野菜や、その時期にやんばるでしか食べられないユニークな地元食材を提供するレストラン。色とりどりのアグー豚しゃぶも有名ではあるが、ハンナさんが赤身肉NGであることから今回はおまかせイタリアンコースとした。

前菜・スープ・本日のヒトサ・島野菜のペペロンチーノorもとぶ牛とアグーのポロネーゼ・デザート



●特別コース料理

ヒアリング内容

全員：全員「地域の食材で本格的なイタリアンを楽しめてとても良かった。アセロラや長命草など初めての食材だがとても美味しかった。食器なども沖縄のものがこたわりを感じた。シェフから説明があったのも良かった。味は大変おいしかったが、午後の活動も考えるとランチとしては量が多すぎる。

<3日目-2>

●喜如嘉翔学校～シェルパによる喜如嘉集落散策(芭蕉布会館含む)

15:00 金武町で豊見盛さんから小学校の話が出たことから小学校が見たいとの希望が出たため、廃校になった旧喜如嘉小学校を活用した複合施設「喜如嘉翔学校」喜如嘉公民館に到着し案内。20分ほどではあるがピンバッチなどそれぞれ買い物を楽しんだ。
 15:30 喜如嘉公民館でエンデミックと合流し、金城氏・大城氏の案内で集落散策スタート。BlueZoneとして知られる大宜味村の集落での暮らしやおじいおばあんの生きがいについて、地元住民の視点から案内いただく。また集落内は生活圏であることから、写真撮影や民家への意図せぬ立ち入りなどへの注意喚起をするとともに、FIT旅行者によるオーバーツーリズムの課題などありのままに説明し、送客いただく際には必ず現地旅行会社を通してほしい旨を依頼する。



●静かな集落内を徒歩で散策。
共同売店にも立ち寄り、お土産を購入



●集落散策の最後は芭蕉布会館へ。
DVD鑑賞後、2階の作業場へご案内

ヒアリング内容：

全員：地域の中のコミュニティに外国人が入っていく不安の中で、とてもフレンドリーなシェルパが迎えてくれて楽しく散策することができた。

Hanna：廃校を活かす価値がある。1つの体験で「人口減少・学校生活・用途変更（Repurpose）」がいい

気になった点

Hanna：芭蕉布がikigaiにつながっているのは理解したが、芭蕉布会館でビデオを見て、二階の作業室は写真もダメで物音も立てられない緊張した雰囲気、あまり訪問の価値を感じられないかもしれない。

Cara：お客様は自分一人で行けることにはお金を払わない。ツアー代金を払うからには自分一人ではできないアレンジが必要。芭蕉布会館訪問は何か特別な体験が必要かもしれない。

●夕食＜仲間にてハイケイマイスターによるバーベキュー＞

17:30 ナイトツアーはゲストに3名とも参加意向であることから、曇天予報であるものの星空ツアー＋パトロール＋生き物観察の組み合わせで実施することに決定。そのため予定通り、BBQ開始。今回はスペシャルバージョンとして加え「廃鶏（ハイケイ）」に加えモトブ牛やアグー豚などすべて地産地消にこだわった食材を用意。ハイケイについて説明したあと、国頭村認定のハイケイマイスターに焼いていただく。ドリンクもオリオンビール、泡盛を準備し、少しずつ試飲いただいた。またエンデミックガーデンの代表、仲本氏も加わっていただき、喜如嘉と謝敷の集落と南湊森室の4棟についての説明とともに、集落で宿を拠点に旅行会社を営む意義についてお話いただく。途中、地元の中学生による獅子舞の演武をサプライズで準備。喜如嘉の獅子舞は糸芭蕉でできていること、厄除けの意味があり、先日の豪雨では喜如嘉もかなりの浸水があったため、このような機会に銅鑼を鳴らしながら集落を練り回することで住民を元気づけていることを説明した。BBQ自体は昼食が多かったこともあり、月桃おにぎりも食べられず、かなり残す結果となった。



●ハイケイについて説明



●BBQはかなり残った



●男子中学生による喜如嘉の獅子舞を鑑賞。この夜のハイライトとなった。



ヒアリング内容：

全員：廃鶏という地域文化の体験は面白い。オーナーの集落に寄せる想い、シェルパの若者が過疎化が進む集落で働くことを選択していることが興味深く、そういったことをオープンエアの中でフレンドリーに話せて良かった。

Hanna：廃鶏は硬くて自分自身はあまり食べやすいとは思わなかった。

<3日目-3>

● 星空を見に国頭へ

19:30 星空ガイドとともに星空ツアー＋パトロール＋生き物観察の組み合わせのナイトツアースタート。まずはさえずるものがない畑で星空観察。この時違法な昆虫採集をしていると思われるレンタカーを発見し注意。意図せずしてやんばるは希少な生物の宝庫であることの証明となった。月齢16.6で明るめの月と星、そしてスターリンクを観察することができた後は雲が多くなってきたため、場所を変え、川沿いで生物観察スタート。大雨の影響から普段ならみられる昆虫類もなかなか発見できず、カタツムリなどだけとなった。21:30頃に観察を終え、ホテルへ帰着。



● 月が美しかった星空観察



● ナイトパトロール＋水辺の生き物観察



ヒアリング内容：

King Wong：スターリンクを見れたのはよかった。

気になった点

Hanna：スポットガイドはあまりお客様を大切にしている感じがしなかった。

● 南溟森室＜仲門・仲福屋＞

喜如嘉集落のルームシェアについては、仲門ではBBQ（獅子舞含む）や炊飯・朝食作り体験を行うため男性のラウさん、仲福屋にキャラさん・ハンナさんが宿泊した。部屋割りについて特に意見は出ず。

仲福屋は大雨の影響から土間にかなりの数の「ヤスデ」が入り込んでおり、大雨の影響であることは説明したものの、普段はいないのか何回も確認された。いずれも集落内に立つ一棟宿ということで、パトラーサービスを好む富裕層向きではないが、文化体験を好むお客様には満足いただけるだろうとのこと。夜間の緊急体制についての質問もあった。

なお随行員は近隣の「ちちぬーじ」に宿泊し、緊急時はWhatsAppで対応することとした。



● 土間にヤスデが・・・

● 仲福屋（キャラさん・ハンナさん）



● 仲門（ラウさん）

ヒアリング内容：

全員：獅子舞の演出がとても良かった。地元の子どもが参加しているのもよい。

Hanna：お客様には仲門を販売したいと思う。少し中に入ったところにあるのがいい。

<4日目-1>

●炊飯体験

7:30 仲門にて、パパイアやゴーヤなど地域の食材を用いた朝食作りとかまどでの炊飯体験。シェルパからはかまどでの炊飯で出る煙は屋内から外注を駆除する役割もあることや、沖縄で昔から食されているのは主に野菜や果物、魚であることをBlueZone9つのルールに沿って説明。地元の陶芸家の作品のやちむんに盛り付け、食事を楽しんだ。

9:45 南溟森室を出発し、ネクマチチ岳へ。



●地産地消の朝食作り体験



●かまどでの炊飯後、釜を開ける瞬間

ヒアリング内容：

全員：楽しかった。シェルパと楽しくコミュニケーションをとりながらできるのがいい。魚もおいしい量もちょうど良い。

Cara：特に和食が洋食が選べるのがいいと思う。ベーグルとスムージーというのも体験はしていないが、とてもいいと思う。

●ネクマチチ岳ネイチャーウォーキング

9:45 イギミハキンゾーにてネイチャーガイドの石井氏と合流。まずは駐車場にて自己紹介とともに、ネクマチチ岳は石灰岩のため非常に滑りやすい事、トイレがない事、雷の場合には途中で下山することなどを説明したのち、森へ入っていった。なお、雨雲レーダーでは小雨も予想されたため、ルドにて、ファーストエイドの他、レインコートや傘、タオルも携行。

森では地層や植物、生物など、その多様性について石井氏が少し國場氏やルドの助けも借りつつ英語でガイディング。ゲスト、國場氏、ルド、いずれからも石井氏の英語での説明で十分な英語力であったと評価をいただく。予定通り12:45に終了し道の駅へ向かう。



●出発前のブリーフィング



●ネイチャーガイドが英語で奇跡の森「やんばる」について説明



ヒアリング内容：

良かった点

全員：とても楽しかった。スポットガイドが準備してくれたシーカーサーージュースがとてもよかった。

Hanna：初心者向けのコースでよかった。Caraも自分もトレイルは初めてだった。ガイドの説明の量も長さもちょうどよかった。休憩の取り方もよかった。英語も通訳はいらないと思う。

KingWong：午前中やるのが良かった。とても気持ち良かった。

●昼食<山ねこ料理店の弁当>

13:00 道の駅おおぎみに到着。身支度を整えた後、ピロティで弁当を配布。リラックスしながら昼食を堪能。もともとネクマチチ岳の展望台でいただく案もあったが、お手洗いが故障中であること、雨が降った場合のこと、など事前に色々検討を重ね、最終的に道の駅おおぎみのピロティとなったが、結果的に手や顔を洗ってすっきりした状態でのお弁当となったことは良かったと思う。

今年はこの時期でも蚊がいたことから、森の中ではゆっくりできなかった可能性が高い。また食後には各自、道の駅でお土産やおやつを購入もでき、地元の高校生もお弁当を広げるゆったりした空気感の中、リフレッシュできた点でも良かった。またスルーガイド研修の時のお弁当であってもガイドから食材の説明が欲しいというアンケートがあったことを活かし、シェフから弁当の内容を聞きメモ、食材や調理方についてしっかり説明できたことも評価いただいた。



●地域の食材にこだわった幕ノ内弁当



●道の駅 おおぎみ やんばるの森ビジターセンター
ピロティにて

ヒアリング内容：

全員：地元の食材を使って、見た目も美しく美味しいお弁当だった。

何が入っているのかメモがあるのが良かった。

<4日目-2>

●首里城見学・首里金城町石畳道

13:30 弁当をいただきながら、疲れ度合いを確認したところ3名とも大丈夫とのことで、ホテルチェックイン後、首里城へ直行することになった。この変更でホテルチェックイン後は少し休憩がとれることになった。

15:30 首里城到着。國場氏のガイドで首里城観光。沖縄県観光振興課の備瀬さんも同行。火災からの復元中の今しかみることのできない首里城を堪能いただく。また翌日の空手体験の布石として、受け継がれる精神や琉球の歴史・文化、中国や台湾とのつながりにも触れる。その後、首里金城町石畳道を下り、再び専用車にてホテルコレクティブへ。



●首里城 観光の様子



●首里金城町石畳道 観光の様子

ヒアリング内容：

Hanna：とても分かりやすい説明だった。旅行会社にとってガイドはとても大切なので、プロとして見せてもらったが、ガイドが話すべきポイント、ボリューム、タイミングなどよく分かってガイドングしていた。稀有な存在。

KingWong：沖縄と中国の歴史的文化的な関係について知らなかったので学べてよかった。初めて旅行に来る人は自国との違いを感じたいと思うが、リピーターは共通点や似ている点を知って喜ぶと思った。

●夕食＜美栄＞～センペロ体験

17:30 ホテルコレクティブ到着、チェックイン。再集合18:45にて案内。

18:45 専用車で美栄へ。19:00到着後、1階の客室「杉」へ。部屋を飾る調度品や琉球漆器のうつわ、壺屋焼の酒器などこだわりの室内で古き良き沖縄そのものであるが、薄暗く簡素であり、好みが分かれるとの意見あり。首里城からの流れとしては◎。

20:15 沖縄JTBの河村・安田も合流し、FAMについての意見交換を行った。沖縄については3名ともリゾートとしての認識しかなく、文化・歴史といった観点でのツアーは大変貴重な経験だった。また「Ikigai Tourism」やBlueZoneとして沖縄の生活そのものをキーコンセプトとして販売していくためには「スルーガイド」が最も重要であること。その点、今回の國場さんは英語力もさることながら知識も豊富で非常に良いガイドだった。一方でゴールデンルートや近隣のアジア諸国との競合の中、沖縄へ誘客するためには5日間ツアーだけでは容易ではないため、もう少し短めのツアーの準備も必要。西側のluxuryホテル発着の日帰りツアーや、日本周遊後、最後に沖縄でゆっくりして帰国するお客様へのライトなアプローチも準備してはどうか。またラウさんからは那覇へ直行便がある近隣のアジア諸国はまだ那覇だけにとどまり買い物だけして帰国する傾向があるため、今後、それらのお客様がリピーター化していく過程において、北部エリアへの送客が増えてくる可能性は十分にある、との見解もいただいた。その後、名残惜しく全員でホテル近くでセンペロ体験へ。



●客室「杉」での最後の晚餐

●漆器も美しい
琉球料理

●全員でセンペロへ

ヒアリング内容：

全員：伝統的な宮廷料理でどれも美味しかった。

気になった点

全員：お客様を選ぶかもしれない。本物の宮廷料理を試したいお客様にはいい。

<5日目>

●ホテル コレクティブ～ホテルインスペクション

8:30 ゲストの希望をいただきホテルインスペクション実施。レストラン・バンケット・スイート含む客室・プール・フィットネスなどを視察。

途中、ラウ氏は体調不良で離脱するも空手は体験したいとのことでしたらロビーで休憩いただく。

ホテル立地や客室にも満足いただけた様子で、朝食も大変おいしかったとのこと。ここでもレストランでのアレルギーや食事制限について細かく質問があり、インバウンドの場合は食事への細かな対応が求められることを改めて実感した。

9:15 ラウ氏も復活し、専用車で八木道場へ。



●ホテルインスペクションの様子



●HP画像



ヒアリング内容：

Hanna：とても快適でロケーションもいい。スイートもあってハイエンドのお客様にもお勧めできる。ポーターなどのサービスも迅速。ぜひお勧めしたい。

Cara：とても快適。外の喧騒が部屋の中では一切聞こえないのがとてもよい。

KingWong：ブティックホテルの間合せが増えているのでSouthwestも使いたいのがお客様によって好みも分かれるかもしれない。コレクティブは旅行会社としてはお客様からクレームが出そうもないので安心して勧められる。

●空手体験

9:30 予定通り八木道場へ。道場で備瀬さんも合流し、全員で空手体験を行う。準備体操の後、八木先生より空手の基本動作とともに、その動作の意味と「空手に先手なし」の精神についても説明いただく。「呼吸法」「礼」「サンチン」など一通りの基本動作の後、型「撃砕1」を学ぶ。ここで予想外ではあるが、八木先生の師匠である八木明達先生が道場へ。沖縄の空手の歴史や剛柔流について英語で20分程度お話があった。ゲストは正座やあぐらができないことから、事前に八木先生と打ち合わせておく必要性を感じた。八木先生においては、動作一つ一つが美しく重厚で見ただけでも価値があると評価頂けたので、今後は体験だけでなく、八木先生の演武をプログラムの中に初めから入れておくことを検討したい。

11:30 体験を終え、キャラさんとハンナさんは空港へ送迎。帰国便が1時間あとの帰国便のため、国際通り散策後、自身で空港に向かうとのこと、ここでお別れとなった。

12:00 空港到着後、キャラさんとハンナさんとお別れ。ここで沖縄FAMは終了となった。



●まずは準備体操から



●空手体験の様子



●5日間お世話になったドライバー・島袋さんと。
河村も駆けつけ、最後のご挨拶を行い、FAM終了となった。

ヒアリング内容：

Hanna:先生と一緒に型の練習をして、一人一人を流暢な英語で指導してくれたのがとても良かった。

KingWong:子供連れには楽しい体験。

気になった点

Hanna:お客様は床には座れないので椅子が必要。大先生が色々英語でお話をしてくれたが、お客様はあまり長時間お話を聞くことはできないと思う。大人のお客様はデモンストレーションをもっと見たいと思う。

Cara:松山公園に碑があると言っていたのでその訪問も含めてほしい。

参加者アンケート

参加者に対し、各コンテンツとツアー全体の評価についてのWEBアンケートを実施。チラシを初日のツアーブリーフィング時に配付した。

●アンケートチラシ

Okinawa Adventure Tourism Promotion Project
Participant Survey to
Okinawa Adventure Tourism FAM Tour

Thank you very much for taking part in the FAM tour!
We would like to ask you for your rating and feedback on each of the content you experienced on this tour.
Please access the URL below (you can also access it for reading the QR code) and fill in the survey form.

4. Questions are set for each content.
We recommend that you answer the questions immediately after experiencing the content.

URL: <https://questant.jp/q/0IIREE7A>

Notice
This survey form does not have a "temporarily save / resume answers" function due to system specifications.
Therefore, please be careful not to close your browser when entering your answers each time during the tour itinerary.
(Once you close your browser, your answers will be lost.)

Supplementary information on questionnaire evaluation items

1 Infrastructure Appropriateness
In content terms, this item assesses the "adequacy of infrastructural facilities in tourist destinations".
For this item, please assess whether "roads and transport to the destination are adequate" and "adequacy of facilities and facilities to enjoy the activity and not damage the natural environment".

2 Quality of Preservation / Conservation
This item assesses how satisfactorily the natural environment and cultural values of a tourist destination are protected and maintained by a tourist destination.
The evaluation criteria for this item vary depending on the type and content of the content, but should be based on, for example, the "state of conservation of the natural environment (or cultural resources)", "cooperation with the local community", "implementation of environmental regulations", etc.

3 Readiness
For this item, please provide a general assessment in terms of "sales readiness", "operational readiness" and "destination readiness".

●アンケート回答画面（抜粋）

Most assessment content part (Day 1 (Sat) ~ Day 4 (Mon) (Sat))

Please rate each of the content below your experience on a scale of 1 to 10 (10 being the highest rating).
Please also check what you think should be kept or improved for each content item.

Q1. Please rate each of the content items you have experienced on a scale of 1 to 10 (10 being the highest rating).
* Please check.

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Quality	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Preservation	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Staff / Communication	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Contents	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Logistics	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Local Hospitality	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

Q2. Please rate each of the content items you have experienced on a scale of 1 to 10 (10 being the highest rating).
* Please check.

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Quality	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Location	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Staff / Communication	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Contents	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Local Hospitality	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Readiness	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Cooperation with Local Community	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
Ability to Use Items	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

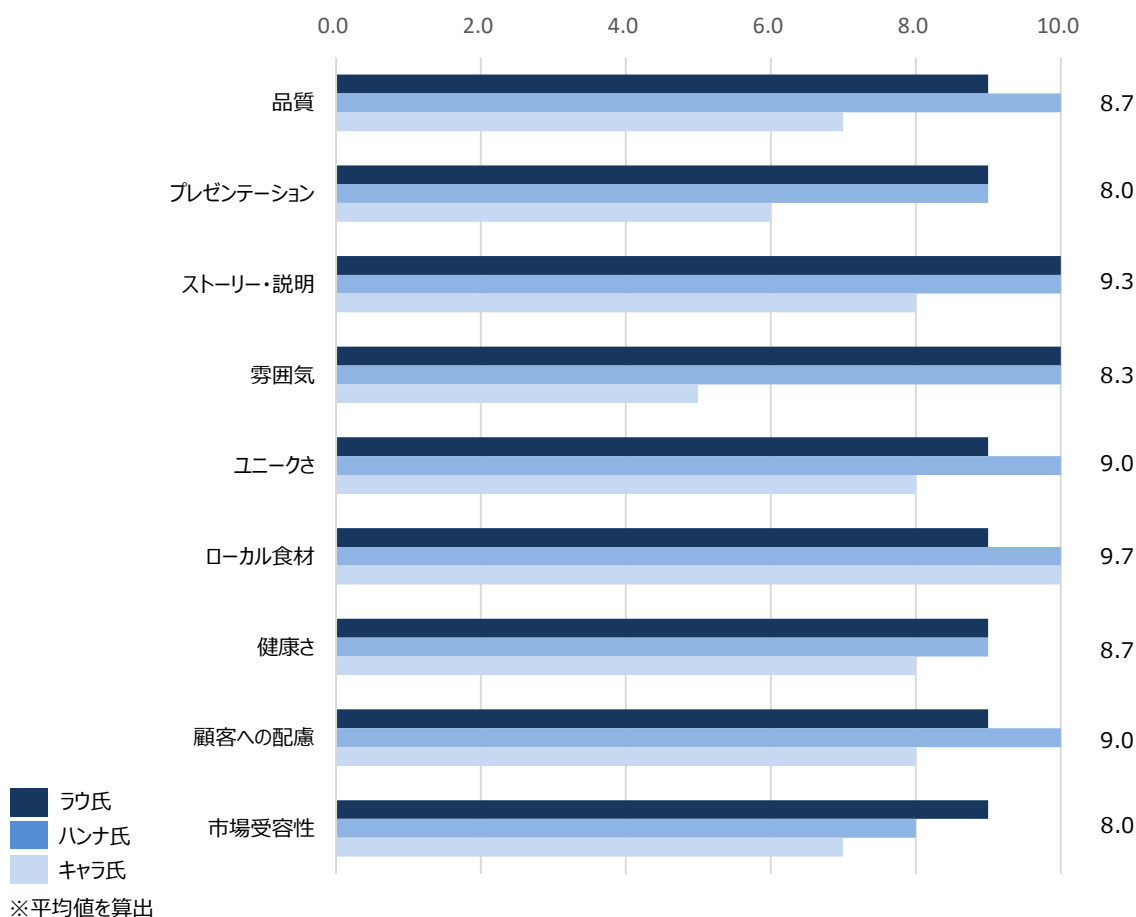
 評価

＜コンテンツ（食）アセスメントの評価軸＞

ATTAが用いる評価項目やATTAが掲げる体験価値などを元に、以下の通り AT コンテンツに必要な基準を以下の通り設定した。この基準に基づき、本ツアーにおける各コンテンツ（食事）を評価を行った。

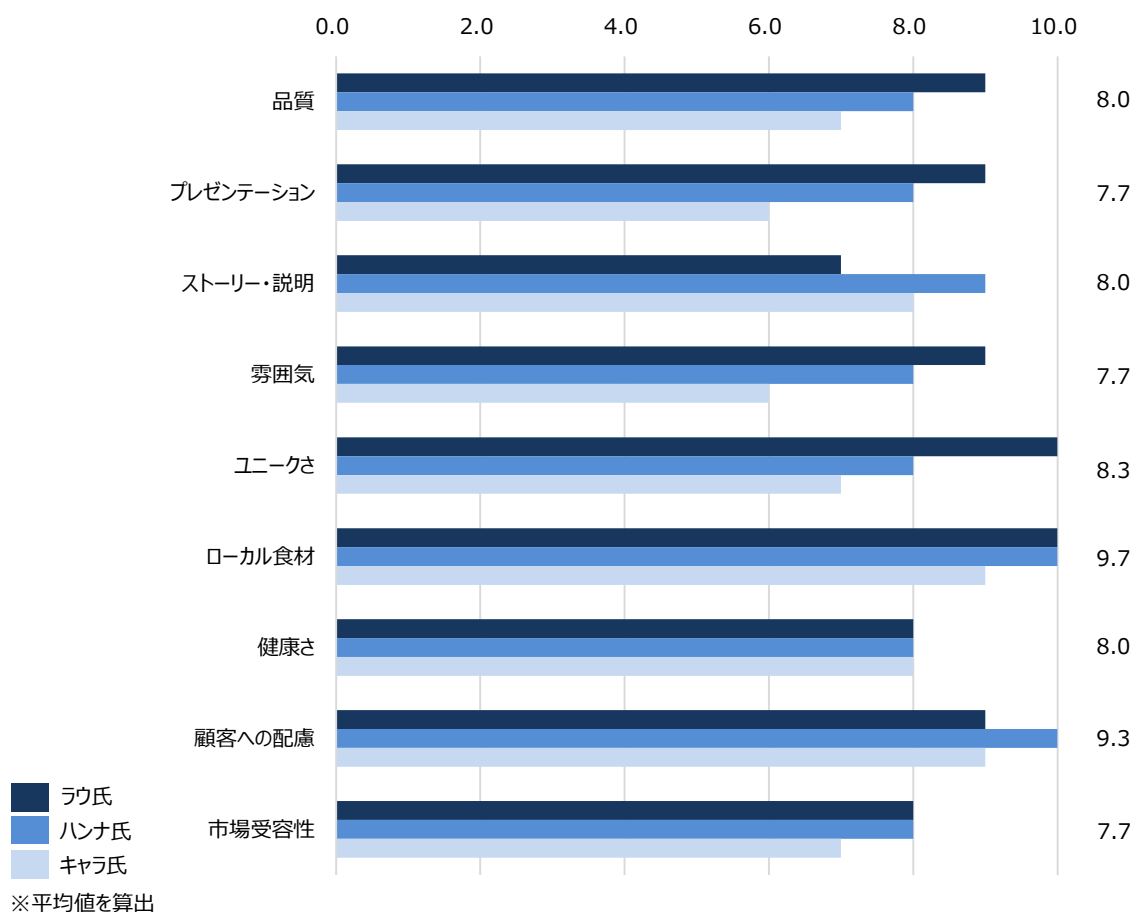
	英語での評価軸	日本語訳	評価の観点	スケール
1	Quality	品質	食べ物や飲み物の味・美味しさ	1～10点 (10段階評価)
2	Presentation	プレゼンテーション	盛付やお皿、テーブルセッティング等の設え	
3	Story / Expranation	ストーリー・説明	レシピ・調理法や食材などの説明・ストーリー	
4	Ambience	雰囲気	食事場所の雰囲気	
5	Uniqueness	ユニークさ	味や体験のユニークさ	
6	Local ingredients	ローカル食材	ローカル食材の使用	
7	Wellness	健康さ	レシピや食材の育て方などから感じる健康さ	
8	Consideration	顧客への配慮	ベジタリアンやグルテンフリー、低炭水化物食の希望等への配慮や対応度	
9	Acceptance by your Markets	市場受容性	自社マーケットの受容性	

2日目 昼食<カフェレストラン長楽の田芋膳>



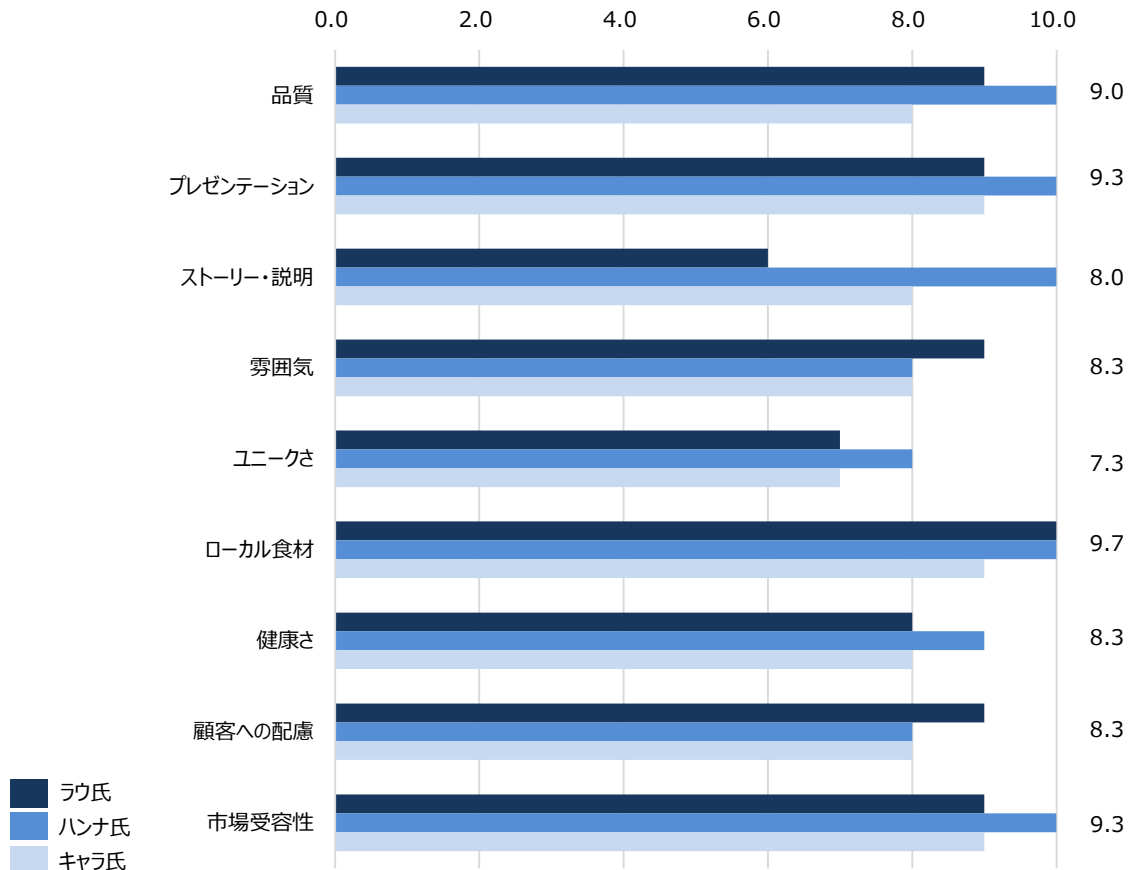
	評価点	改善点
ラウ氏	料理は素晴らしい。雰囲気もいい。シェフとお母さんのやりとりが食事をさらに面白くした。	全員同じメニューではなく、3〜4種類から選べるようになればもっといい。
ハンナ氏	料理の質、ユニークさ、地元の食材とストーリー、シェフによる紹介、ブルーゾーンとのつながり、鍾乳洞体験につながる泡盛と豆腐の試飲。	可能であれば、田芋が嫌いだとわかった顧客のために、田芋を減らした代替メニューを用意してほしい。
キャラ氏	料理長との会話は特別で、楽しかった。泡盛と豆腐のような試食は、ガイドと一緒にグループにとって楽しいものだった。	洋食を好むゲストのためにオプションを用意したり、田芋を好まないゲストのために別のコースのオプションを用意したりすること。

2日目 夕食<かねやん食堂>



	評価点	改善点
ラウ氏	料理はとてもおいしい。シェフはフレンドリー。場所が面白い。	このような人里離れた場所では、何も不満はない。
ハンナ氏	地元の食材、スギをふんだんに使った定食で、近くの集落でスギを養殖している場所の説明を受けた点が良かった。	料理が多すぎる。真ん中の料理は量が多すぎるし、異国情緒がなさすぎる（豚肉はとてもレアで中が血まみれで、貝は殻はとても硬く噛み応えがある）。定食だけで十分過ぎる。
キャラ氏	オーナー兼料理長と話す機会は特別で、お客さんにも喜んでもらった。彼が追加の料理やアイスクリームを用意してくれたのも嬉しい驚きだった。パスタやピザのような洋食のオプションがあることを喜ぶ顧客もいるだろう。	レストランでの食事は、高級志向のお客様には素朴すぎるかもしれないが、文化にどっぷり浸かりたい多くのお客様には喜ばれるだろう。

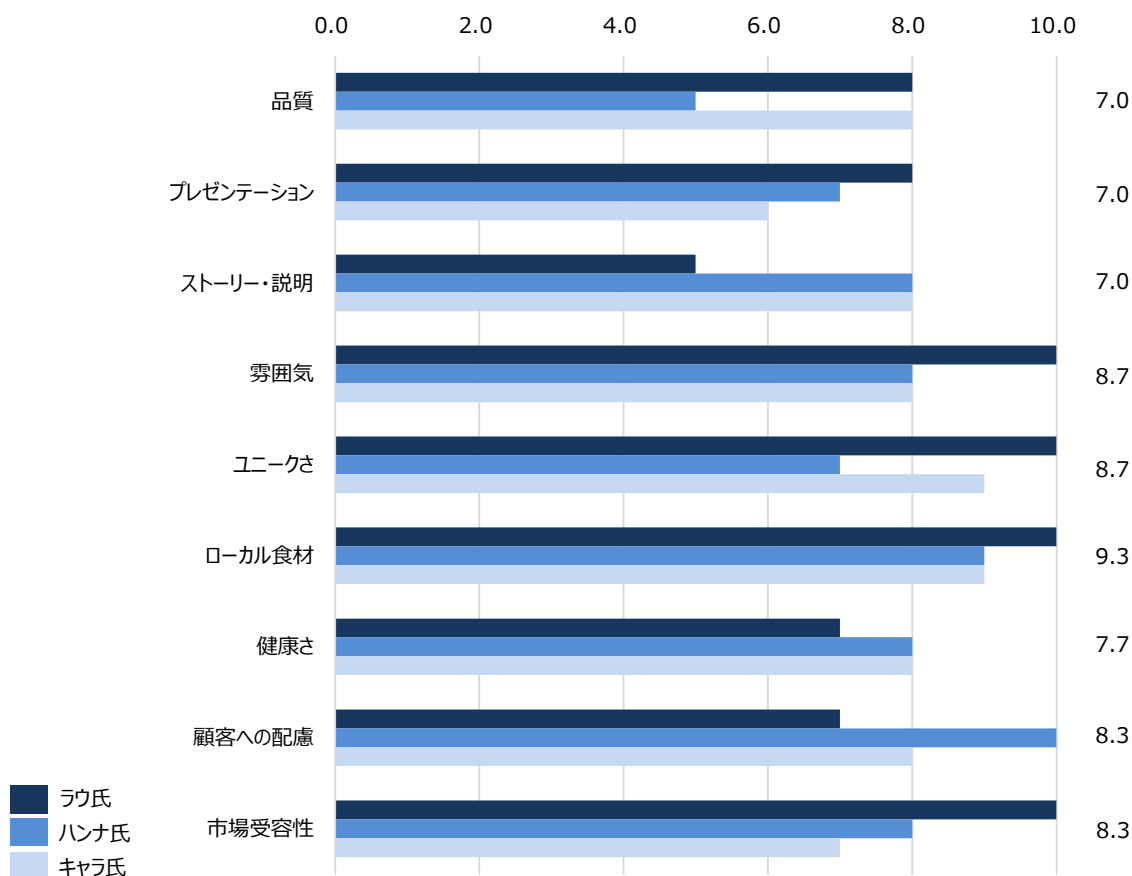
3日目 昼食<OkuMasa>



※平均値を算出

	評価点	改善点
ラウ氏	人里離れた場所にあるとても美味しいイタリアン・レストラン。	思いつかない。
ハンナ氏	地元の食材を使ったおいしい料理。盛り付けも美しい。特に欧米のお客さんには、日本食の良い変化となる。	ランチにしては量が多すぎた。サラダ、パスタ、デザートで十分だと思う。チキンは美味しかったですが、量が多過ぎました。
キャラ氏	レストランは美しく、料理はとても上手に調理され、洗練された方法で提供されていた。このレストランは、味と雰囲気の両方で、私たちのクライアントにとっても好評だろう。	食事はパスタベースなので、グルテンフリーのお客さん用のオプションがあるとありがたい。

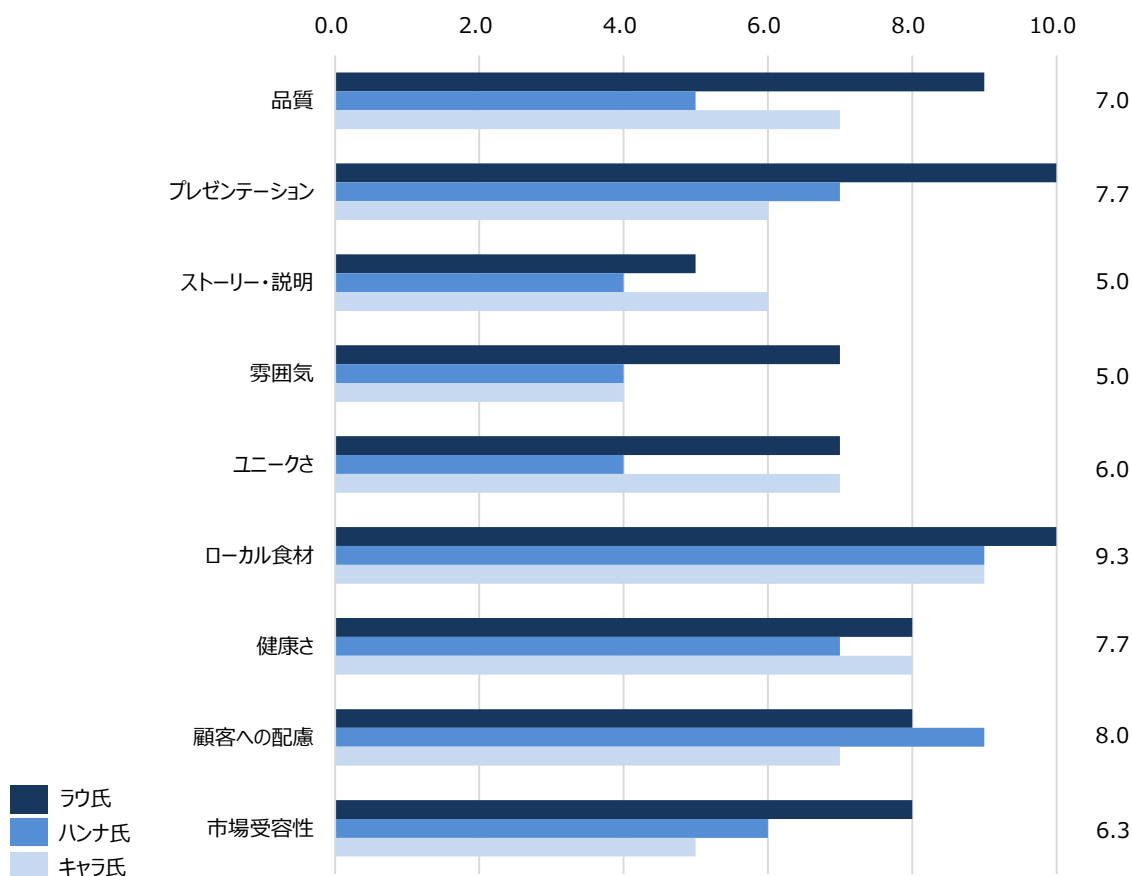
3日目 夕食＜仲間にてハイケイマイスターによるバーベキュー＞



※平均値を算出

	評価点	改善点
ラウ氏	現地の経験を生かした素晴らしい野外バーベキュー体験。	廃鶏は歯ごたえがありすぎて、お客さんには合わない。
ハンナ氏	特に雰囲気が美しかった。シェルパと話ができたこと。獅子舞はこの夜の絶対的なハイライトで、お客さんがこれをとてもユニークで変幻自在なものだと思うことは間違いない。	肉を食べない人のためにシーフードの選択肢を増やしたい。鶏肉が好きなお客さんでも、廃鶏は食感が硬いので食べないかもしれない。
キャラ氏	マスターが特別に作ってくれた食事は、高級感があり、快適でリラックスした雰囲気だった。この食事は、ほとんどのお客様に好評だった。	アメリカではこの種の鶏肉は食べられておらず、試すのをためらう顧客もいるので、使用済み鶏肉を好まない顧客のために、他の鶏肉の選択肢があれば素晴らしいと思う。

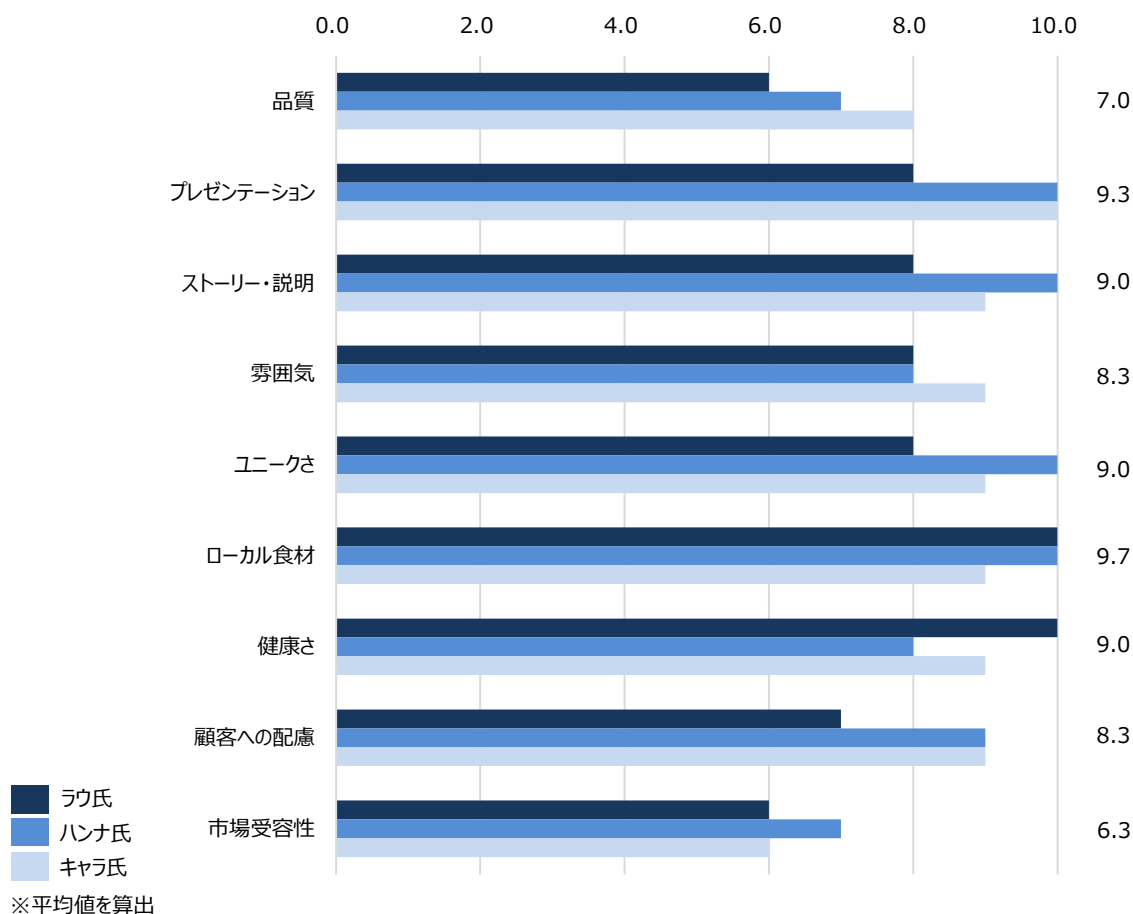
4日目 昼食<山ねこ料理店の弁当>



※平均値を算出

	評価点	改善点
ラウ氏	今まで食べた中で最高の弁当。	私たちは高級志向のお客様を相手にしているので、ピロティでお弁当を食べることがお客様にとって良いことなのかどうかはわかりません。
ハンナ氏	箱はきれいに陳列され、量もちょうどよく、バラエティに富んでいた。	今回の旅行で食べた他の食事と比べると、このお弁当の質はあまり良くないと思いました。
キャラ氏	ガイドがお弁当を用意してくれたのは、設備の整ったギフトショップの隣にあるオープンエアの席だった。	弁当の中の食べ物の選択肢は、より洋風な食事を好む一部の顧客には好まれないかもしれない。そのような顧客のために、いくつかの選択肢があるのはいいことだ。

4日目 夕食<羨望>



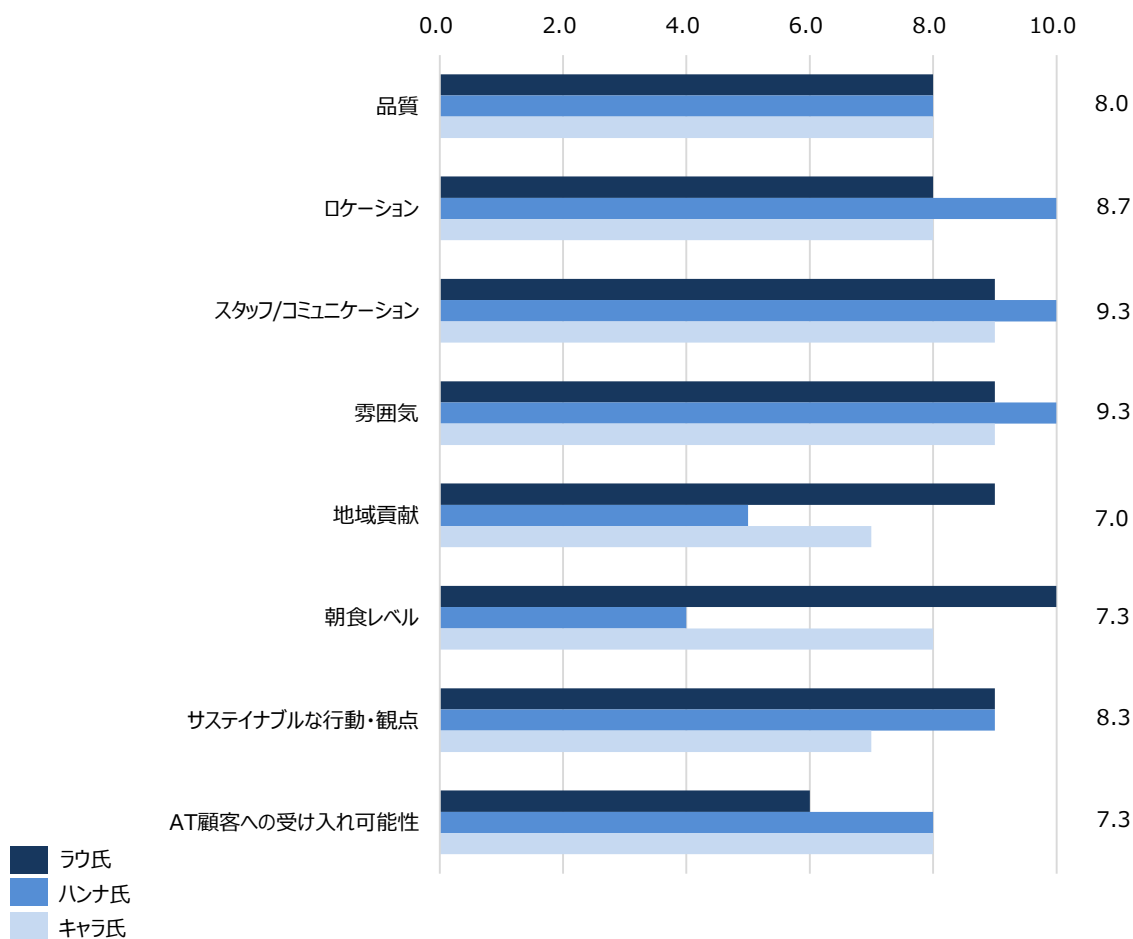
	評価点	改善点
ラウ氏	雰囲気も良く、立地も市内中心部に近くて良かった。	昔は高級ディナーとされていたが、私は主にプレゼンテーションに感銘を受けた。料理自体は特別なものではなかった。
ハンナ氏	特に同じ日に首里城を訪れた後ではなおさらだ。料理は美しく盛り付けられ、量も多い。	料理はとてもユニークで、多くの西洋人旅行者の口には合わないかもしれない（私は気に入ったが、顧客のことを考えると）。料理の盛り付けや漆器は美しいが、部屋自体の雰囲気はあまり良くなかった。
キャラ氏	レストランのスタッフによるプレゼンテーションは格別で、料理の量も多く、誰も空腹を感じることはなかった。	食事のコースによっては、欧米人旅行者には受けが悪いかもしれない。また、料理の量が多いため、出されたものをすべて食べきれないと、少し罪悪感を感じるかもしれない。

＜コンテンツ（ホテル）アセスメントの評価軸＞

ATTAが用いる評価項目やATTAが掲げる体験価値などを元に、以下の通り AT コンテンツに必要な基準を以下の通り設定した。この基準に基づき、本ツアーにおける各コンテンツ（ホテル）を評価を行った。

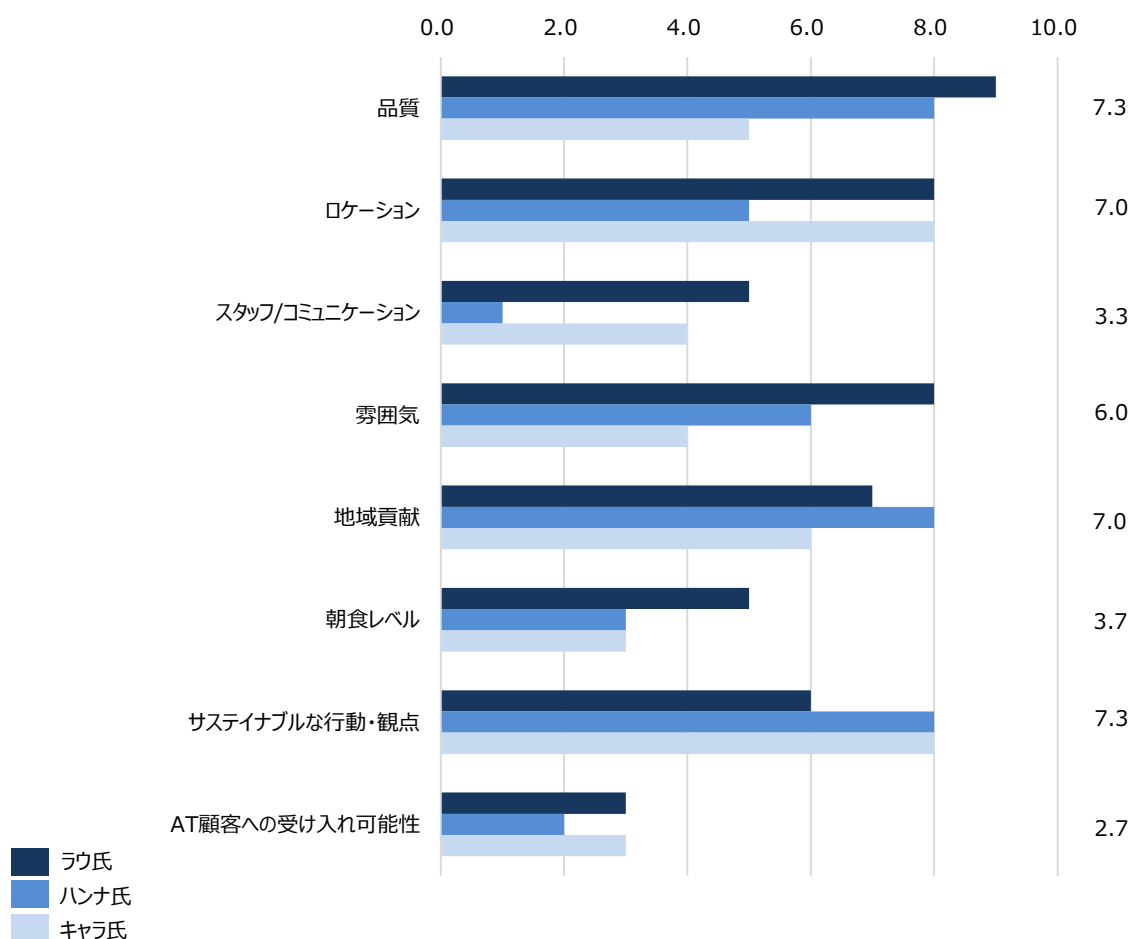
	英語での評価軸	日本語訳	評価の観点	スケール
1	Quality	品質	部屋の設備、清潔さ、広さ等	1～10点 (10段階評価)
2	Location	ロケーション	立地の観点。静かにくつろげるか、体験までのアクセスなど	
3	Staff / Communication	スタッフ コミュニケーション	スタッフの対応や会話やコミュニケーションなどの観点の評価	
4	Ambience	雰囲気	ホテル全体の雰囲気など	
5	Local benefits	地域貢献	地域への経済的貢献が大きいと感じるか	
6	Breakfast	朝食レベル	朝食のチョイスの幅やボリューム、味など	
7	Sustainable action	サステイナブルな 行動・観点	ゴミやCO2への観点・及びそれに対する具体的な行動の有無	
8	Suitability for your market	自社顧客への 受け入れ可能性	全体を通してAT顧客向けと感じるか	

1 日目 サウスウエストグランドホテル



	評価点	改善点
ラウ氏	「地元の方」が利用するレストランがいい。隣接する部屋(コネクティングルーム)が3カ所あるのが好評。	あと1日あれば最高だ。
ハンナ氏	ホテルのロケーション、スタッフのフレンドリーさ、レストランの選択肢、全体的な雰囲気、広々とした客室、すべてのゲストが利用できるクラブラウンジ、食事に関する要望に柔軟に対応（クロスコンタミネーション、アレルギー、事前に連絡すればハラルにも対応）。 年中無休のプール	マットレスが硬い（主観）、タオル掛けがない、部屋の窓からの眺め、スイートは2部屋のみ、朝食の質
キャラ氏	チェックイン時にホテルのスタッフが部屋を案内してくれたのは、嬉しいサービスだった。全体的に高級感のあるホテルだ。	通りの騒音は部屋の中まではっきり聞こえる。

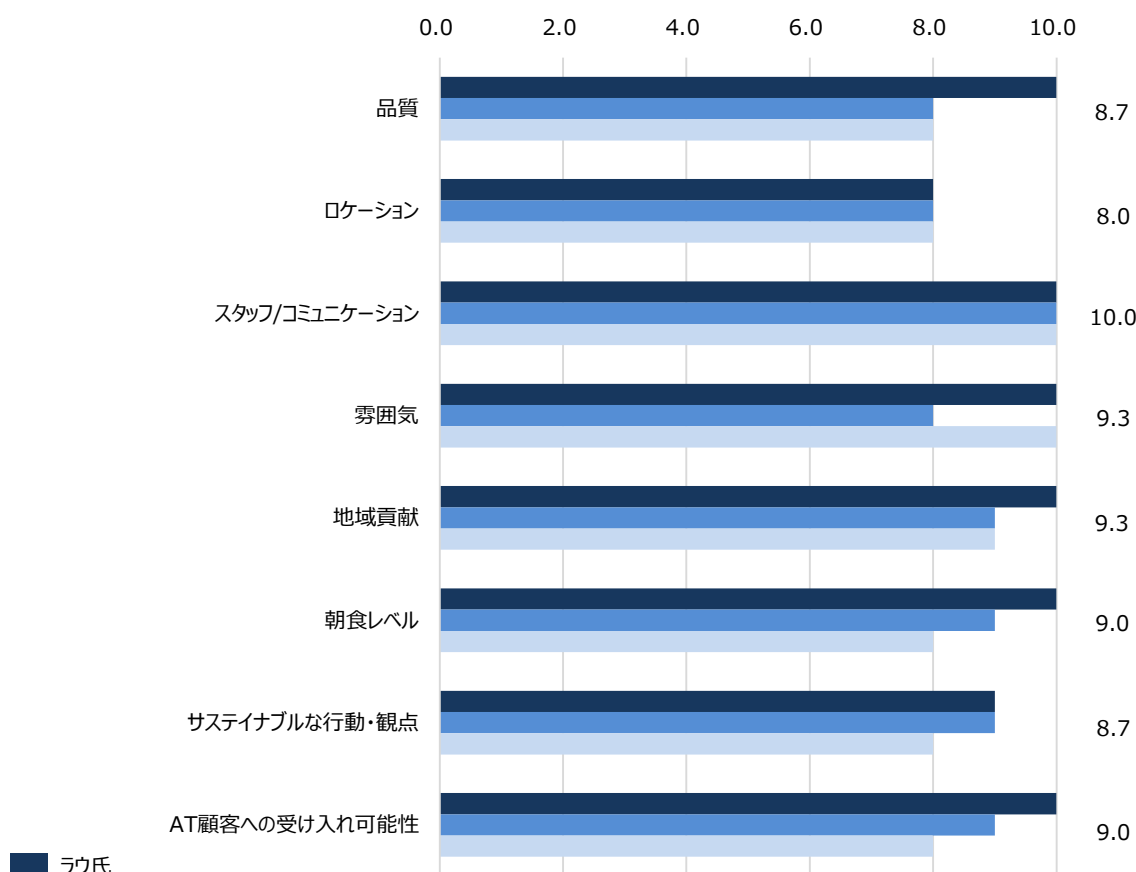
2日目 ヤンバル エクスぺリエンスホテル ヌンガニク



※平均値を算出

	評価点	改善点
ラウ氏	こんな辺鄙な場所でも文句はない。とても新しく、設備も整っている。	私たちは主に高級志向のお客様を相手にしているので、この宿泊施設は私たちのお客様に合わないかもしれない。
ハンナ氏	自然のアクティビティに近い、とても質の高いグランピング。快適なベッドとバスタブ付き。	改善すべき点は何もなく、ただ私たちの顧客のニーズに合っていない。セルフチェックイン、朝食の提供なし、部屋の虫など、ハイエンドのお客様には残念ながら満足していただけない。
キャラ氏	人里離れたグランピングタイプの宿泊施設に近代的な設備があるのは、ちょっと意外でよかった。	この宿泊施設は、私たちの顧客層には少し素朴すぎる。冒険好きなお客さんや若いハネムーンなら楽しめるかもしれませんが、私たちのメイン顧客ではない。

3日目 やんばるホテル南溟森室

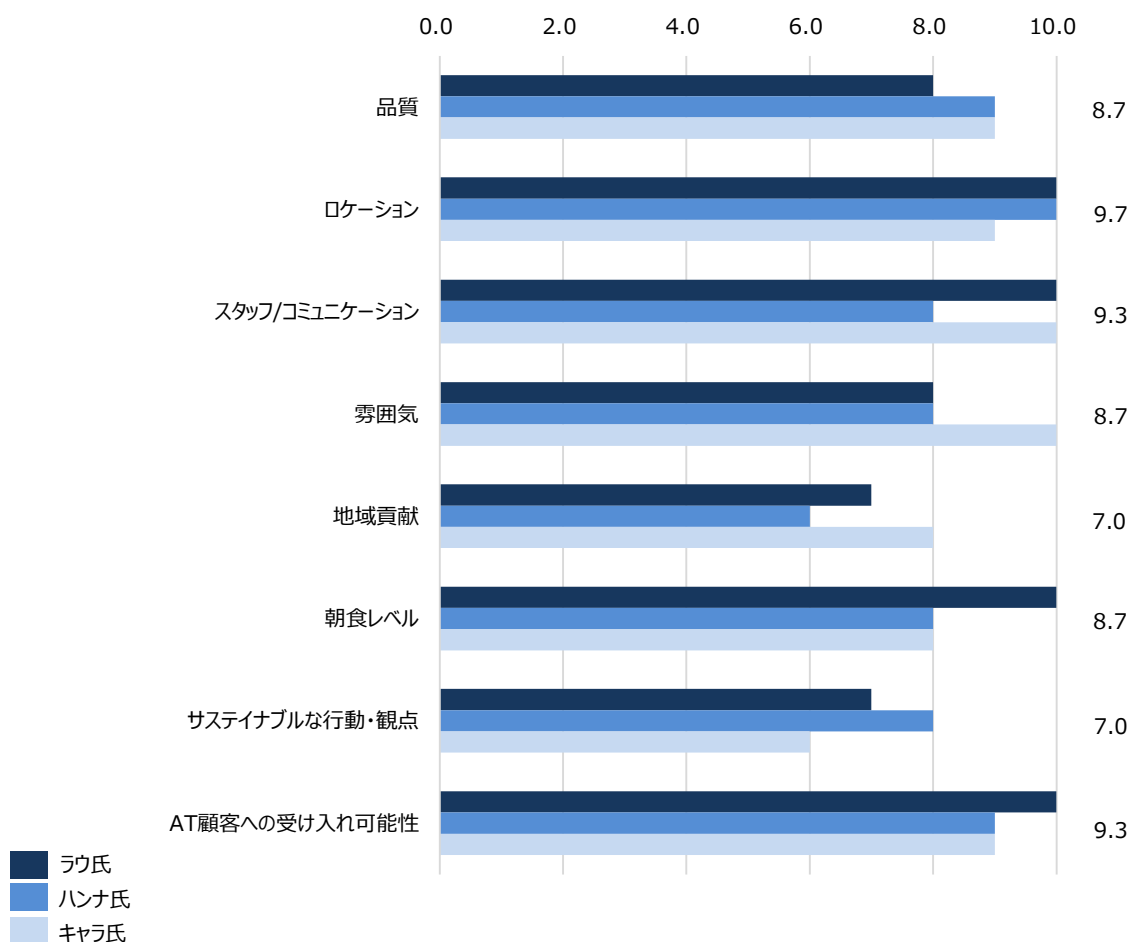


■ ラウ氏
■ ハンナ氏
■ キャラ氏

※平均値を算出

	評価点	改善点
ラウ氏	よく改装され、すべてが良い。	トイレはヴィラ内にあった方がいい（私は仲門に泊まったが、トイレは外にあった）。バスタブは、次のタンクの水を再加熱するために15分ごとに給湯器のスイッチを切る必要があるのであれば、もっと小さい方が良かったかもしれない。
ハンナ氏	美しい家々、特に仲門。一緒に朝食を作るのは最高だった。	何もない。地元の文化にどっぷり浸かりたいお客さんには、快適さと豪華さを兼ね備えた素晴らしい宿だと思う。ただ、仲福屋の前にヤスデが何百匹もいて、夜中に20匹くらい家の中に入ってきた。でも、これは普通ではないし、最近の洪水のせいだと思う。
キャラ氏	旅館風の美しい物件。宿泊施設に虫が湧く可能性があることを好まないお客様もいるが、ほとんどのお客様は宿泊施設に満足いただけると思う。タカさんとの朝食クッキング体験は楽しく、インタラクティブだった。	朝食の調理中、室内の石窯から発生する煙の量に満足できない顧客もいるかもしれない。特にランドリー設備がない。

4日目 ホテル コレクティブ



※平均値を算出

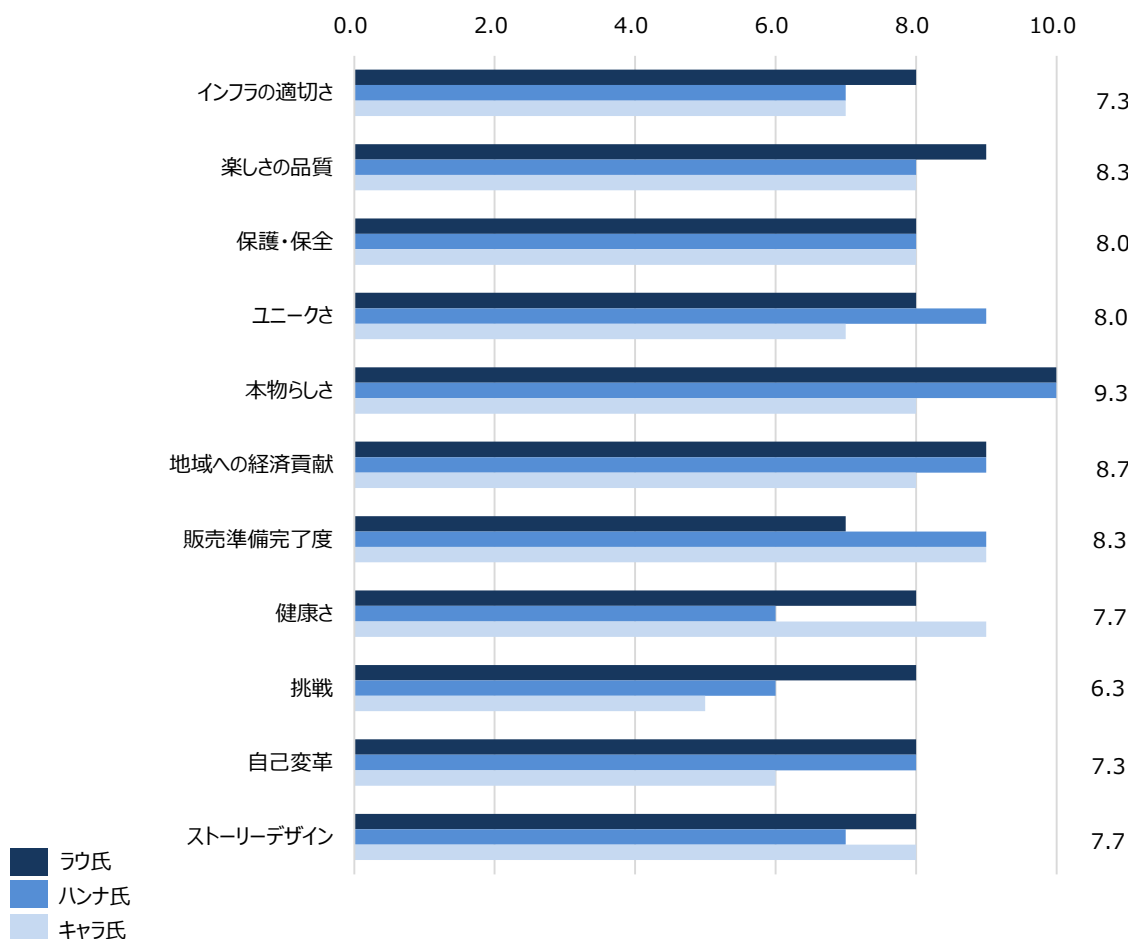
	評価点	改善点
ラウ氏	素晴らしい部屋、素晴らしい朝食、素敵なスタッフだった。	思いつかない。
ハンナ氏	広くて快適な部屋。バスルームとバスタブが良い。朝食の質。ジムの設備が良い。スイートのオプションが良い。防音。	プールは季節営業のみ、レストランは欧米人の口に合わない可能性あり（ブラジル料理、中華料理、琉球料理）、クロスコンタミネーションNG、キングベッドなし。
キャラ氏	このホテルは高級感があり、ほとんどの顧客に適している。アメニティが充実しているのもスイートルームの大きなセールスポイントだ。ホテル内の防音はとても良かった。	クロスコンタミネーションを防ぐために調理器具を変更できないレストランは、重度の食物アレルギーを持つ顧客にとって問題かもしれない。

＜コンテンツ（体験）アセスメントの評価軸＞

ATTAが用いる評価項目やATTAが掲げる体験価値などを元に、以下の通り AT コンテンツに必要な基準を以下の通り設定した。この基準に基づき、本ツアーにおける各コンテンツ（体験・アクティビティ）を評価した。

	英語での評価軸	日本語訳	評価の観点	スケール
1	INFRASTRUCTURE APPROPRIATENESS	インフラの適切さ	コンテンツを楽しむ上で設備などが適切に整っているか（粗雑でも過剰でも低評価となる	1～10点 (10段階評価)
2	QUALITY OF ENJOYMENT	楽しさの品質	コンテンツがもたらす体験が楽しいと感じられる度合い	
3	QUALITY OF PRESERVATION / CONSERVATION	保護・保全	コンテンツに関わる自然や地域文化の保護や保全の度合いやその取り組みが感じられる度合い	
4	UNIQUENESS	ユニークさ	コンテンツがもたらす体験のユニークさ、その地ならではの感じられる度合い	
5	AUTHENTICITY	本物らしさ	コンテンツが人工的に作られた自然や文化を見せているのではない、「本物」の体験かどうか	
6	LOCAL BENEFITS	地域への経済貢献	コンテンツを介して地域への経済貢献がなされていると感じるかどうか	
7	READINESS	販売準備完了度	欧米AT顧客にすぐに販売できる状態になっているかどうか	
8	WELLNESS	健康さ	コンテンツの体験を通じて健康になっていると感じられるかどうか	
9	CHALLENGE	挑戦	コンテンツの体験に心理的・身体的な適度な「挑戦」が伴うかどうか	
10	TRANSFORMATION	自己変革	コンテンツの体験を通じて自分の意識や価値観に変化を感じるか、自らの成長につながるか	
11	STORY DESIGN	ストーリーデザイン	コンテンツの体験に適切なストーリーが設計されているかどうか	

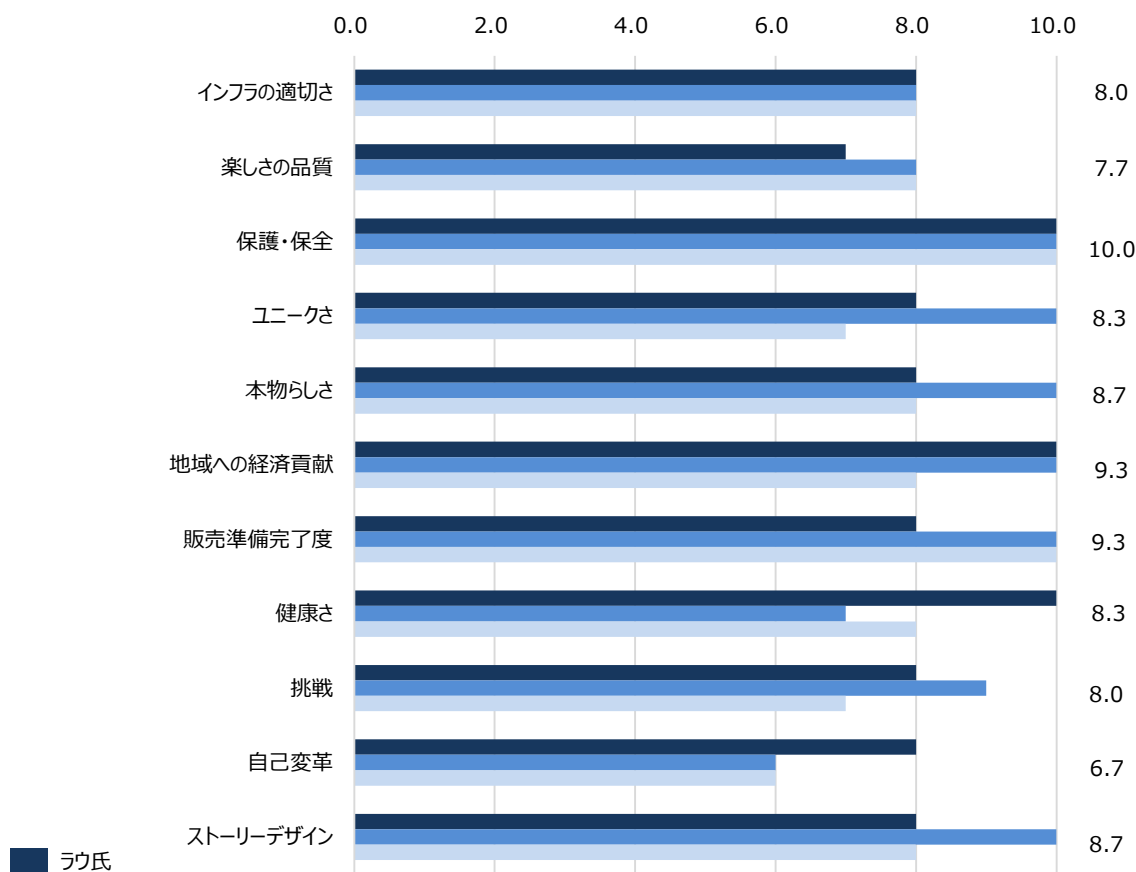
2日目 金武町ウォーキング



※平均値を算出

	評価点	改善点
ラウ氏	地下の石灰岩の泡盛貯蔵庫はとてもユニークで興味深かった。家庭訪問は地元の人と交流できてよかった。家族というテーマに興味がないのであれば、普通のおしゃれコーナーや料理コーナーにしてもいいのでは。可能だろうか。	町歩き（ノロ神殿、湧水）は、ガイドなしで誰でもできたので、あまり面白くなかった。観光地もあまり面白くない。
ハンナ氏	ハイライトは、泡盛と豆腐ようを貯蔵している鍾乳洞と、先祖崇拝について学ぶために宜野座さんの家を訪問したこと。地元のレストランの料理もとてもおいしかった。地元の人たちのつながりが感じられた。また、律子さんの友人が作ってくれた世界に一つだけの里芋のキーホルダーをいただいたが、とてもかわいらしく、高級感があつた（お客さんが喜びそう）。	ウッカガや聖地の紹介は、少し行き当たりばったりで、もっとストーリー性を持たせた方がいいと思った。地元のレストランでの食事はとてもおいしかったが、すべてが里芋で作られていたので、里芋が嫌いなお客さんには合わないだろう。バードウォッチングは個人的にはあまり好きではなかったが、バードウォッチングが好きな人にはいいかもしれない。宜野座さんの家での体験は、お客さん用の椅子を用意したほうがいいと思う。
キャラ氏	ウォーキングツアーガイドとバードウォッチングガイドがコミュニティとつながっているのを見るのはいいことだった。二人ともとても面白く、ツアーを楽しませてくれた。ウォーキングツアーのガイドの友人が私たちのグループのために特別に作ってくれたキーホルダーは、素晴らしいサプライズで、私たちの顧客も喜ぶものだった。	訪問の際に椅子を用意する必要がある。

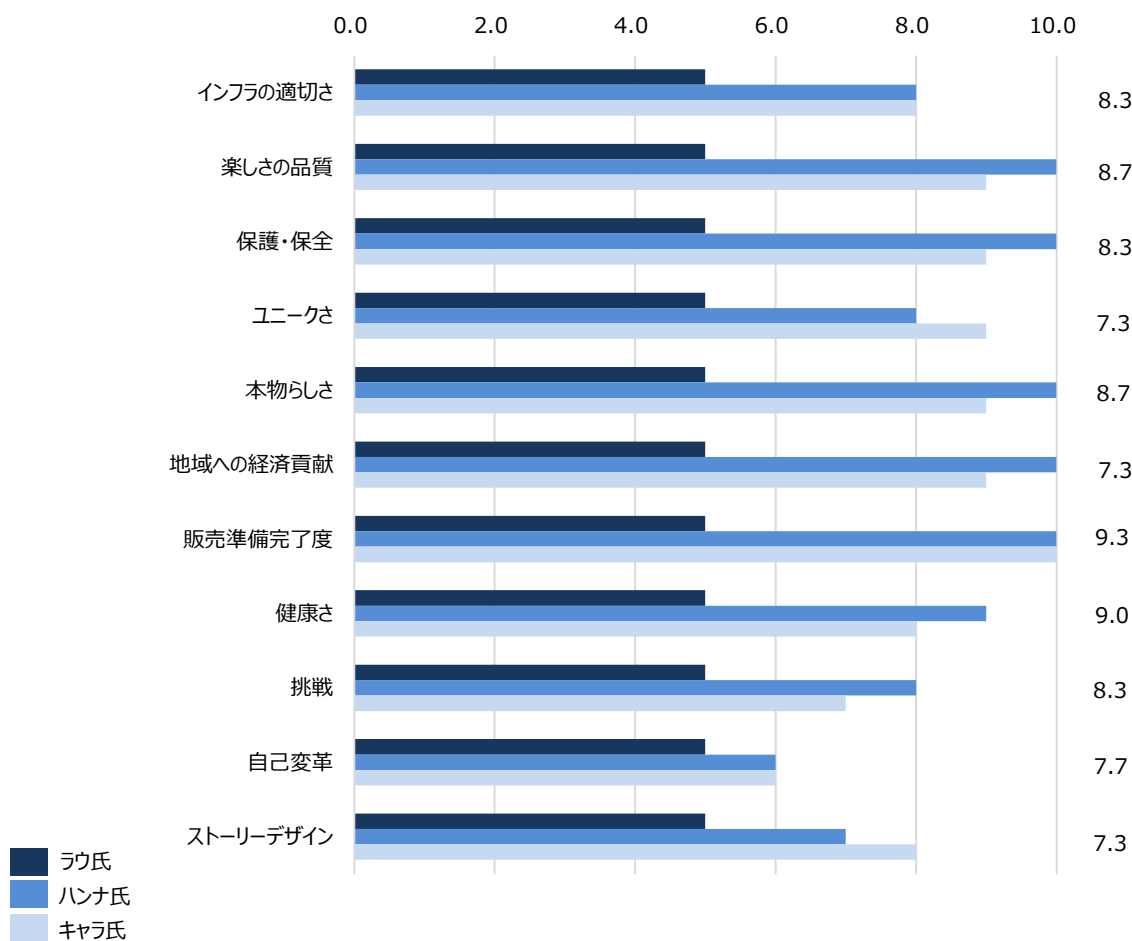
2日目 AKISAMIYO



■ ラウ氏
 ■ ハンナ氏
 ■ キャラ氏
 ※平均値を算出

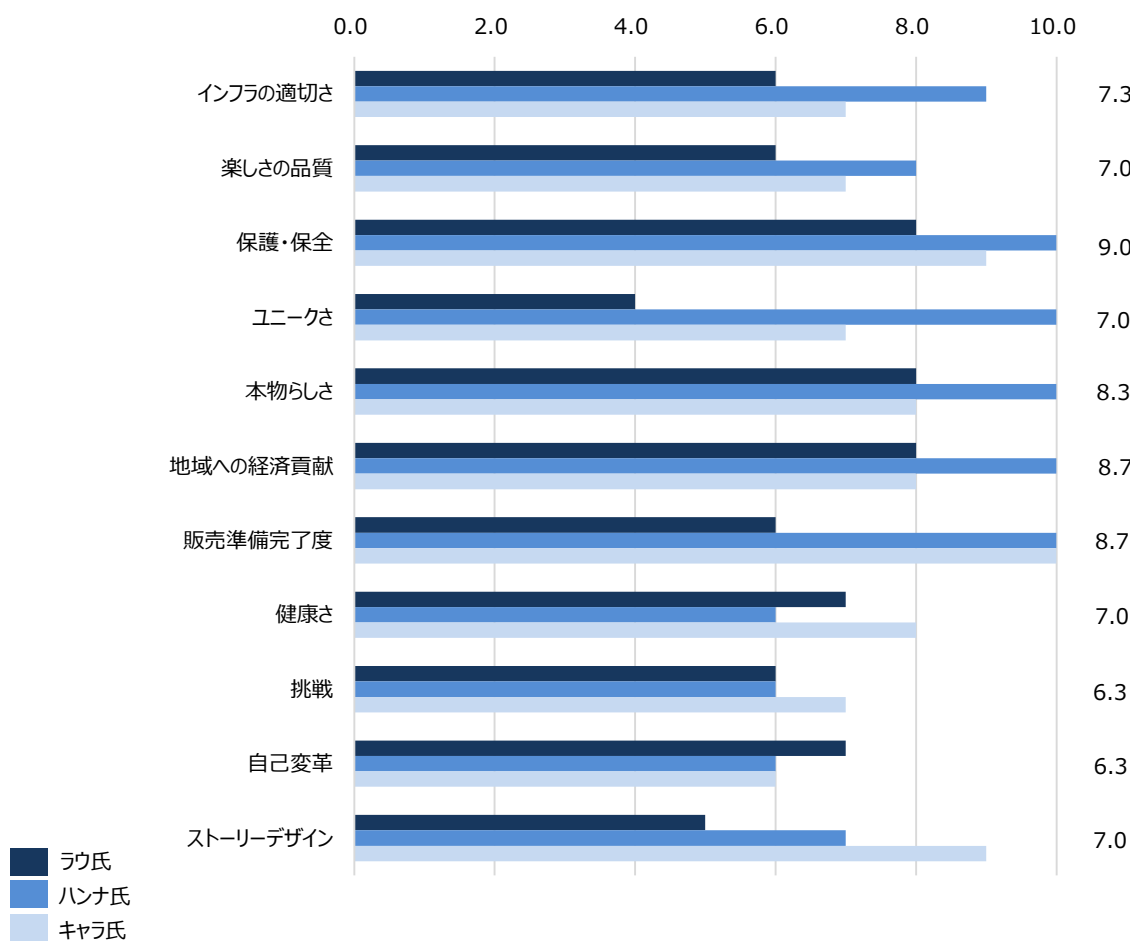
	評価点	改善点
ラウ氏	ガイドはとても物知りで親切だ。	主に道路を歩いたが、道路で見られる動物や昆虫の種類は限られているので、（安全な）小道を歩くことができれば最高だ。
ハンナ氏	とてもよく練られたツアーだった。冒頭の安全説明からずっと。車からの観察、外を歩くこと。むーちゃんからの説明。ゲートに入る前のお祈り。ツアー終了後、動物の写真が送られてきたこと。参加者間で交代しながら、調査結果を正式に記録すること。	なし。沖縄と奄美で経験した野生動物観察の中では、これが一番良かった。ただし、野生動物、生物、生物多様性、そしてその保全に非常に興味がある顧客のみに向いている。
キャラ氏	ガイドさんはとても知識が豊富で、ツアーをインタラクティブなものにしてくれました。	客がツアーで何を見つける可能性が高いかについて、期待値を管理すること。ガイドがツアー概要を説明すると、そこに書かれているものをすべて見ることができるとしてしまうお客様がいるかもしれない。カエル、昆虫、カタツムリが最も一般的であるという簡単な免責事項は、いくつかの期待を管理するのに役立つ。

3日目 又吉コーヒー園コーヒー豆収穫体験



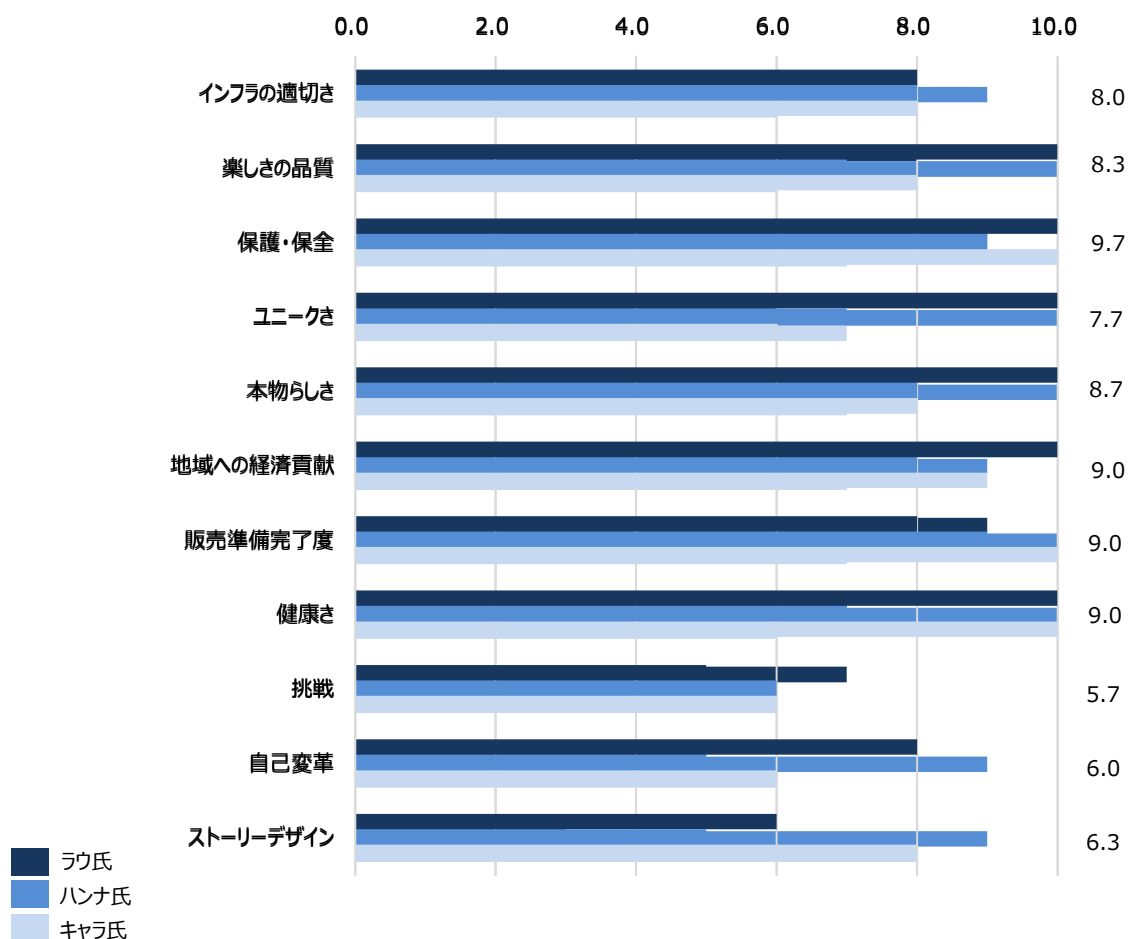
	評価点	改善点
ラウ氏	このパートは強風と潮流のため中止となった。代わりの「コーヒーの淹れ方」は素晴らしかった。	
ハンナ氏	悪天候のため、又吉農園でのコーヒー摘み・作り体験に変更。コーヒー摘みからコーヒー作りまで、とても充実した体験だった。又吉さんはとても親しみやすく、楽しい体験をさせてくれた。ガイドの仕事から離れ、一息つくにはとても良い体験だった。瞑想のような体験で、頭をオフにしてリラックスできる。	コーヒー好きにはたまらない。
キャラ氏	このアクティビティは、ほとんどのお客様が楽しめるとても楽しいものでした。コーヒー農家の方は、アクティビティの各段階を通して、皆を飽きさせない素晴らしい仕事をしてくれた。	宿泊客には、料金に含まれているコーヒー農園からの土産物のようなものを提供するのもいい趣向だろう。

3日目 シェルパによる喜如嘉集落散策(芭蕉布会館含む)



	評価点	改善点
ラウ氏	シェルパはとてもフレンドリーで親切だった。	ウォーキングツアーはまあまあで、あまり面白くない。村は普通の村だ。ブルーゾーンに興味があれば、退屈に感じるかもしれない。
ハンナ氏	このツアーは、地元のシェルパの人柄に左右される。というのも、この村はとても小さく、「見るべきもの」があまりないからだ。タカさんは面白く、親しみやすい人だったので、楽しいツアーになった。	芭蕉布会館の見学は興味深かったが、機織り職人に近づいて仕事を見ることができなかったのは残念だった。そのため、あまり没入感がなかった。
キャラ氏	シェルパガイドのタカは驚異的だった。とても人柄がよく、親切で、知識が豊富だった。夕食後の獅子舞のパフォーマンスは、歓迎すべきサプライズであり、この旅の最大のハイライトのひとつだった。	タカが芭蕉布の作り方についてもう少し詳しく説明したり、織物会館を歩く前に情報ビデオを見たりすれば、織物職人に近づいたり話しかけられない理由を理解する助けになるだろう。

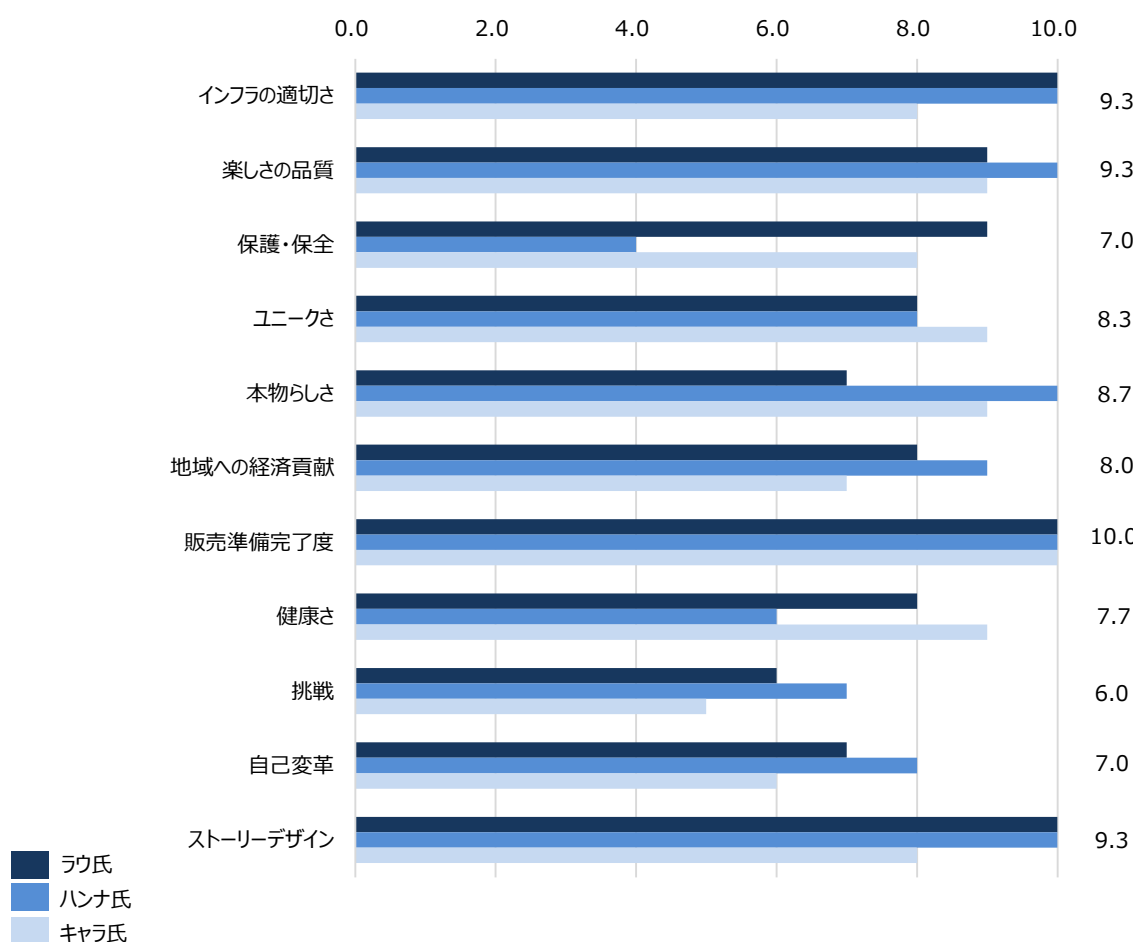
4日目 ネクマチチ岳ネイチャーウォーキング



※平均値を算出

	評価点	改善点
ラウ氏	ガイドさんはとても知識が豊富で、視覚的な説明もあり、とても勉強になったし、楽しかった。	思いつかない。
ハンナ氏	ガイドの説明、山頂でのシークワサージュスの準備、ガイドさんからの質問も多く、インタラクティブなツアーだった。	奄美大島でのトレッキングに比べると、今回のトレッキングはあまり楽しめなかった。
キャラ氏	英語が堪能で、知識豊富なガイド。トレッキング中、ゲストが一息ついたり、飲み物を飲んだりできるよう、何度も休憩を取ってくれた。山頂でのシークワサージュスのサプライズもあり、全体的に良いペースだった。	体力に自信のないお客さんのために、車での移動のオプションがあればいいと思う。トレッキングの最後に、ガイドのやんばるピンバッジをプレゼントすれば良いと思う。

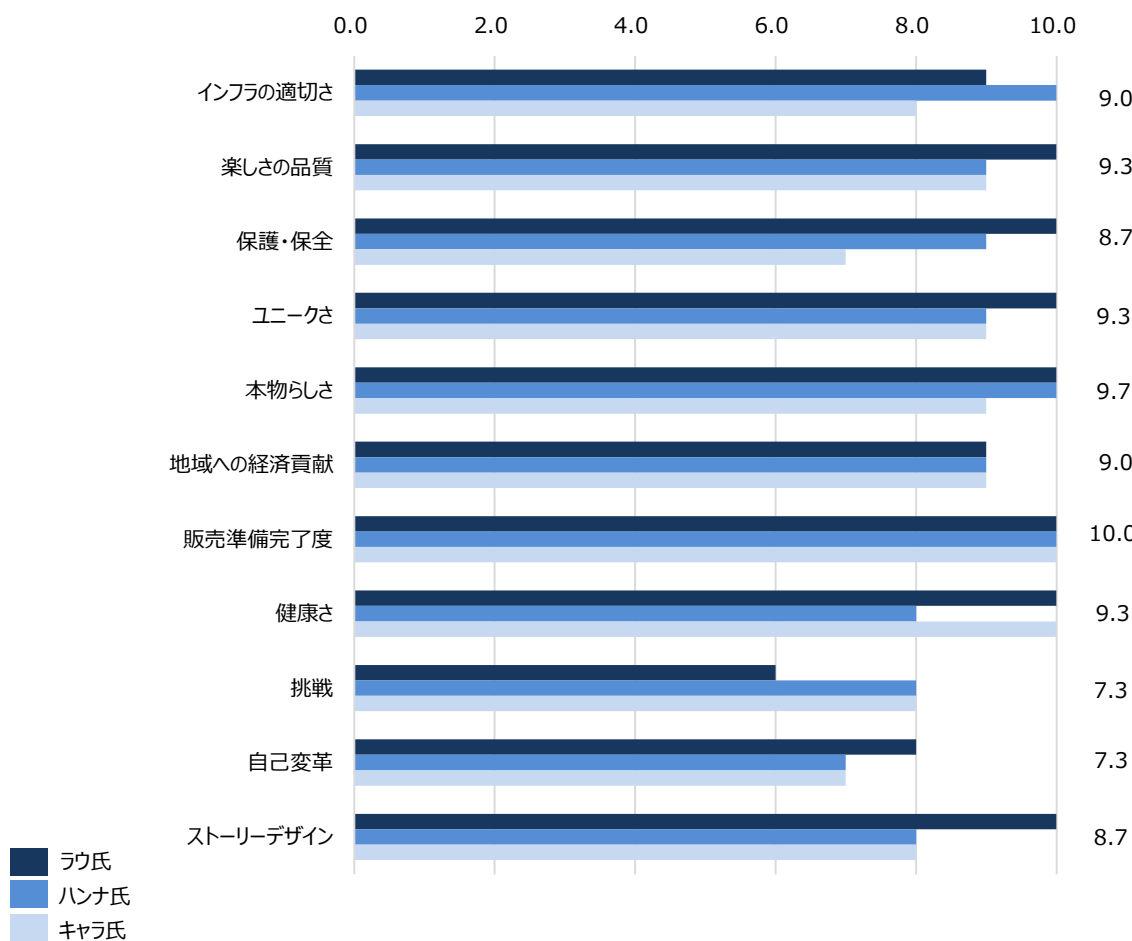
4日目 首里城見学



※平均値を算出

	評価点	改善点
ラウ氏	ガイドのセイコさんは、とても情報通で、貴重な情報を提供してくれた。	思いつかない。
ハンナ氏	このツアーは、ガイドの良し悪しでも決まると思う。聖子さんは素晴らしく、知識が豊富でした。日本本土のお城をすでに訪れたことがあり、その大きな違いを理解できる人なら、お城を見るのは特に興味深い。私にはとても印象的だった。	何もない、素晴らしいよ。
キャラ氏	首里城とその周辺の歴史に関するガイドの知識は、沖縄における首里城の重要性をゲストに大いに理解させる。	修復工事のため本丸を見ることができないことを、ツアー前に説明する必要がある。

5日目 空手体験

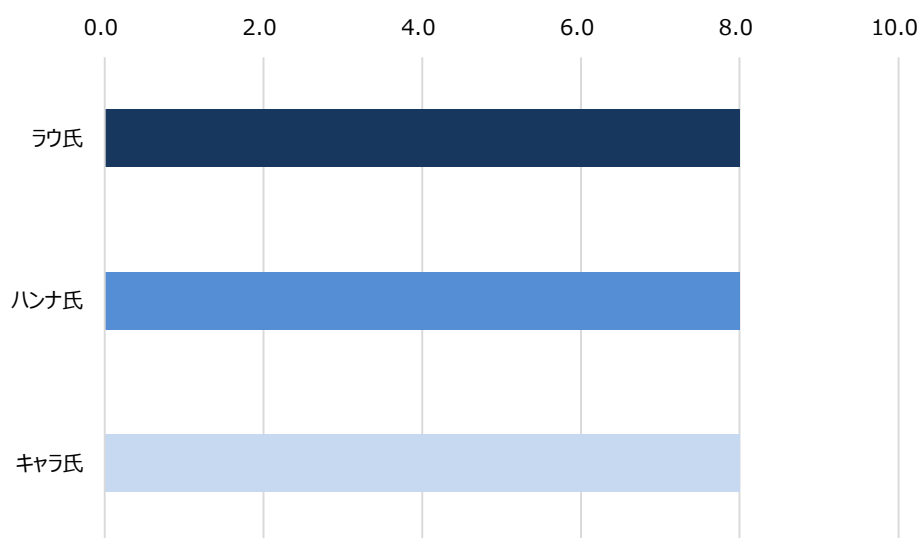


※平均値を算出

	評価点	改善点
ラウ氏	とてもユニークな体験で、参加者は一緒に練習することができます。マスターから歴史的な話も聞いた。	思いつかない。
ハンナ氏	道場の場所と外観は興味深く、とても良い先生で好感が持てた。先生は生徒に練習をさせるのではなく、一人一人の生徒とデモンストレーションをしてくれた。	セッションの最初に、空手とこの道場の成り立ちを口頭で紹介するのは良いことだ。年配の先生が立ち寄ってくださるのは光栄なことだと思うが、お客様にとっては良いことではない。体験が中断されるし、先生は英語で話したが。先生の英語力は年齢の割には素晴らしいが、とても聞き取りにくく（私は50%くらいしか理解できなかった）、専門用語や名前をたくさん使うので、お客様には何のことかさっぱりわからないだろう。彼の話も飛び飛びで、まったくつながっていない。私は忍耐強い方だが、イライラして退屈してしまった。
キャラ氏	先生はとても親切。デモンストレーション中も楽しかった。	先生の通訳が必要だろう。先生の言葉を理解するのが難しいときがあるからだ。

<全体評価>

ツアー全体の満足度



	満足度（理由）
ラウ氏	とてもよく組織化されており、ロジスティックスも非常によく、金武町、ヤンバルクイナといった沖縄の知られざる一面を見せてくれた。基本的にはよく企画された有益なツアーだが、金町散策や芭蕉布会館見学など、もっと興味を引くような演出があってもいい。
ハンナ氏	自然と文化体験がうまくミックスされていた。沖縄の北部と南部の両方について良い印象を受けたし、地理や歴史、文化についても学ぶことができた。食事とても美味しかったです。もしこのツアーに参加するのであれば、もう少しダウンタイムが必要だと思う。せっかくの休日を疲れさせたくない。
キャラ氏	JTBのチームは、すべてをとてもスムーズに組織してくれた。ガイドのセイコとルドは、皆を快適にさせ、参加させ、すべてのアクティビティの意義を理解させるために時間を割いてくれた。

ツアー：独創性

本ツアーの、他では味わえないユニークな体験をキーワードの中から自身が最も強く感じたユニークさを表しているものを教えてください。

Traditions（伝統）・Natural Beauty（自然美）・
Local Pride（地域への誇り）・Preservation（保全）・
Diversity（多様性）

ラウ氏	Local Pride（地域への誇り）
ハンナ氏	Local Pride（地域への誇り）
キャラ氏	Natural Beauty（自然美）

“自然美”、“伝統”に回答が集中した。

ツアー全体の満足度

「Ikigai」をテーマとした本ツアーにはどれくらい満足しましたか？

とても満足・満足・どちらともいえない・やや不満・不満

ラウ氏	満足
ハンナ氏	満足
キャラ氏	とても満足

概ね満足していただいた。

ツアーコンセプト「Ikigai」への理解度

本ツアーを体験して、ツアーの核となるテーマ「Ikigai」についての理解度はどの程度深まりましたか？

とても理解できた・理解できた・どちらともいえない・あまり理解できなかった・理解できなかった

ラウ氏	理解できた
ハンナ氏	どちらともいえない
キャラ氏	とても理解できた

三者三様の評価となった。

価格妥当性

このツアーの1人あたりの適正な価格（税込）はいくらだと思いますか？

ラウ氏	2,500～3,000 USD
ハンナ氏	3,500～4,500 USD
キャラ氏	3,000～3,500 USD

販売側としては3,000USDを想定しており、欧米マーケットには適正だが、アジアマーケットには高いという評価となった。

ツアー全体の感想

ラウ氏	金武町は那覇から近いので、那覇に滞在するゲストのために、金武町を日常的な小旅行として宣伝し始めたらどうだろう。やんばるはもっと遠く、自然が中心なので、自然や冒険が好きな人向けで、大勢の観光客向けではない。
ハンナ氏	どの体験も、それ自体は素晴らしいものだったと思うが、最終的に「Ikigai」につながるものではなかったと思う。金武のツアーでは、ブルーゾーンの話が何度か出てきたが、それ以降の体験はIkigaiやブルーゾーンとはあまり結びつかなくなっていたと思う。もしこのツアーを「Ikigaiツーリズム」として売り出したいのであれば、すべてのサプライヤーがこのことを認識し、少なくともブルーゾーンやIkigaiという言葉の説明の中に盛り込み、すべてがそこにつながるようにする必要がある。
キャラ氏	全体的に、ガイドはすべてのアクティビティをIkigaiのテーマにうまく結びつけていた。全員がとても組織的で、よくコミュニケーションをとっていた。このツアーは、一般の旅行者が個人ではなかなか行けないような沖縄のローカルな一面を見せてくれた。ツアー料金にお土産が含まれていれば、お客さんへのサプライズとなり、旅の思い出になると思う。また、あまり食にこだわらない欧米人旅行者のために、ほとんどのレストランで西洋料理のオプションが利用できるようにする。ATのお客様のほとんどは、4つ星から5つ星のホテルを好み、1泊か2泊はより本格的な宿泊施設に泊まる。

運営側の感想・気づき

國場： スルーガイド	今回のFAMの実施に当たり、沖縄JTBの担当者の方々をはじめ、沖縄県、鹿児島県、各事業者の皆様が、ブランディングから実施まで驚くほど丁寧に仕事をされていることに、報告書を拝見して改めて感銘を受けている。今までのFAMのガイドでここまで丁寧にツアーコンセプトに関して説明を受けて実施した経験はないので、ツアー中もなるべくテーマをゲストにリマインドしつつガイディングをするように留意した。 今回のFAMはIkigaiツーリズムの可能性についてゲストに考えていただくためのFAMだったので、最初のブリーフィングではルド氏より非常に丁寧にテーマの説明もあり、各所の関係者からテーマのリマインドは何度あってもいいと思うが、一般販売のツアーとしては、究極はお客様の満足度が上がることが最重要ゴールかと思うので、その辺のさじ加減は、毎回異なるゲスト一人一人に合わせてスルーガイドが調整をするべきところかと思う。 今回、日本の文化歴史研究の博士号を持つようなゲスト（ローコンテクストな文化背景を持つ欧米人）と、沖縄は初めてで顧客層は表面的な日本観光を楽しむというゲスト（ハイコンテクストな文化背景を持つアジア人）があり、特にガイディングの幅と深さには気を遣った。 アンケートやヒアリングの結果からも明らかなように、特に富裕層顧客に関しては、どんなに練ったプランであっても、時に大きな変更が急に必要になることを、より多くの関係者が理解し柔軟に対応できるようになるために、今後とも横のネットワークをより強化していきたいと自分自身強く感じている。 最後に、沖縄のスルーガイドが奄美のツアー内容を理解していないと、折角の点と点を繋げたストーリーテリングができず勿体ないので、沖縄と奄美のストーリーを繋げて磨き上げるためにも、奄美のツアーに関して視察・勉強の時間をいただけたら幸いである。
ルド：沖縄JTB アシスタントガイド	今回参加したエーエージェント3名は若いながら各社のエリート人材で、販売を真剣に検討されている姿勢を感じられたFAMトリップであった。欧米豪が中心と言われるAT商品に対して、アジアマーケットへの手ごたえも十分にあった。 評価点と改善点を明確に伝えてくれたため、対策の検討がしやすく、都度のヒアリングでも販売に向けた具体的なブラッシュアップ策案や、食事の選択肢（肉と魚のバランス・グルテンフリーが必要、食材など）、宿泊施設の適性、地域の方と交流場面の価値など、販売のための協力的な提案をいただいた。 反面、課題としては、ATとLuxuryのコンセプトの境目が不明瞭である点で、ATのフィロソフィー（チャレンジ性・地域貢献・サステナビリティ）への賛同など、Luxury層の顧客への販売の際に、その理解度や訴求ポイントについての各エーエージェントと密な会話が重要であり、その要求に応じてAT商品の構成を工夫する必要があると感じた。
江藤：沖縄JTB コーディネーター	FAM実施にあたり、企画提案書ではアジアマーケットをターゲットとしアジアセールスにより参加者を決定していく想定であったが、9月末のVJTMでの商談、かつ欧米も含む、と難易度が数段上がった。VJTMから10名程度にターゲットを絞り、そこから交渉を重ね、最終的に沖縄・奄美でのべ6名で実施することができたが、決定後のキャンセルや便・座席のご要望など、来日直前まで諸々の対応が発生した。 またアジアと欧米の混合でのツアーは初めての経験であり、運営に不安はあったが、結果的に3名とも非常に優秀な方々で意見交換も積極的に行うことができ、とても良い雰囲気の中、FAMを進行することができた。 3社はluxuryマーケットを主に扱うエーエージェントだったため、ツアー造成に当たっては、ATをどのようにどの強度で落とし込んでいくか非常に熟考した。高付加価値を求めるインバウンドからは「沖縄にしかないもの」「沖縄でしかできないこと」の要望が常にあり、「海」「リゾート」では近隣のアジア諸国と価格競争に陥り、また日本国内のゴールデンルートに勝る独自の魅力を表現する必要があり、さらに地域貢献のためには、単にFITでレンタカーで訪問して終わるようなツアーではなく、「人の手」が加わったツアーでなければならない。そのため「Ikigai Tourism」をコンセプトにしたが、今回の3名の生の反応を見ながら、沖縄の生活スタイルや生き方そのものを伝える難しさを痛感したと同時に、確かな手ごたえもあった。演出ではない本物の交流を生み出す「Ikigai Tourism」は、「人」がすべてであるが、同じ目的と情熱をもって事業者が密に連携している沖縄なら、他のエリアにはない独自の価値を表現できると考える。 具体的な気づきとしては食の多様化が必要であること。高付加価値とはお客様ごとに必要な食事を提供できることが最低限必要と痛感。少なくとも、決まったメニューではなくその場でお客様が選択できるようにすべきであること。またツアーを通してストーリーテラーになる「スルーガイド」の育成が急務。 英語力だけでなく知識量、臨機応変な対応や決断を求められるため、添乗員やガイドの枠を超えたホスピタリティが必要。またプロダクトアウトとマーケットインのバランスも重要である。 今回の気づきを次回以降に活かしていきたい。

⑤ 奄美／エージェントFAMトリップ

日時	2024年11月20日（水）～24日（日）4泊5日
被招聘者	Hanna Schmidt（ハンナ）氏 所属先：Into Japan Specialist Tours（イギリス） 役 職：ホテル・プロダクト・マネージャー & FIT ツアーコンサルタント 沖縄パートから連続で参加 Cara Postlethweight（キャラ）氏 所属先：ATJ（アメリカ） 役 職：Travel Coordinator 沖縄パートから連続で参加 Steven Ler Leong Hwee（スティーブン）氏 所属先：UOB Travel（シンガポール） 役 職：Executive Director , Head of Travel NATAS（シンガポール旅行業協会）会長 奄美パートのみの参加
ガイド／事務局	古株 聖也 氏 ※メインガイド 所属先：Link Adventures 代表 玉置 奈菜 氏 ※アシスタントガイド 所属先：Amami Private Tour Tabidori 代表 井上 博道 ※事務局兼コーディネーター 所属先：JTB鹿児島支店 営業担当部長



古株氏

スティーブン氏

ハンナ氏

キャラ氏

玉置氏

 テーマ・ストーリー

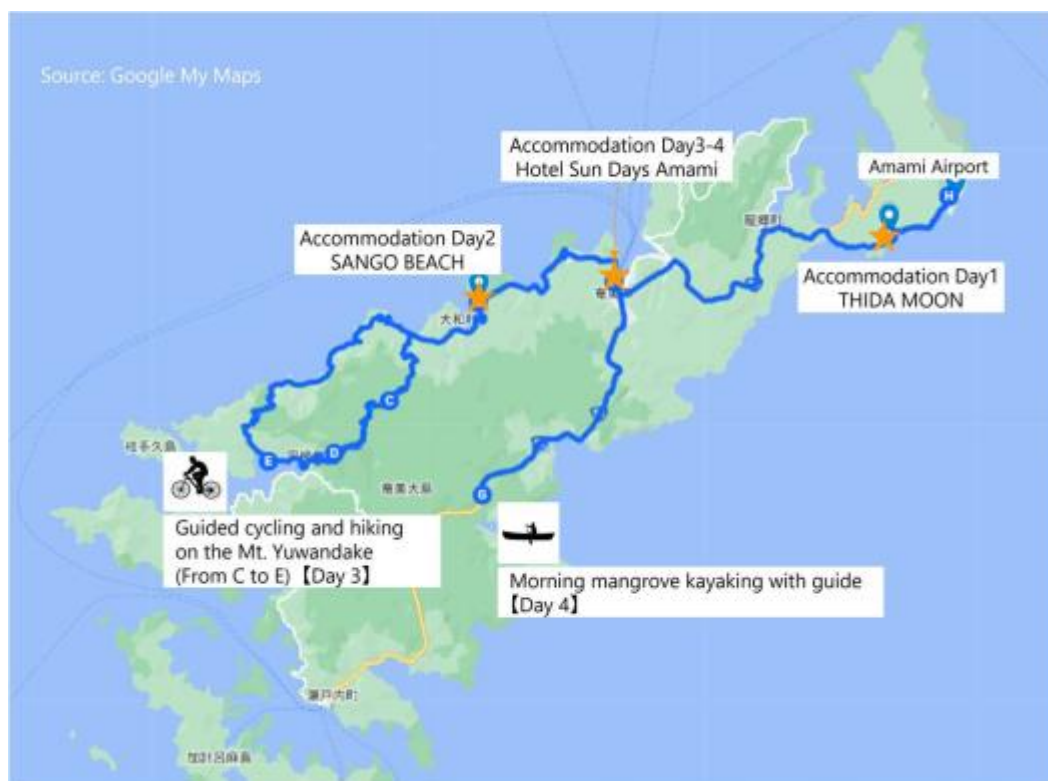
テーマ	A journey to experience many blessings and lifestyle of the World Natural Heritage Site Amami-Oshima, brought by the Kuroshio Current 黒潮がもたらす奄美大島の数々の恵みとその恵みを活かした人の暮らしを感じる旅
ストーリー	Amami-Oshima Island was registered as a Natural World Heritage Site because of its rich biodiversity. The Kuroshio Current is building the foundation of it. The current is a warm current that flows from Southeast Asia through the East China Sea to the Pacific Ocean. This tour explores the blessings of the Kuroshio Current, such as beautiful forests, mangrove forests, rare plants and animals, and experiences the lifestyle of the Amami people (Shimanchu) who live with these blessings. Please enjoy a special time to discover your own life direction and find a new purpose through experiences on these islands in harmony with nature. 豊かな生物多様性により世界自然遺産に登録された奄美大島。その基礎を築いているのが黒潮。黒潮は東南アジアから東シナ海を通り太平洋へと流れる暖流である。島の生命は、黒潮と季節風の影響による豊富な雨量と温暖な気候に支えられている。 このツアーでは、美しい森やマングローブ林、希少な動植物といった黒潮がもたらす恵みを探りながら、その恵みと共に生きる奄美の人たち（島人）のライフスタイルを体験する。 自然と共生する島々での体験を通じて、自分自身の人生の指針を見つけ、新たな目的を見出す特別な時間を楽しむ。
アクティビティ	●Day2 Oshima Tsumugi experience (Kimono dressing and mud-dyeing experience) ●Day2 Kuninao village experience (Village walking with local guide, etc.) ●Day3 Guided E-bike cycling on the Mt. Yuwandake (Main activity of this journey) ●Day3 Amami's local cuisine and "Shimauta" experience ●Day4 Morning mangrove kayaking experience with guide ●Day4 Brown sugar shochu factory tour ●Day4 Wildlife Night Tour ●2日目 大島紬体験（着付け・泥染め）、国直集落体験（シマあるき他） ●3日目 湯湾岳E-バイクツアー、奄美の郷土料理と島唄体験 ●4日目 朝のマングローブカヤック体験、黒糖焼酎工場見学・試飲、野生動物ナイトツアー（三太郎峠）

行程

行程作成にあたっては、鹿児島県・奄美群島観光協会・ガイドの方々と念入りに打合せ（現地打合せ含む）を行った。天候により行程の順番を少し入れ替えるところはあったが、予定していたコンテンツを全て実施することができた。

1日目／11月20日（水）	
時 間	予 定
15:00	奄美空港集合、ジャンボタクシーにて移動
15:30～16:00	笠利町のさとうきび畑を見ながらホテルへ
16:00	ホテルチェックイン、ウェルカムドリンク
17:30～19:30	大島紬美術館見学 、ツアーオリエンテーション、ホテルにてしゃぶしゃぶの夕食
宿泊先	奄美市（笠利）ティダムーン
2日目／11月21日（木）	
時 間	予 定
08:00	ホテルにて大島紬の織子さんが作る発酵長寿の朝食
08:30～11:00	ティダムーンにて大島紬体験（泥染め体験・工房見学・着付け体験）
12:00	ホテルチェックアウト、ホテルインスペクション実施
12:30～13:30	ティダムーンにてアラカルトのランチ、ジャンボタクシーにて移動 途中、 水間黒糖工場見学
14:30～17:00	国直（くになお）集落にてシマあるき体験・宮古崎散策 、ホテルチェックイン
18:30～20:00	ホテルにてバーベキューの夕食
20:30～21:30	名音（なおん）集落にて八月踊り体験
宿泊先	大和村（国直）民宿さんごピーチ
3日目／11月22日（金）	
時 間	予 定
07:30	ホテルにて手作り鶏飯の朝食
08:30	ホテルチェックアウト、ジャンボタクシーにて移動 途中、さとうきび由来の 開饅（ひらとみ）神社訪問
09:30～15:30	湯湾岳eバイク&トレッキングツアー （マテリアの滝～湯湾岳7合目からの往復登山～芦検公園）
15:30～16:15	芦検公園にて地元農園（徳田農園）の方との交流とおもてなし
16:15～17:30	終了後、ジャンボタクシーにて名瀬へ移動、ホテルチェックイン
18:20～20:50	なつかし家にて奄美郷土料理と島唄体験
宿泊先	奄美市（名瀬）ホテルサンデイズ奄美
4日目／11月23日（土）	
時 間	予 定
07:00	ホテル出発、ジャンボタクシーにて移動
07:30～09:30	朝のマングローブカヤック体験（ベージュ等の朝食）
09:45～10:30	奄美大島世界遺産センター、三太郎の里見学
11:00～12:00	黒糖焼酎工場見学と試飲（西平酒造）
12:00～13:00	鳥しんにてアラカルトの昼食後、ホテルへ
13:00～16:45	自由行動
16:45～19:00	ジャンボタクシーにて 野生生物ナイトツアー（三太郎峠）
19:30～21:30	酒菜屋しもちゃんにて夕食
宿泊先	奄美市（名瀬）ホテルサンデイズ奄美
5日目／11月24日（日）	
時 間	予 定
	ホテルにて朝食後、出発便に合わせ専用車にてホテル出発 ＜10:40発鹿児島行／12:30発伊丹行／14:30発羽田行（各1名）＞

ルートマップ



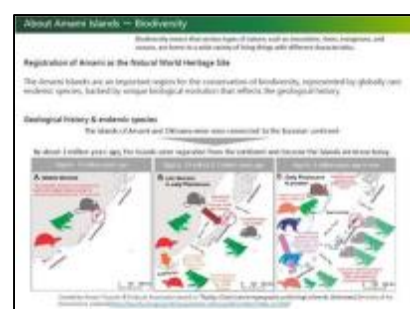
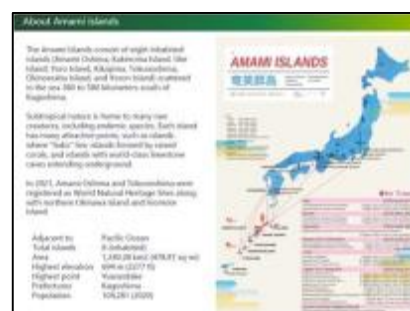
配付資料

参加者全員が奄美来訪が初めてということもあり、Minimum Information for Customers (MIC) に加え、奄美についてのインフォメーションシートも作成し、事前及び現地で配布した。

● Minimum Information for Customers (MIC) ※抜粋



● 奄美についてのインフォメーションシート※抜粋



<1日目>

●奄美空港出迎え・ホテル（ティダムーン）へ

奄美空港到着ロビーにて出迎え後、ジャンボタクシーにて移動。

奄美十景の一つであるあやまる岬でのツアーブリーフィングを計画していたが、当日の天気が晴天でなかったことや、参加者が移動や沖縄でのツアー参加後でお疲れだったことを鑑み、ホテルでのツアーブリーフィングに変更した。

ホテル（ティダムーン）への移動途中、今回のツアーコンテンツの一つである「黒糖」への伏線として笠利町のさとうきび畑をドライブと散策。16時頃ホテル到着。海を眺めながらホテルチェックインを行い、1時間程度ホテルで休憩をとった。



●手作りウェルカムボードで出迎え



●出迎えの様子



●さとうきび畑の見学



●海を眺めながらホテルチェックイン

●大島紬美術館見学・ツアーブリーフィング・夕食

夕食前に、翌日の大島紬体験への期待値を高めることを目的に、ホテル2階の大島紬美術館を見学。ホテルの方に、大島紬の由来や歴史、特徴などについての説明を行っていただいた（日本語の説明をガイドさんが英語に通訳）。

その後、ホテル1階レストランにてツアーブリーフィングを実施。MICに加え、メインガイド古株さんによるオリジナルの資料を使い、テーマやストーリー及び全体行程の説明と質疑応答を行った。全参加者がMICを事前に見てくれていたこともあり、ツアーブリーフィングはスムーズに行うことができた。

夕食は、奄味コース（創作和食）・特別島御膳（島のおもてなし料理を現代風にアレンジ）・奄美薬膳黒豚しゃぶしゃぶ・バーベキューの4種から選ぶことができたが、移動日で疲れていることや、前日の沖縄の夕食が琉球料理だったことを鑑み、食べやすい奄美薬膳黒豚しゃぶしゃぶをチョイスした。食事制限で肉を召し上がらない方は、海鮮のしゃぶしゃぶをご提供した。19:30には解散し、翌日からのツアーに備えていただいた。



●大島紬美術館見学



●ホテルにてツアーブリーフィング



●ホテルにてしゃぶしゃぶの夕食



●ホテルにてしゃぶしゃぶの夕食

<2日目-1>

●朝食・大島紬体験（泥染め）

朝食は8時から全員でセットメニューの朝食。メニューは和食と洋食から選択可能で、和食の方がツアーテーマである“長寿”に近い内容だったため和食を選択したが、洋食を食べてみたかったという声もあった。また、大島紬の織子さんが朝食を作っていることに対し、参加者の関心が高かったことが印象的だった。

その後、一度部屋に戻って大島紬体験を行う予定だったが、雨が降りそうな状況なので早めに体験を行った方がよいとのホテルからの提案を受け、先に泥染め体験を行う行程に急きょ変更した。

大島紬の職人さんによる説明を受けながら、実際に利用されている泥田を見学し、泥染めを行う素材の加工（模様付けのために紐やゴムなどを使った絞り）を行った。素材はTシャツ・ハンカチ・ストール・サコッシュの4種類から選択が可能だったが、全参加者がTシャツを選択した。

また、実際の泥染めは参加者の意向により実施せず、できあがったTシャツを後日参加者にお土産として配付した。



●大島紬の織子さんが作る発酵長寿の朝食



●実際に利用されている泥田の見学



●泥染め体験



●泥染め体験

●大島紬工房見学・大島紬体験（着付け）

泥染め体験の後、屋内に移動し、大島紬の工房見学を実施した。大島紬の職人さんによる説明を受けながら、実際の織子さんとも会話をし、大島紬の織細で複雑な製造工程についての理解を深めた。製造工程の複雑さについては英語の説明も難しく、理解は難しい様子だったが、その織細さや美しさについては理解していた様子だった。

その後、再びホテル2階の大島紬美術館に移動し、大島紬の着付け体験を行った。参加者各人にホテルスタッフが付き添い、反物の選択から着付けまで、参加者を待たせることなくスムーズに着付け体験を行うことができた。スティーブン氏は日本各地で和装体験を行った経験があるようで、強い関心を持って着付け体験を行ったことが印象的だった。

終了後、解散し1時間ほど自由時間を取り、荷物のパッキングやホテル周辺の散策を楽しんだ。



●大島紬工房見学



●大島紬工房見学



●着付け体験



●着付け体験